# 藤崎岡遺跡

－一般県道梁川猿橋線道路工事に伴う発掘調査報告書－

２０２０．９

大月市教育委員会
昭和測量株式会社

# 藤崎岡遺跡

－一般県道梁川猿橋線道路工事に伴う発掘調査報告書－

２０２０．９

大月市教育委員会
昭和測量株式会社

# あいさつ

藤崎岡遺跡は、地元では、雨の降った後に「やじりが拾える場所」として、古くから遺跡の存在が知られていた遺跡です。

今回実施した発掘調査では、多くの土器・石器といった遺物と、竪穴住居の跡が6軒確認されました。調査面積が約400㎡と小規模ながらも非常に遺構の密度が高い遺跡であるといえます。藤崎岡遺跡の存在は、この地が、縄文人が生活するうえで適した環境を備えていた地だったということを示しています。

こうした調査の積み重ねによって、郷土の歴史が復元されていき、魅力ある郷土の再発見につながるものと考えます。

藤崎岡遺跡の発掘調査報告書である本書が、本地域での歴史研究の発展のみならず、今後計画される開発事業への対応等、幅広く活用されることを期待します。

おわりに、調査の実施にあたりご協力を頂きました関係機関各位に深く感謝申し上げます。

令和２年９月

大月市教育委員会
教育長　宇野　誠

# 例　言

1. 本報告書は、山梨県大月市猿橋町藤崎 977 番地から 1024-3 番地に所在する藤崎岡遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は一般県道梁川猿橋線道路工事に先立って実施されたもので、大月市と昭和測量株式会社の間で契約し、大月市教育委員会の指導・監督・助言のもと昭和測量株式会社が発掘調査および整理作業を行った。
3. 発掘調査は令和元年 12 月 17 日～令和 2 年 3 月 13 日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は令和 2 年 3 月 14 日～令和 2 年 9 月 30 日まで実施した。
4. 発掘調査および本報告書の執筆は、

第 1 章　調査に至る経緯を稲垣自由（大月市教育委員会）、第 2 章第 1 節　藤崎岡遺跡周辺の地形・地質を輿水達司（昭和測量株式会社顧問）、第 8 章第 2 節　遺跡の立地と課題を新津健（昭和測量株式会社研究顧問）が担当し、第 3 章から第 6 章、第 8 章第 1 節と全体の編集を小谷亮二（昭和測量株式会社）が担当した。また、自然科学分析として、調査区内で採取した火山灰については上杉陽氏（都留文科大学名誉教授）に、種実・樹種同定に関しては株式会社パレオ・ラボに分析を依頼した。

遺物の実測およびトレースは、佐野香織、垣内律子、今福ともみ、藤原由香が行った。石器に関しては KEYENCE 社 VLseries 3D スキャナによる計測を行い、その画像を元に図化を行った。図化するに当たっては、先ず CUBIC 社製「遺構くん」によりデータ処理を行った後、adobe 社製 photoshop により画像処理を行った。

遺物写真は、佐野、今福が撮影を行った。

5. 本報告書で使用地図は、国土地理院発行の「大月」（1:25000）を使用した。
6. 遺跡における X、Y 座標は世界測地系座標を使用している。
7. 今回の調査で出土した石器・石材・岩石類に関しては、公益財団法人山梨文化財研究所　河西　学氏に鑑定をお願いした。櫛原功一、篠原武両氏には資料の提供、助言をいただいた。
8. 本調査における図面・写真・遺物はすべて大月市教育委員会で保管している。

# 凡　例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 水糸レベルの数字は海抜高を示し、単位はメートル (m) である。
4. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。

# 本文目次

第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の立地と歴史的環境
　第１節　藤崎岡遺跡周辺の地形・地質 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 6
第３章　調査の方法 …… 9
第４章　調査の概要
　第１節　検出状況 …… 9
　第２節　調査区の土層 …… 9
第５章　検出遺構
　第１節　住居址 …… 12
　第２節　土坑・ピット …… 14
　第３節　その他の遺構（SX） …… 14
第６章　出土した遺物 …… 30
第７章　自然科学分析
　大月市藤崎岡遺跡４号住居址第４層中の粗粒テフラ粒子の層位について …… 82
　上杉　陽（都留文科大学名誉教授）
　藤崎岡遺跡から出土した炭化種実 …… 91
　パンダリ・スダルシャン（パレオ・ラボ）
　藤崎岡遺跡出土炭化材の樹種同定 …… 93
　黒沼保子（パレオ・ラボ）
第８章　まとめ
　第１節　調査成果 …… 96
　第２節　藤崎岡遺跡の立地と課題 …… 100

引用・参考文献

# 挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　遺跡周辺の地形（「国土地理院撮影の空中写真（1948 年撮影）） …… 3
第３図　大月市周辺の地質概要 …… 4
第４図　過去の大月市付近の陸地と海洋の関係図 …… 5
第５図　丹沢山地・伊豆半島の衝突によって形成された現在の大月市付近の地質断面概念図 …… 6
第６図　周辺の遺跡分布図 …… 7
第７図　藤崎岡遺跡遺構分布図 …… 10
第８図　土層断面図 …… 11
第９図　住居址分布図 …… 15
第 10 図　１号住居址（炉址）と周辺の土坑平面図 …… 16
第 11 図　１号住居址炉平・断面図 …… 16
第 12 図　１号住居址周辺の土坑土層断面図 …… 16

第 13 図　2号住居址平・断面図 …… 17
第 14 図　2号住居址エレベーション・炉土層断面図 …… 17
第 15 図　3号住居址平・断面図 …… 18
第 16 図　3号住居址炉断面図 …… 18
第 17 図　4号住居址平・断面図 …… 19
第 18 図　4号住居址エレベーション・炉断面図 …… 19
第 19 図　5号住居址平・断面図 …… 20
第 20 図　5号住居址南北土層断面図 …… 20
第 21 図　5号住居址炉・ピット土層断面図 …… 21
第 22 図　6号住居址（炉址）平・断面図 …… 21
第 23 図　1区土坑 (SK)・ピット (pit) 分布図 …… 22
第 24 図　1区土坑 (SK)・ピット (pit) 土層断面図（1） …… 22
第 25 図　1区土坑 (SK)・ピット (pit) 土層断面図（2） …… 23
第 26 図　2区土坑 (SK)・ピット (pit) 分布図 …… 24
第 27 図　3区土坑 (SK)・ピット (pit) 分布図 …… 24
第 28 図　SK15 平・断面図 …… 25
第 29 図　3区土坑 (SK)・ピット (pit) 土層断面図 …… 25
第 30 図　その他の遺構（SX）分布図 …… 27
第 31 図　SX39 平・断面図 …… 28
第 32 図　その他の遺構（SX）の土層断面図 …… 28
第 33 図　SI1 と周辺の SK・pit から出土した遺物出土分布図（土器）（平面） …… 35
第 34 図　SI1 と周辺の SX から出土した遺物出土分布図（土器）（平面） …… 35
第 35 図　SI1 と周辺の SK・pit から出土した遺物実測図（土器） …… 36
第 36 図　SI1 周辺の pit・SK15(1) から出土した遺物実測図（土器） …… 37
第 37 図　SK15 から出土した遺物実測図（土器）（2） …… 38
第 38 図　SK15 から出土した遺物実測図（土器）（3） …… 39
第 39 図　SI1 周辺の SX から出土した遺物実測図（土器） …… 40
第 40 図　SI1 と周辺の遺構から出土した遺物出土分布図（石器・石材）（平面） …… 40
第 41 図　SI1 と周辺の遺構から出土した遺物実測図（石器・石材） …… 41
第 42 図　SI2 遺物出土分布図（土器・石器・石材）（平面） …… 42
第 43 図　SI2 から出土した遺物実測図（土器） …… 43
第 44 図　SI2 から出土した遺物実測図（石器・石材）（1） …… 44
第 45 図　SI2 から出土した遺物実測図（石器・石材）（2） …… 45
第 46 図　SI2 から出土した遺物実測図（石器・石材）（3） …… 46
第 47 図　SI3 と周辺の遺構から出土した遺物出土分布図（土器）（平面） …… 46
第 48 図　SI3 と周辺の遺構から出土した遺物実測図（土器・石材） …… 47
第 49 図　SI4 遺物出土分布図（土器・石器・石材）（平面） …… 48
第 50 図　SI4 遺物出土分布図（土器・石器・石材）（断面） …… 49
第 51 図　SI4 から出土した遺物実測図（土器） …… 50
第 52 図　SI4 から出土した遺物実測図（石器・石材） …… 51

第 53 図　SI5 遺物出土分布図（土器）（平・断面）…… 52
第 54 図　SI5 から出土した遺物実測図（土器）（1）…… 53
第 55 図　SI5 から出土した遺物実測図（土器）（2）…… 54
第 56 図　SI5（3）・SI6 から出土した遺物実測図（土器）…… 55
第 57 図　SI5 遺物出土分布図（石器・石材）（平・断面）…… 56
第 58 図　SI5 から出土した遺物実測図（石器・石材）（1）…… 57
第 59 図　SI5 から出土した遺物実測図（石器・石材）（2）…… 58
第 60 図　SI5 から出土した遺物実測図（石器・石材）（3）…… 59
第 61 図　SI6（SX38）から出土した遺物実測図（石器・石材）…… 59
第 62 図　pit・SK・SX から出土した遺物実測図（土器）…… 60
第 63 図　SX から出土した遺物実測図（土器）…… 61
第 64 図　pit・SK・SX から出土した遺物実測図（石器・石材）…… 62
第 65 図　SX から出土した遺物実測図（石器・石材）…… 63
第 66 図　調査 1 ・ 2 区から出土した遺物実測図（土器）（1）…… 64
第 67 図　調査 2 区から出土した遺物実測図（土器）（2）…… 65
第 68 図　調査 2 区から出土した遺物実測図（土器）（3）…… 66
第 69 図　調査 2 ・ 3 区から出土した遺物実測図（土器）（4）…… 67
第 70 図　調査 3 区から出土した遺物実測図（土器）（5）…… 68
第 71 図　調査区から出土した遺物分布図（石器・石材）…… 69
第 72 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（1）…… 70
第 73 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（2）…… 71
第 74 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（3）…… 72
第 75 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（4）…… 73
第 76 図　試掘調査で出土した遺物実測図（土器・石器）…… 74
第 77 図　土器集成図（早期～中期中葉）…… 98
第 78 図　土器集成図（曽利式・加曽利 E 系、後期、その他の土器）…… 99

## 表目次

表 1　周辺の遺跡地名表 …… 8
表 2　住居址計測表 …… 21
表 3　土坑計測表 …… 23
表 4　ピット計測表 …… 26
表 5　その他の遺構（SX）計測表 …… 29
表 6　土器遺物観察表（1）…… 75
表 7　土器遺物観察表（2）…… 76
表 8　土器遺物観察表（3）…… 77
表 9　土器遺物観察表（4）…… 78
表 10　土器遺物観察表（5）…… 79
表 11　石器・石材遺物観察表（1）…… 80
表 12　石器・石材遺物観察表（2）…… 81

# 写真図版目次


写真図版 1
1．調査区全景（西から）
2．調査区全景（北西から）
写真図版 2
3．調査区全景（東から）
4．調査区北側の風景（南から）
写真図版 3
5．調査区全景（上から）
写真図版 4
6．1 号住居址（上から）
7．1 号住居址（東から）
8．1 号住居址炉検出状況 1（北西から）
9．1 号住居址炉検出状況 2（東から）
写真図版 5
10.3 号住居址（左）2 号住居址（右上）（上から）
11.2 号住居址検出状況（東から）
12.2 号住居址内 SK27 上層出土状況（北から）
13.2 号住居址内 SK27 下層出土状況（北から）
写真図版 6
14.2 号住居址炉（SK29）出土状況（西から）
15.2 号住居址炉（SK29）出土状況（北から）
16.2 号住居址内 SK30 出土状況（南から）
17.2 号住居址炉（SK29）完掘（北から）
18.3 号住居址検出状況（西から）
写真図版 7
19.3 号住居址炉（SK37）土層断面（東から）
20.3 号住居址炉（SK37）完掘（南東から）
21.4 号住居址（上から）
写真図版 8
22.4 号住居址検出状況（西から）
23.4 号住居址出土状況（東から）
24.4 号住居址炉土層断面（南から）
25.4 号住居址炉内遺物出土状況（北東から）
写真図版 9
26.4 号住居址炉検出状況（東から）
27.4 号住居址検出状況（北から）
28.4 号住居址完掘（北西から）
29.4 号住居址内 P4 土層断面（東から）
30.4 号住居址炉完掘（東から）
写真図版 10
31.5 号住居址（上から）
32.5 号住居址南北ベルト土層断面（南西から）
写真図版 11
33.5 号住居址遺物出土状況（全体）（西から）
34.5 号住居址遺物出土状況 1（東から）
35.5 号住居址遺物出土状況 2（東から）
36.5 号住居址遺物出土状況 3（東から）
37.5 号住居址遺物出土状況 4（東から）
写真図版 12
38.5 号住居址遺構検出状況（北東から）
39.5 号住居址 P1 土層断面（東から）
40.5 号住居址 P4 土層断面（南西から）
41.5 号住居址 P3 土層断面（東から）
42.5 号住居址炉土層断面（東から）
写真図版 13
43.5 号住居址検出状況（南東から）
44.6 号住居址炉 (SX38) 炉石検出状況
（北東から）
45.6 号住居址炉 (SX38) 土層断面（東から）
46.6 号住居址炉 (SX38) 完掘（東から）
写真図版 14
47.SK15 上層出土状況（北から）
48.SK15 下層出土状況（北東から）
写真図版 15
49.SK15 最下層出土状況（北から）
50.SK15 土層断面（北から）
写真図版 16
51.SK7 土層断面（東から）
52.SK7 出土状況（東から）
53.SK21 土層断面（北から）
54.SK21 出土状況（西から）
55.SX39 出土状況 1（西から）
56.SX39 出土状況 2（北から）
57.SX39 下層出土状況（南から）
58.SX39 土層断面（南から）
写真図版 17
59.SX39 最下層出土状況（南から）
60.SX39 最下層出土状況（北から）

61.pit19 土層断面（南から）
62.pit19 出土状況（東から）
63.SX1 土層断面（西から）
64.SX7 土層断面（南から）
65.SX11,10,9 土層断面（西から）
66.SX12、21 土層断面（西から）
67.SX13 土層断面（西から）
68.SX15 土層断面（東から）
写真図版 18
69.SX16 土層断面（東から）
70.SX17 土層断面（東から）
71.SX21 土層断面（西から）
72.SX24 土層断面（東から）
73.SX43 土層断面（東から）
74.SX25 土層断面（東から）
75. 調査区北壁土層断面（南から）
写真図版 19
76. 調査区西壁 4 号住居址付近土層断面（東から）
77. 調査区西壁最南土層断面（東から）
78. 調査区南壁土層断面（北東から）
写真図版 20
79. 遺物写真（1）
写真図版 21
80. 遺物写真（2）
写真図版 22
81. 遺物写真（3）
写真図版 23
82. 遺物写真（4）
写真図版 24
83. 遺物写真（5）
写真図版 25
84. 遺物写真（6）
写真図版 26
85. 遺物写真（7）
写真図版 27
86. 遺物写真（8）
写真図版 28
87. 遺物写真（9）
写真図版 29
88. 遺物写真（10）
写真図版 30
89. 遺物写真（11）
写真図版 31
90. 遺物写真（12）
写真図版 32
91. 遺物写真（13）
写真図版 33
92. 遺物写真（14）
写真図版 34
93. 遺物写真（15）
写真図版 35
94. 遺物写真（16）

# 第1章　調査に至る経緯

藤崎岡遺跡の発掘調査は、山梨県が計画した一般県道梁川猿橋線の道路改良工事に伴う調査である。一般県道梁川猿橋線は、一部区間の道幅が狭く、乗用車のすれ違いが困難な個所があるため、山梨県は単に道幅を拡幅するのではなく、すれ違いが困難な一部区間を避けたバイパスの新設を計画した。この新設される道路の区間に藤崎岡遺跡が該当していたため、山梨県富士・東部建設事務所と大月市教育委員会は、文化財保護に関する協議を行い、埋蔵文化財の状況を確認するため試掘調査が実施されることになった。これに伴い、山梨県富士・東部建設事務所は文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を平成31年2月1日付にて山梨県教育委員会教育長へ提出した。

試掘調査は大月市教育委員会によって、平成31年3月19日から平成31年3月27日の期間において実施された。調査の結果、縄文時代中期に属す土器・石器と、竪穴住居が2軒確認されたため、現地にて発掘調査を行い、遺跡を記録保存する必要があると判断された。調査の範囲は、道路建設予定地内で土器・石器が出土し、竪穴住居が確認された約400㎡を対象として設定された。

発掘調査は、山梨県の調査委託を受けて大月市教育委員会が実施することになり、大月市教育委員会は昭和測量株式会社に調査を委託した。大月市教育委員会は、令和元年11月28日に契約を締結、契約期間は当初、令和元年11月29日から令和2年3月31日を予定したが、その後令和2年9月30日まで延長した。現地での調査は令和元年11月29日から着手し令和2年3月13日まで実施、調査終了後は昭和測量株式会社文化財調査課埋蔵文化財整理室（笛吹市石和町）に出土遺物および調査記録図面等を移して整理作業と報告書執筆作業が実施された。なお、委託業務名は「県道梁川猿橋線道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」である。

# 第2章　遺跡の立地と歴史的環境

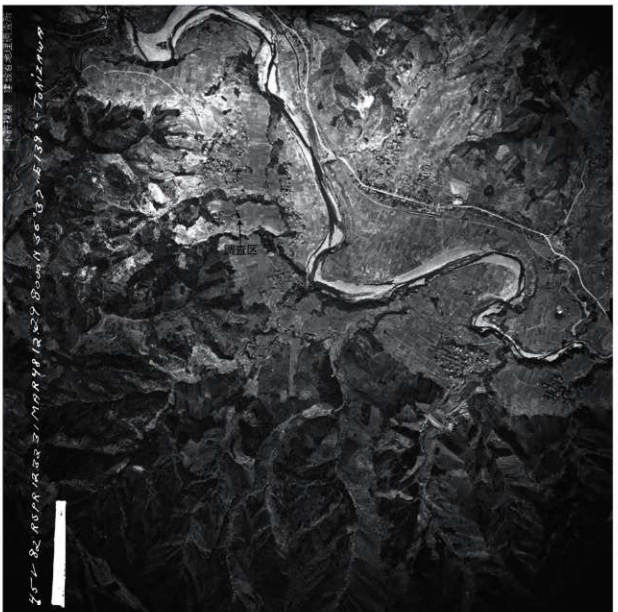
## 第1節　藤崎岡遺跡周辺の地形・地質

### はじめに

大月市藤崎岡遺跡は、山中湖や忍野八海などに端を発し流れ下る桂川沿いの右岸の段丘上に位置している。この藤崎岡遺跡付近を流れる桂川の河床には、礫岩が多く観察される。さらにこのような礫岩は、桂川の河床のみならず桂川沿いの陸上部の各所に、たとえば大月駅北方の岩殿山などにも淘汰の良い円礫としてその分布が広く認められ、この地域に特徴的な礫岩（層）である。これら礫岩のうち前者は、富士火山の活動以降の概ね数万年前以降における最近の時代に形成されたものである。一方、後者の礫岩は数百万年前に遡る時代のものと考えられている。礫岩以外にも当地域一帯には、古くは中生代に遡る時代の地層や、また近い過去の今から8000年前頃に流れた猿橋溶岩など、藤崎岡遺跡周辺には多様な時代にわたってもたらされた岩石や地層が分布しており、遺跡の生活様式と石材の関係を考えるうえで、この地域周辺の地形・地質の変遷情報は重要と思われる。

特に数百万年前の礫岩については、かつてこの付近から南側に海洋として広がっていた当時の海底に堆積したものである。この海底堆積物が、現在では陸上部に見られるわけであり、この変遷を理解するためには海底堆積物を地表部まで押し上げる力が必要となる。この力が働く基本的な仕組みとして、丹沢山塊や伊豆半島の日本列島側への衝突という地質学現象で説明される。そこで、藤崎岡遺跡周辺の地形や地質については、この付近に特徴的に認められる礫岩が当初には海底に堆積した点と、その後にこ

S=1/25000　　第１図　遺跡位置図



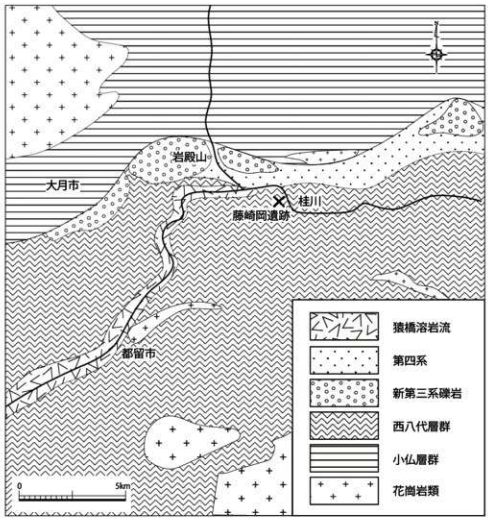

第２図　遺跡周辺の地形（「国土地理院撮影の空中写真（1948 年撮影）」）

の海底堆積物が陸上部に押し上げられた点を、順を追って歴史科学的に辿って理解するのが望ましいと思われ、以下にこの概要を報告する。

山梨県東部域の地質概要と海洋底堆積物の形成

大月市付近を中心とした山梨県東部域の地質は、大月駅付近から東に流れる桂川を境にして南・北両側に大別してみると、その北側を構成する地質として中生代末から新生代初期にわたる時代に形成された砂岩、頁岩、粘板岩等からなる小仏層群（広義の四万十層群に対応）が主体をなし、一方その南側の地質として新第三紀中新世頃に形成された安山岩～玄武岩質の火山岩・角礫凝灰岩等（＝古くはグリータフと呼称された）からなる西八代層群（広義の丹沢山塊に含まれる）が主体となる（第３図）。このように、大月市付近においては、北側の地質の方が、その南側の地質に比べて形成年代は明らかに古い。

そして、この古い地質の小仏層群（＝四万十層群）はその分布が広く、日本列島の太平洋側に九州（沖

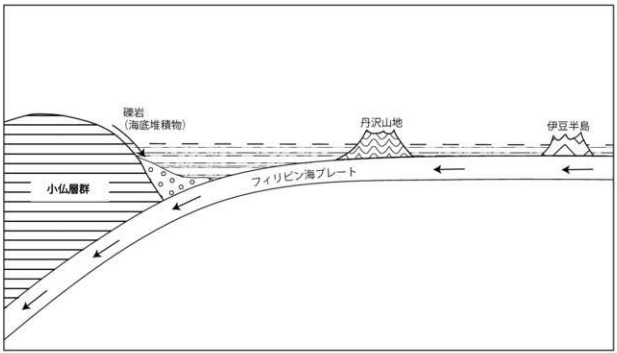



第３図　大月市周辺の地質概要（山梨県地質図編纂委員会,1970 を基に作成）

縄を含む）から関東まで連続して追跡でき、しかもその堆積作用が進んだ当時は海底であった。つまり、海底堆積物である。この堆積物が、太平洋側から（当時の）日本列島に向かって水平移動する作用によって、当時の日本列島の太平洋側一帯の縁に小仏層群（四万十層群）として付加された。付加された小仏層群は、その南から継続して押し寄せる海洋プレートによって陸域化した。このように大月市付近の小仏層群は、実は日本列島の陸域側の縁を構成する地層群として位置し、陸域化した当時（数百万年前）にはその南側には海洋が発達し、この海洋プレートの上には、現在の大月市付近に認められる西八代層群（丹沢山地）が、かつては遥か南の海に分布していた（第４図）。そして、この海洋プレートは小仏層群の前面で斜めに方向を変え地球内部に潜り込み、潜り込む過程で海洋域には現在の南海トラフのような凹みが生じた（第４図）。この凹みに、その北側に分布していた小仏層群の地層が侵食・運搬そして堆積したのが、現在の岩殿山などを構成する礫岩層である。要するにこの礫岩層は、当時の日本列島と丹沢山地の間の海に堆積した海洋堆積物ということになる。

### 丹沢山地・伊豆半島の衝突とその変遷

前述したように、大月駅付近から東流する桂川沿いは、数百万年前の時代には、この場所が日本列島の縁であり、その南側には海洋が広がっており、この海洋においては、フィリピン海プレートに丹沢山地（＝西八代層群）や伊豆半島が載っていた。そして、このフィリピン海プレートは当時の日本列島の縁から




第４図　過去の大月市付近の陸地と海洋の関係図

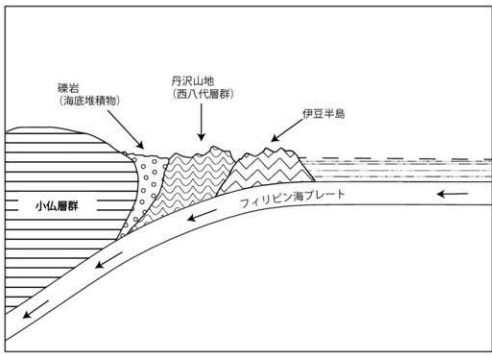
地球内部に向かって、プレートの沈み込みが進行していた、ということになる。沈み込むプレート上に載る大きなイボ（丹沢山地や伊豆半島）は、そのサイズが大きいため地球内部には潜り込めず、当時の日本列島の縁に付加された。

この仕組みと変遷を整理すると、概ね 500 万年前（～ 600 万年前）には丹沢山地が日本列島に衝突し、その後の今から 100 万年前に伊豆半島が衝突したと一般に考えられている（平 , 1990 など）。一連のこうしたプレートの水平運動によって、大月市付近の小仏層群から供給された海底堆積物は陸域に押し上げられ、さらに引き続くプレートの動きでその南に位置していた丹沢山地（＝西八代層群）も陸域に押し上げられた、という仕組みである。このようなフィリピン海プレートの動きによって、当時の日本列島の縁には海側（太平洋側）に向かって順次地層が付加され、結果として現在われわれはこの地質の配置を見ていることになる（第５図）。

### 藤崎岡遺跡付近の地形・地質のまとめ

大月市藤崎岡遺跡付近の地質概要として、北側には小仏層群が、南側には西八代層群が分布し、その境界付近には海底堆積物の礫岩層が分布している。このような地質配置は今から数十万年前までにその骨格が形成され、それ以降の最近における 10 万（～ 20 万）年間の時代には、富士山の活動に伴って生じた地形・地質の変遷が加味されることになる。

大月市付近における地形・地質として、富士山の活動以降で重要な点は、桂川の形成である。つまり、富士火山の活動以前には、大月市付近から当時の南の海に流れていた河川の流れが行き場を失い、流れの向きが変わった（奥水 , 2016）。この要因としては、富士火山活動によって誕生した富士山の山体の存在であり、これが当時の南に向かう川の流れに障害をもたらした。その結果、川の流れが複雑になった。具体的に相模川上流域の桂川の源流部から辿ってみると、最初は山中湖付近から西に流れ、富士吉田付近から概ね北に向かい流れ大月付近で向きを東に変え、相模湖付近で南に流れを変え、最終的には平塚市付近で太平洋側に流れ込む、といった複雑に屈曲した水系を形成したのである。この水系は本邦の多




第５図　丹沢山地・伊豆半島の衝突によって形成された現在の大月市付近の地質断面概念図

くの河川の流れとは、その屈曲の頻度の点で大きく違うものである（奥水，2016）。そして、この桂川の河川の谷に、桂川上流部からの運搬・堆積作用によって藤崎岡遺跡付近にも河岸段丘が形成された。さらに、この桂川の谷筋に沿って富士火山の最大級の噴火活動として猿橋溶岩が約 8000 年前に流動・運搬された。この分布の末端が、藤崎岡遺跡のすぐ近くに認められる（第３図）。

以上のように、長い地質時代にわたって造られた地形と地質が藤崎岡遺跡付近を構成している。

文献

奥水達司（2016）富士山をめぐる水循環、第 26 回環境地質学シンポジウム論文集、97-100.
平　朝彦（1990）日本列島の誕生、岩波新書、226p.
山梨県地質図編纂委員会（1970）山梨県の地質図 .

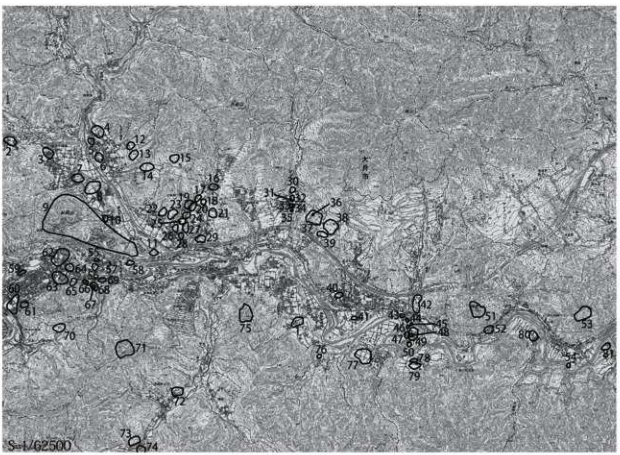
## 第２節　歴史的環境（第６図・表１）

大月市を東に向かって流下する桂川の河岸段丘やその周辺には数多くの遺跡が分布している。大月市の遺跡は、縄文時代の遺跡が群を抜いて多く、調査が行われている遺跡では大きな成果が得られている。

今回調査を行った藤崎岡遺跡は、山梨県遺跡地図（山梨県教育委員会）では調査区の、道路を挟んで東側（桂川方向）に延びる河岸段丘上が登録されており、土地所有者によれば以前から土器片が出土することで知られていた。今回の調査によりその範囲は西側に延びたこととなる。

以下、遺跡分布図で示した中で縄文時代遺跡について紹介する。

**８岩殿中倉遺跡**は葛野川右岸の緩やかな中位段丘上に位置している。昭和 48 年に調査は行われた。遺構は小竪穴が４基検出されている。遺物は早期、前期、中期の土器片、石器は打製石斧、礫器、磨石、スクレイパー（石匙も含む）、石鏃、錐状石器が出土している。**11 太田ヶ原遺跡**は岩殿山東麓に続く舌状台地に位置している。平成８～９年に調査は行われた。平安時代の集落跡が中心であるが、縄文時代の落とし穴が検出されている。遺物は前期、中期の土器片、土偶、石鏃、石斧が出土している。33




第6図　周辺の遺跡分布図

～35宮谷遺跡群は百蔵山南麓の河岸段丘上の東端部に位置している。昭和47年に調査は行われた。石囲炉をもつ住居址が1軒検出され、遺物は縄文時代中期曽利Ⅲ式期の埋甕、石棒、炭化クルミが出土している。なお、昭和40年の中央自動車道考古学調査団による調査では縄文時代草創期、早期、中期、後期の土器片が出土している。60大月遺跡は桂川と笹子川の合流地点に近い低位段丘上の西端に位置している。昭和12（1927）年の第1次調査に始まって平成26（2015）年まで11次の調査が行われている。調査の結果、縄文時代中期～後期、奈良～平安時代にかけて形成された集落跡であることが判明した。縄文時代の成果としては第5・6次調査で敷石住居、2・5・6・7・10次調査では配石遺構が検出されている。遺物は縄文時代中期から後期の土器、土製品、打製石斧、磨製石斧、石鏃、石皿等の石器が出土している。66御所遺跡は桂川右岸の段丘面東端に位置している。平成7（1995）年に調査が行われた。縄文時代の遺構は竪穴状遺構2軒、焼土遺構、土坑、ピットが検出されている。遺物は遺構からは縄文時代中期中葉の新道式、藤内式、井戸尻式が主に出土し、遺構外からは縄文時代早期～晩期まで幅広い時期の土器が、石器は打製石斧、磨製石斧、石鏃、磨石等が出土している。81塩瀬下原遺跡は桂川に沿って形成された中位河岸段丘上に位置する。調査は平成7（1995）・8（1996）・9（1997）年と平成10～11（1998～1999）年（第4次調査）に行われた。第1次～第3次調査では、縄文時代の楕円形敷石住居址を含む住居址11軒の他、土坑、集石土坑、配石が検出されている。遺物は中期中葉から後期中葉の土器と、打製石斧、石棒、磨石等の石器が出土している。第4次調査では十字型の敷石をもつ敷石住居1軒、配石遺構、焼土遺構、土坑が検出されている。遺物は早期押型文土器から前期、中期、後期、晩期浮線文系土器まで、石器は打製石斧、磨製石斧、石皿、石棒、磨石、石鏃等が出土している。

# 表１　周辺の遺跡地名表

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 1 | 藤崎岡遺跡 | 縄文時代中期 | 集落 |
| | 藤崎岡１遺跡 | 縄文時代、弥生時代 | 散布地 |
| | 藤崎岡２遺跡 | 縄文時代、弥生時代 | 散布地 |
| | 藤崎岡３遺跡 | 縄文時代、弥生時代 | 散布地 |
| | 藤崎岡４遺跡 | 縄文時代、弥生時代 | 散布地 |
| 2 | 日影遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 3 | 畑倉ヤスバ遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 4 | 葛野小泉遺跡 | 縄文時代早・前・中・後期、平安時代 | 散布地 |
| 5 | 沖平遺跡 | 縄文時代早期 | 散布地 |
| 6 | 七保中学校校庭遺跡 | | 散布地 |
| 7 | 木戸狩遺跡 | 縄文時代中・後期 | 散布地 |
| 8 | 岩殿中倉遺跡 | 縄文時代早・中期 | 散布地 |
| 9 | 岩殿城跡 | 中世 | 郡城跡 |
| 10 | 円通寺跡 | 平安、中世、近世 | 郡城跡 |
| 11 | 太田ヶ原遺跡 | 縄文時代、弥生時代、平安時代 | 集落 |
| 12 | 正原１遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 13 | 正原２遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 14 | 太田１遺跡 | 縄文時代早・前・中期 | 散布地 |
| 15 | 太田２遺跡 | 縄文時代、古墳時代 | 散布地 |
| 16 | クワド遺跡 | 縄文時代早・中期 | 散布地 |
| 17 | 東梨木戸１遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 18 | 東梨木戸２遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 19 | 寺原２遺跡 | 縄文時代早・中・後・晩期 | 集落 |
| 20 | 西梨木戸遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 21 | 東井尻原遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 22 | 大境遺跡 | 縄文時代前・中期 | 散布地 |
| 23 | 花輪遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 24 | 寺原１遺跡 | 縄文時代中期・後期、奈良 | 集落 |
| 25 | 下畠遺跡 | 縄文時代前・中・後期 | 散布地 |
| 26 | 和田原遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 27 | 八幡２遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 28 | 八幡１遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 29 | お弥ガ遺跡 | 縄文時代中期 | 散布地 |
| 30 | 宮谷洋山遺跡 | 縄文時代 | 集落 |
| 31 | 金山遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 32 | 宮谷金山古墳 | 古墳時代 | 古墳 |
| 33 | 宮谷３遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 34 | 宮谷２遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 35 | 宮谷１遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 36 | 八幡塚古墳 | 古墳時代 | 古墳 |
| 37 | 袴着遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 38 | 宮ノ上１遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 39 | 宮ノ上２遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 40 | 寺向遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 41 | 人倉遺跡 | 縄文時代、平安時代 | 散布地 |
| 42 | 芹ガ井戸遺跡 | 縄文時代、平安時代 | 散布地 |
| 43 | 堀の内１遺跡 | 縄文時代 | 集落 |
| 44 | 堀の内２遺跡 | 縄文時代 | 集落 |
| 45 | 堀の内３遺跡 | 縄文時代 | 集落 |
| 46 | 堀の内４遺跡 | 縄文時代 | 集落 |
| 47 | 堀の内５遺跡 | 縄文時代 | 集落 |
| 48 | 鎌田氏館跡 | 中世 | 館跡 |
| 49 | 大鵜遺跡 | 縄文時代、平安時代 | 散布地 |
| 50 | 南堀之内遺跡 | 奈良時代 | 集落 |
| 51 | 斧窪御前山 | | 城館跡 |
| 52 | 斧窪腰遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 53 | 鯛之上御前山 | | 城館跡 |
| 54 | 鯛之上遺跡 | 縄文時代、平安時代 | 散布地 |
| 55 | 御所平遺跡 | | 散布地 |
| 56 | 西畑遺跡 | 縄文時代、平安時代 | 集落 |
| 57 | 強瀬子ノ神古墳 | 古墳時代 | 古墳 |
| 58 | 安楽寺東遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 59 | 天神遺跡 | 縄文時代、弥生時代、古墳時代 | 散布地 |
| 60 | 大月遺跡 | 縄文時代、奈良時代、平安時代 | 集落 |
| 61 | 献上地遺跡 | 平安時代 | 散布地 |
| 62 | 四本木遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 63 | 妥婦屋敷 | 中世 | 城館跡 |
| 64 | 柳田遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 65 | 延命寺遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 66 | 御所遺跡 | 縄文時代、平安時代 | 集落 |
| 67 | 丹後屋敷（殿沿屋敷） | 中世 | 城館跡 |
| 68 | 清水入遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 69 | 中堀遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 70 | 地蔵窪遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 71 | 駒橋御前山 | 中世 | 城館跡 |
| 72 | 下小沢遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 73 | むらさき遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 74 | 御庄小沢遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 75 | 猿橋の城山 | 中世 | 城館跡 |
| 76 | 津成遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 77 | 小籐遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 78 | 下畑下原遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 79 | 下畑本郷遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 80 | 立野遺跡 | 縄文時代 | 散布地 |
| 81 | 塩瀬下原遺跡 | 縄文時代 | 集落 |

# 第3章　調査の方法

重機による表土掘削後、人力による遺物包含層掘削および遺構の検出作業を行った。

遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC 社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」を使用した。「遺構くん」により作成した図面および補正した写真測量写真は adobe 社製「illustrator2020」により全体図、個別図、土層断面図を作成した。

出土した遺物は、調査区の地形等により北から1区～3区に区分（第7図）し、表土・遺物包含層の遺物の取り上げを行った。遺構に係る遺物はトータルステーションシステムにより位置を計測し取り上げを行った。

使用システム

トータルステーション　TOPCON SOKIA CX-105

電　子　平　板　Panasonic TOUGHBOOK CF-19

遺構実測支援ソフト　CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応

# 第4章　調査の概要

## 第1節　検出状況（第7図）

今回の調査では、住居址6軒（内炉址2軒）が検出された。その他、土坑35基、ピット131基、SX（東西方向に延びる溝状遺構）44条（基）が検出された。土坑、ピットに関しては遺構毎通し番号とした。住居址を構成する柱穴も含まれる。

1区は表土から遺構確認面まで深く削平も受けていないため、検出された2軒の住居址は比較的良好な状態で残されていた。2区は表土から遺構確認面まで比較的浅く、東西に延びる溝状遺構（性格が不明なため SX とした。以下 SX）は特に多く31条（基）検出された。住居址は3軒（内炉址1軒）が検出され、1軒は SX に切られており炉址のみの検出となった。3区は表土から遺構確認面まで非常に浅い。特徴としてピットが総検出数の半数以上の71基が検出された。住居址は2区同様に SX により切られているため炉址1軒の検出である。

## 第2節　調査区の土層（第8図）

調査区は、桂川右岸の河岸段丘上に位置しており、桂川に向かい南から北、西から東に傾斜している。

1. 表土

2.10YR2/3 暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。客土。

3.10YR2/3 暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。径2～5mm 大レキ3%、スコリア3%を含む。

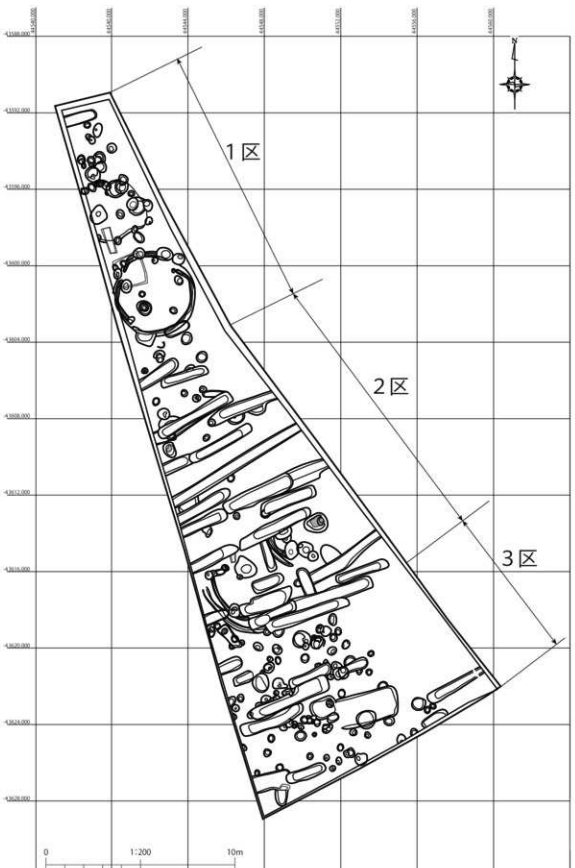
4a. 10YR2/3 暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。径2～5mm 大レキ2%、スコリア5%を含む。

4b.10YR2/3 暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。径2～5mm 大レキ2%、スコリア7%を含む。スコリア集積層。

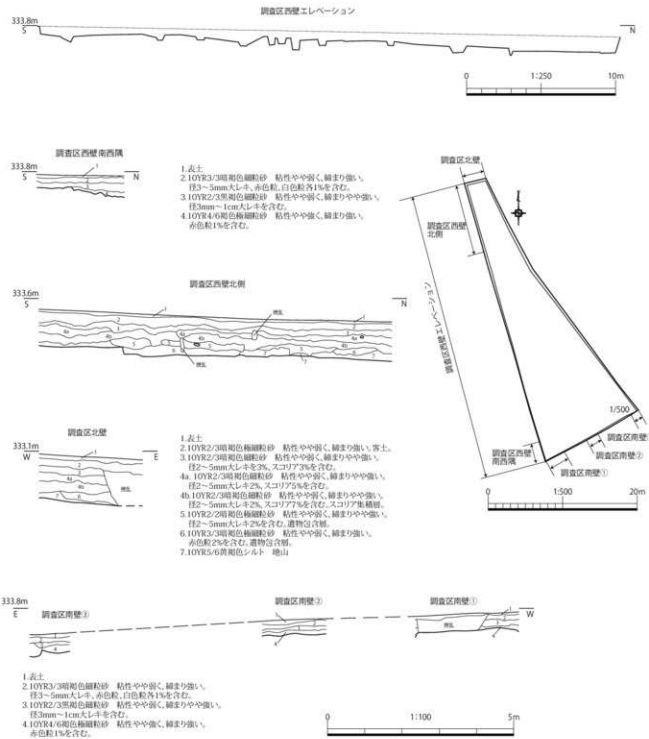
5.10YR2/2 暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。径2～5mm 大レキ2%を含む。遺物包含層。

6.10YR3/3 暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。赤色粒2%を含む。遺物包含層。

7.10YR5/6 黄褐色シルト　地山




第７図　藤崎岡遺跡遺構分布図


調査区西壁エレベーション
333.8m
S
N
0
1:250
10m
調査区西壁南西隅
333.8m
S
N
1.表土
2.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。
径3～5mm大レキ、赤色粒、白色粒各1%を含む。
3.10YR2/3黒褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
径3mm～1cm大レキを含む。
4.10YR4/6褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
赤色粒1%を含む。
調査区西壁北側
333.6m
S
N
調査区北壁
調査区西壁北側
調査区西壁エレベーション
調査区西壁南西隅
調査区南壁③
調査区南壁②
調査区南壁①
1/500
0
1:500
20m
調査区北壁
333.1m
W
E
1.表土
2.10YR2/3暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。客土。
3.10YR2/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
径2～5mm大レキ2%、スコリア3%を含む。
4a. 10YR2/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
径2～5mm大レキ2%、スコリア5%を含む。
4b.10YR2/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
径2～5mm大レキ2%、スコリア7%を含む。スコリア集積層。
5.10YR2/2暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
径2～5mm大レキ2%を含む。遺物包含層。
6.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。
赤色粒2%を含む。遺物包含層。
7.10YR5/6黄褐色シルト　地山
333.8m
E
W
調査区南壁③
調査区南壁②
調査区南壁①
1.表土
2.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。
径3～5mm大レキ、赤色粒、白色粒各1%を含む。
3.10YR2/3黒褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
径3mm～1cm大レキを含む。
4.10YR4/6褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
赤色粒1%を含む。
0
1:100
5m
土層断面図

第8図　土層断面図

# 第5章　検出遺構

## 第1節　住居址（第9～22図、表2）

6軒(SI1 ～ SI6)検出された。1号住居址(SI1)・6号住居址(SI6)は炉址のみである。調査区は南から北、西から東に傾斜しているため SI1 と SI4 の検出面は約 1m の標高差がある。

SI1 や SI6 は攪乱を受けているため住居範囲は不明であるが、仮に規模を4～ 5m と推定して円で囲むと、ほぼ調査区全面に住居址が広がっていることが分かる（第9図）。しかし、後述するように出土している土器の時期は異なっているため同時期に並存している可能性は低い。

①1号住居址（SI1）（第 10・11図）

3区で検出された。表土から遺構確認面まで約 40cm と浅いため、後世の削平や東西に走る溝（以下 SX）による影響が著しい。炉石に使用されたと思われる方形に整形された溶岩と、炉を切っている SX12 の壁面に焼土が検出されたため住居址の炉と判断した。周溝は検出されなかった。周囲には多数のピットや土坑が検出されているが SI1 との関連性は断定できない。

炉（第 11図）は、SX12 によって切られており SX12 の壁面に焼土が検出された。東西 0.55m、南北方向の検出された径は 0.28m、深さは 0.13m を測る。焼土上には炉石と思われる方形の溶岩2点が並んで直立して検出された。それぞれ長径 20cm、短径 17cm、厚さ 5cm、長径 15cm、短径 17cm 厚さ 9cm を測る。炉石には被熱した痕跡が残されていた。

周辺から柱穴と断定は出来ないが、規模の大きい土坑が検出されておりここで記述する（第 12図）。SK1 は長軸 1.0m、短軸 0.9m、深さは 0.67m、SK 9は長軸 0.95m、短軸 0.87m、深さは 0.32m、SK11 は長軸 1.04m、短軸 0.93m、深さは 0.59m を測る。

遺物は、炉周辺や土坑内から出土しているがいずれも破片である。

②2号住居址（SI2）（第 13・14図）

2区で検出された。1号住居址同様 SX や後世の削平を受けたことにより炉から東側は検出されない。住居施設は炉、周溝と配石状の石を上面に配置する土坑が検出された。規模は住居址の南西側で検出された周溝端から炉の北東の端まで約 4m を測る。西側の土坑と炉を結ぶ方位は N-41° -E を指している。

炉は焼土が厚く堆積しており長い期間使用されていたと思われる。炉の規模は長軸 0.76m、短軸 1.03m、深さは 0.68m を測る。炉石は検出されなかったが、焼土上面から石と土器が出土している。石は炉から抜き取られた可能性がある。

周溝は西側で検出された。2重で検出されたことから作り替えの可能性が考えられる。南北の周溝は SX の影響、東側の周溝は削平されているため検出されないと思われる。

住居址内で検出された土坑の規模は、SK27 は長軸 0.94m、短軸 0.92m、深さは 0.34m、SK28 は長軸 1.22m、短軸 0.74m、深さは 0.31m、SK30 は長軸 1.22m、短軸 0.70m、深さは 0.47m を測る。

SK27 は明確に配石されている。土器は伴わない。SK28 からは球体の石、SK30 からは溶岩が出土している。

住居址内で検出した pit128 は SK28 に、pit136 は SK41 に切られている。pit128 の規模は長軸 0.55cm、短軸 0.51cm、深さは 0.50cm、pit136 は長軸方向と思われる検出された規模は 0.26cm、短軸 0.48cm、深さは 0.27cm を測る。柱穴と考えると、pit128 は SK28 より新しい段階の住居の柱穴と考えられ、pit136 は SK41 より古い。

③3号住居址（SI3）（第 15・16図）

2区で検出された。住居址の南北・東側は SX および2号住居址で切られているため検出されない。

住居址の施設は炉、周溝、柱穴が検出された。現存している規模は、最大径で約4mを測る。軸は、炉と西側のP1(SK39)を結ぶ線でN-16°-Eを指している。周溝は西側で2条検出されたことからSI2同様作り替えの可能性が考えられる。柱穴は2基検出された。P1(SK39)は長軸0.70m、短軸0.54m、深さは0.59m、P2(pit134)は長軸0.38m、短軸0.35m、深さは0.72mを測る。炉は焼土が堆積していた。残存している炉石は元位置にあるかは断定できない。長軸1.13m、短軸0.99m、深さは0.40mを測る。

遺物は炉および周辺で破片が出土している。

④4号住居址（SI4）（第17・18図）

1区で検出された。西側は調査区外に延びている。推定規模は、南北方向3.21m、東西方向の検出された規模は2.71m、検出された深さは遺構確認面から床面まで0.28mを測る。炉石の向きや西側の炉石の焼け方から入口を東方向とすると軸はN-49°-Eを指している。住居址の施設は、6基の柱穴と周溝、石囲炉と炉の周囲に硬化面が検出された。

柱穴は、P1(pit123)は長軸0.40m、短軸0.33m、深さ0.17m、P2(pit102)は長軸0.41m、短軸0.38m、深さ0.17m、P3(pit125)は長軸0.33m、短軸0.29m、深さ0.28m、P4(pit86)は0.39m、短軸0.28m、深さ0.29m、P5(pit103)は西側は調査区外に延びており東西の検出された長さは0.21m、短軸0.34m、深さ0.24mを測る。

遺物は曽利古段階に属する土器、石器は石皿、多孔石、石鏃、磨石が出土している。

石囲炉は4つの石で構成されている。位置は中央より西側と思われる。西の炉石は長さ45cm、幅34cm、厚さ16cm。被熱の影響で内側が真っ赤に変色しておりボロボロな状況であった。南の炉石は長さ53cm、幅29cm、厚さ13cm、被熱のため割れていた。東の炉石は長さ48cm、幅23cm、厚さ13cm、北の炉石は長さ54cm、幅25cm、厚さ9cmである。石材は南北と西側が花崗岩、東の炉石は礫岩である。炉に関係する遺物は北と東の炉石の間に磨製石斧、炉内の焼土上から土器片、敲石が出土している。

⑤5号住居址（SI5）（第19・20・21図）

1区で検出された。規模は4.3mのほぼ円形である。遺構確認面から床面までの深さは0.28mを測る。主軸はN-27°-Eを指している。住居址の施設は柱穴5基、炉、周溝が検出された。

柱穴は、P1(pit110)は長軸0.34m、短軸0.30m、深さ0.24m、P2(pit109)は長軸0.51m、短軸0.38m、深さ0.41m、P3(pit108)は長軸0.36m、短軸0.34m、深さ0.23m、P4(pit104)は西側は調査区外に延びており東西の検出された長さは0.36m、短軸0.27m、深さ0.61m、P5(SK32))は長軸0.68m、短軸0.54m、深さ0.32mを測る。

住居址の東端からは柱状の花崗岩が出土した。明確な掘方は無かったが床面から0.16m埋まっていた。風化により脆く崩れたが、残っていれば床面から推定で10cm以上は有ったと思われる。住居址の入口に置いた可能性が考えられる。

炉は想定した入口に対して奥側（南西側）に位置している。炉石は検出されなかった。炉中から厚く堆積した焼土が検出された。

遺物は柱状の花崗岩周辺でやや大きめの破片と、炉の東側で南北方向に延びる土器片、石（石器）がまとまって出土した。土器は接合の結果ほぼ完形品となった。土器片の下からピットが検出されている。

⑥6号住居址（SI6）（第22図）

2区で検出された。SXによって切られているため炉址のみの検出である。SI1と同様、方形の溶岩が1点検出され、下から焼土が検出された。溶岩は面が下に向いていた。炉の掘り方は、長軸0.80m、短軸0.59m、深さ0.05mを測る。炉の周囲はSXによって掘削されており柱穴、周溝は検出されなかった。

遺物は土器片、石器が出土している。

## 第2節　土坑・ピット（第23～29図、表3・4）

土坑（SK）24基、ピット（pit）120基（いずれも住居址に関係する土坑・ピットは除く）が検出された。1区と3区に集中して検出されている。

1区は、調査区の北端で撹乱は検出されるものの、土坑やピットの覆土に火山灰のスコリアが含まれる遺構もあり、4号住居址の覆土にスコリアは含まれないことから4号住居址より新しい時期に属する遺構と思われる。

2区は他区域より遺構数は少ないが、SXが非常に多いため切られて消失したことが一つの要因と思われる。

3区は遺物包含層から縄文時代早期、前期、中期、さらに平安時代の甲斐型土器が出土している。確認された遺構は深さが浅いピットが多く、後世に削平された可能性が考えられる。掘立柱建物跡を構成する遺構（組合せ）は検出されない。

検出状況は分布図で示し、遺構の法量は遺構計測表で示した。

土器が一括して出土したSK15は、規模は長径0.66m、短径0.64m、深さ0.67mを測る。覆土は5層に分層出来るが、SI4付近の調査区壁面で検出されたスコリアは含まれない。遺物は遺構上面から一括の土器が出土した。土器は口縁部を下に向け体部上半までの破片が押しつぶされた状態であった。一個体ではなく複数の個体の破片が含まれている。土坑下部の覆土からも遺物は出土しているが細片のみである。その他、覆土には径18×15cm大の安山岩製の礫が1点含まれていた。

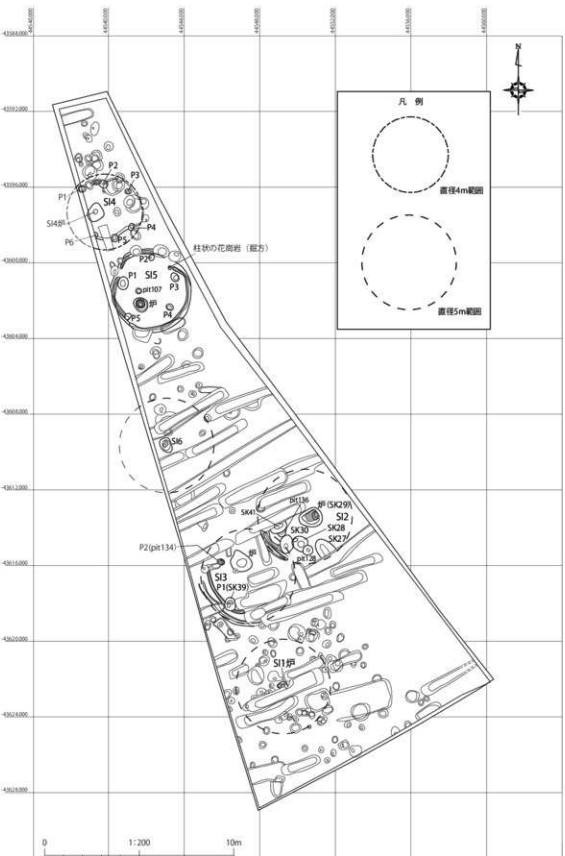
## 第3節　その他の遺構（SX）（第30～32図、表5）

調査時に性格不明の遺構について番号を付与した。そのうちSX38は炉址（SI6＝住居址で記述）とした。SXの規模はSX計測表で示した。SX39以外は検出された遺構はほぼ東西方向に延びている。主軸の方向は一覧表で示したように北の方位から東に向かって60°から70°代の間を示している。幅はある程度共通性が認められるものの、長さや深さは一定ではない。東端は下端から上端に向かって、例えば重機で手前に引いてすくい上げたような掘り方を示している遺構も認められる。覆土は土坑やピットと同様火山灰のスコリアが含まれる遺構が検出されている。

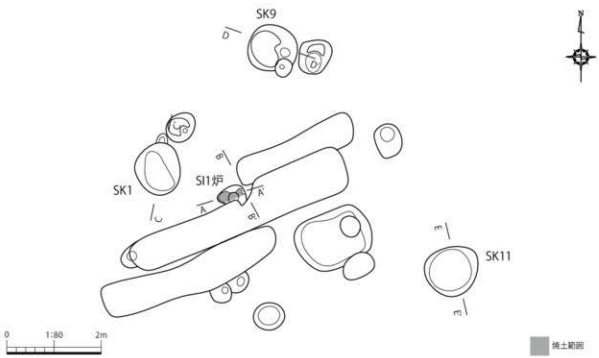
遺物は、縄文土器が出土しているがSXの検出状況を考えると流れ込んだ可能性が高いと思われる。

SX39は南北をSX16とSX17に切られている。上面では礫が検出されている。配石された石が覆土中に崩れて埋まったという状況である。検出された規模は、東西方向1.15m、残存している南北方向0.35m、深さは0.24mを測る。

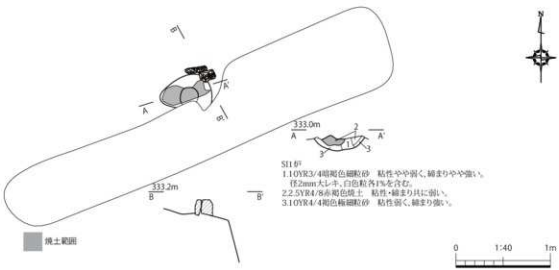
遺物は覆土から土器片、石器が出土している。


凡 例
直径4m範囲
直径5m範囲
柱状の花崗岩（鹿方）
P1
P2
P3
P4
P5
P6
SI4
SI4炉
SI5
SI6
SI3
SI1炉
SI2
SI1
SK41
SK30
SK28
SK27
SK29
P2(pit134)
P1(SK39)
0
1:200
10m

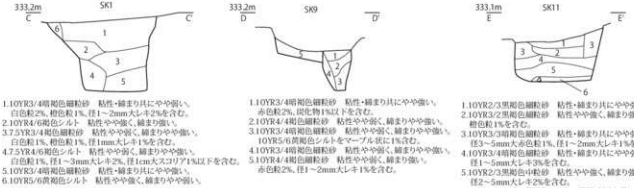
第９図　住居址分布図



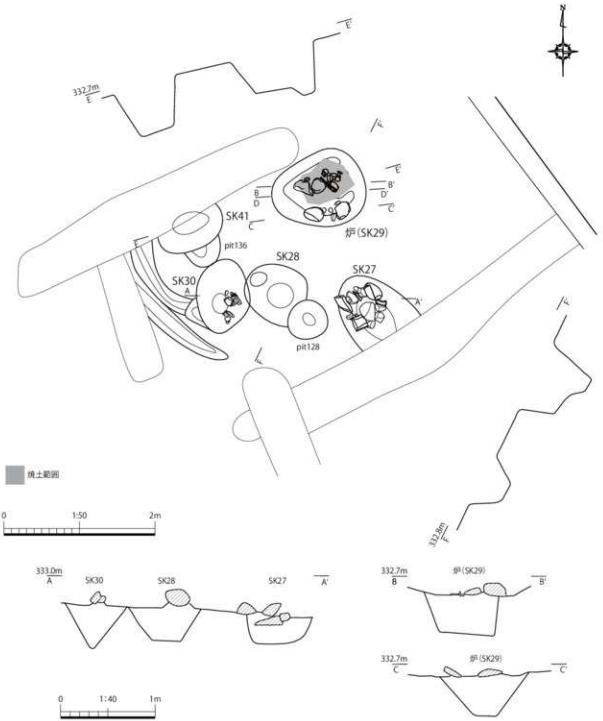

第 10 図　1 号住居址（炉址）と周辺の土坑平面図



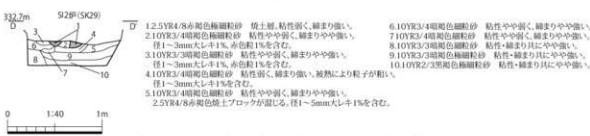

第 11 図　1 号住居址炉平・断面図


333.2m
SK1
333.2m
SK9
333.1m
SK11
1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　白色粒2%、橙色粒1%、径1～2mm大レキ2%を含む。
2.10YR4/6褐色シルト　粘性やや強く、締まりやや強い。
3.7.5YR3/4暗色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　白色粒1%、橙色粒1%、径1mm大レキ1%を含む。
4.7.5YR4/6褐色シルト　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　白色粒1%、径1～3mm大レキ2%、径1cm大スコリア1%以下を含む。
5.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
6.10YR5/6黄褐色シルト　粘性やや強く、締まりやや強い。
1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　赤色粒2%、焼化物1%以下を含む。
2.10YR4/4褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
3.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　10YR5/6黄褐色シルトをマーブル状に1%含む。
4.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
5.10YR4/4暗色細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。
　赤色粒2%、径1～2mm大レキ1%を含む。
1.10YR2/3黒褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
2.10YR3/2黒褐色細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
　橙色粒1%を含む。
3.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　径3～5mm大赤色粒1%、径1～2mm大レキ1%を含む。
4.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　径1～5mm大レキ3%を含む。
5.10YR2/3黒褐色中粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
　径2～5mm大レキ2%を含む。
6.10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・締まり共に強い。
　径5cm大レキ1点を含む。
0 1:40 1m

第 12 図　1 号住居址周辺の土坑土層断面図

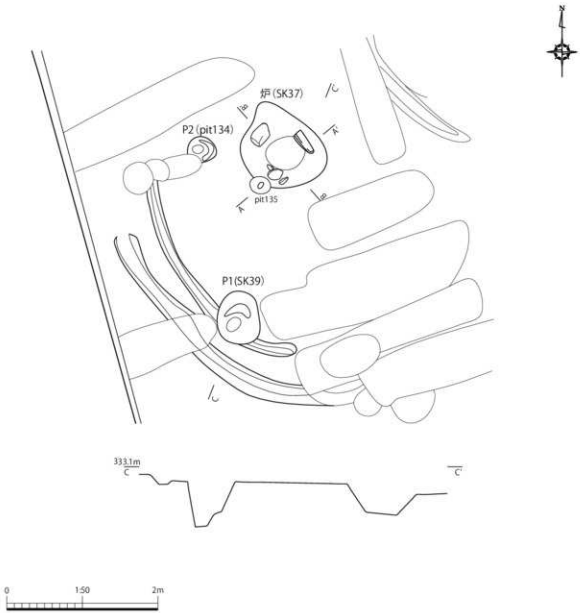



第 13 図　2 号住居址平・断面図

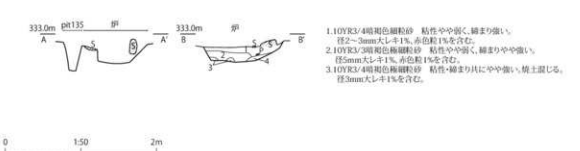



1.2.5YR4/8赤褐色極細粒砂　焼土塊、粘性弱く、締まり強い。
2.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　径1～3mm大レキ1%、赤色粒1%を含む。
3.10YR2/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　径1～3mm大レキ1%、赤色粒1%を含む。
4.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まり強い、被熱により粒子が粗い。
　径1～3mm大レキ1%を含む。
5.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　2.5YR4/8赤褐色焼土ブロックが混じる、径1～5mm大レキ1%を含む。
6.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
7.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
8.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
9.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
10.10YR2/3黒褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。

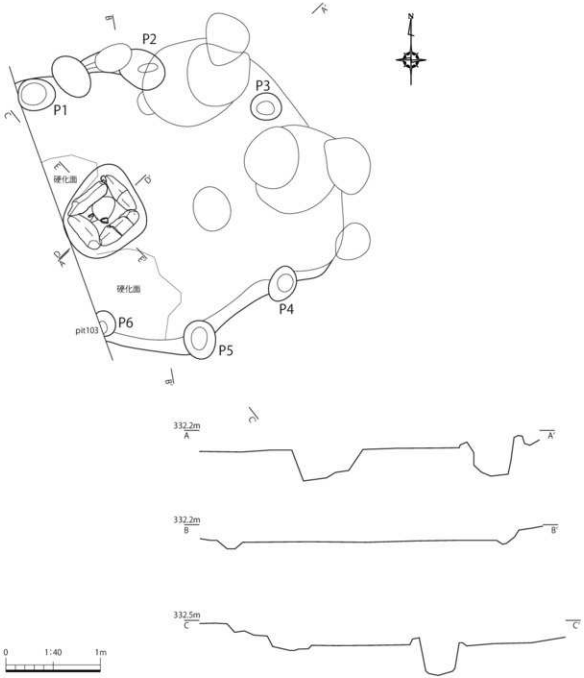
第 14 図　2 号住居址エレベーション・炉土層断面図




第 15 図　3 号住居址平・断面図

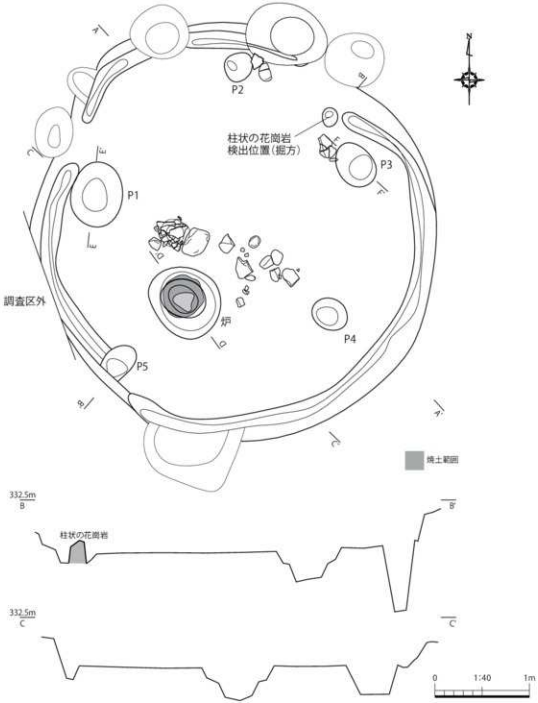



第 16 図　3 号住居址炉断面図

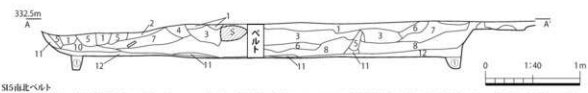



第 17 図　4号住居址平・断面図

第 18 図　4号住居址エレベーション・炉断面図




第 19 図　5 号住居址平・断面図




S15南北ベルト

1.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まりやや強い、径1～5mmオレキ、赤色粒各1%を含む。
2.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まりやや強い、白色粒1%以下を含む。
3.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まり強い、径1～3mmオレキ、赤色粒各1%を含む。
4.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まり強い、赤色粒2%、白色粒1%を含む。
5.10YR4/4褐色極細粒砂　粘性弱く、締まり強い、赤色粒、白色粒各1%を含む。
6.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まり強い、径2～5mmオレキ3%、赤色粒、白色粒各1%を含む、被熱している。
7.10YR4/3褐色細粒砂　粘性やや強く、締まり強い、赤色粒2%、白色粒1%を含む。
8.10YR4/3にぶい黄褐極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い、赤色粒1%、白色粒2%を含む。
9.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い、赤色粒、炭化物各1%を含む。
10.10YR4/3にぶい黄褐極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い、赤色粒1%を含む。
11.10YR4/3にぶい黄褐極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い、赤色粒1%以下を含む。
①　周溝　10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い、橙色粒2%を含む。

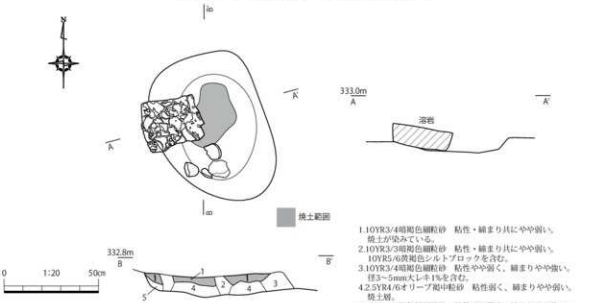
第 20 図　5 号住居址南北土層断面図

炉
1.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
2.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。赤色粒、橙色粒各1%、炭化物1%以下を含む。
3.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。橙色粒1%以下を含む。
4.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。炭化物、赤色粒各1%以下を含む。
5.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　10YR5/6黄褐色シルトをマーブル状に含む。
6.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性弱く、締まりやや強い。
　径3～5mm大レキ1%を含む。
7.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。焼土が混じる。
8.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性弱く、締まりやや強い。炭化物粒。
9.2.5YR3/6赤褐色極細粒砂　粘性弱く、締まり強い。焼土塊。
10.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　径3cm大レキ1%以下を含む。
11.10YR4/6にぶい黄褐中粒砂　粘性弱く、締まり強い。被熱によりボロボロと崩れる。

P1
1.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
　炭化物、赤色粒、橙色粒各1%を含む。
2.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　径2～3mm大レキ1%を含む。
3.10YR4/6褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　赤色粒1%を含む。
4.10YR4/4褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。
　赤色粒1%を含む。

P3
1.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　径1～2mm大レキ1%、白色粒1%を含む。
2.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
　ブロック状に斜離する。赤色粒1%を含む。
3.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや弱く、密直理やや強い。
　レキを含む。
4.10YR4/6褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。

第 21 図　5 号住居址炉・ピット土層断面図

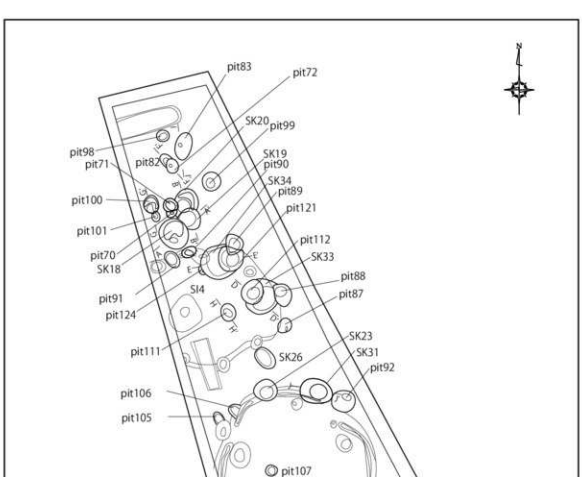



1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや弱い。
　焼土が混みている。
2.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや弱い。
　10YR5/6黄褐色シルトブロックを含む。
3.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
　径3～5mm大レキ1%を含む。
4.2.5YR4/6オリーブ褐中粒砂　粘性弱く、締まりやや強い。
　焼土塊。
5.10YR4/6褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。

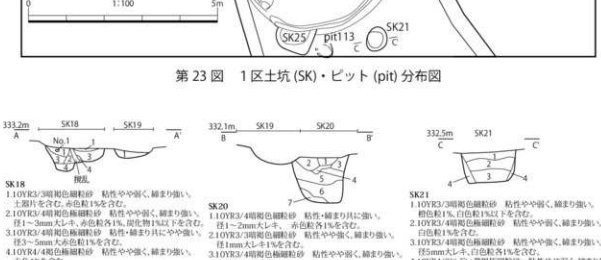
第 22 図　6 号住居址（炉址）平・断面図

表 2　住居址計測表

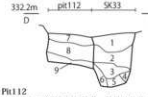
| 遺構名 | 地点 | 平面形 | 規模 cm　※（現存値） | | | | | | 主軸方向 | 切り合い | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | 周溝幅 | 周溝深さ | | | | |
| 1 号住居址 | 3区 | — | — | — | — | — | — | — | — | SX に切られている。 | 方形の溶岩が出土し、溶岩下から焼土跡が検出された。 |
| 2 号住居址 | 2区 | 不整形 | — | — | — | — | — | — | N-41°-E | SI3>SI2 | 東側は削平されている。炉、周溝、ピット、配石状の土坑が検出された。 |
| 3 号住居址 | 2区 | — | — | — | — | — | — | — | N-16°-E | SI3>SI2 | 東側は 2 号住居址に切られている。炉、周溝、ピットが検出された。 |
| 4 号住居址 | 1区 | 不整形 | 321 | (290) | — | — | — | — | | | 石囲炉、周溝、ピットが検出された。 |
| 5 号住居址 | 1区 | 円形 | 430 | 430 | — | — | — | — | N-27°-E | | 炉、周溝、ピット、入口部に立石が検出された。 |
| 6 号住居址 | 2区 | — | — | — | — | — | — | — | — | | 1 号住居と同様方形の溶岩が出土し、溶岩下から焼土跡が検出された。 |




第 23 図　1 区土坑 (SK)・ピット (pit) 分布図

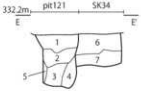



第 24 図　1 区土坑 (SK)・ピット (pit) 土層断面図（1）




**Pit112**
1.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。径2～5mm大レキ2%、赤色粒1%を含む。
2.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。赤色粒1%を含む。
3.10YR3/3暗色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。赤色粒、炭化物各1%を含む。
4.10YR3/3 暗色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。
5.10YR4/3暗色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。
6.10YR3/4暗色極細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。白色粒、赤色粒各1%、炭化物1%以下を含む。

**SK33**
7.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。白色粒1%を含む。
8.10YR4/3暗色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。白色粒1%以下を含む。

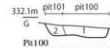



**Pit121**
1.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。径2～3mm大レキ1%、赤色粒1%を含む。
2.10YR3/4暗褐色極細粒砂、粘性やや強く、締まり強い。赤色粒2%、白色粒1%を含む。
3.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。径5mm大レキ1%を含む。
4.10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。径1mm大レキ(白色)1%を含む。
5.10YR4/4褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。

**SK34**
6.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。径2～3mm大レキ1%、赤色粒1%を含む。
7.10YR4/4褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。径5mm大レキ1%を含む。

**Pit71**
1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。径1～2mm大レキ1%を含む。

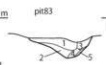
**Pit82**
1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。径1～2mm大レキ、赤色粒各1%を含む。



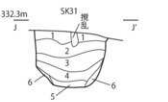

**Pit100**
1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。赤色粒1%以下を含む。

**Pit101**
1.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。

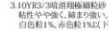
**Pit111**
1.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。赤色粒、炭化物各1%を含む。
2.10YR3/4暗褐色極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。炭化物1%以下を含む。
3.10YR3/3暗遺構極細粒砂　粘性やや強く、締まり強い。白色粒1%、赤色粒1%以下を含む。




**Pit83**
1.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性やや強く、締まりやや強い。径2～3mm大レキ2%を含む。
2.10YR2/3黒褐色細粒砂粘性・締まり共にやや強い。ブロック状に剥がれる。
3.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性やや強く、締まりやや強い。橙色粒1％以下を含む。
4.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。




**SK31**
1.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まり強い。赤色粒2%、白色粒1%を含む10YR5/6黄褐色シルトが混じる。
2.10YR3/4暗褐色細粒砂　粘性弱く、締まり強い。径3～5mm大レキ1%赤色粒1%以下、白色粒2%を含む。
3.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性やや弱く、締まりやや強い。径3～5mm大レキ1%、赤色粒1%以下、白色粒1%を含む。
4.10YR3/3暗褐色極細粒砂　粘性・締まり共にやや強い。赤色粒1%以下、白色粒1%を含む。
5.10YR3/3暗褐色細粒砂　粘性・締まり共やや強い。白色粒15を含む。
6.10YR4/4暗色極細粒砂　粘性やや強く、締まりやや強い。レキを含む。

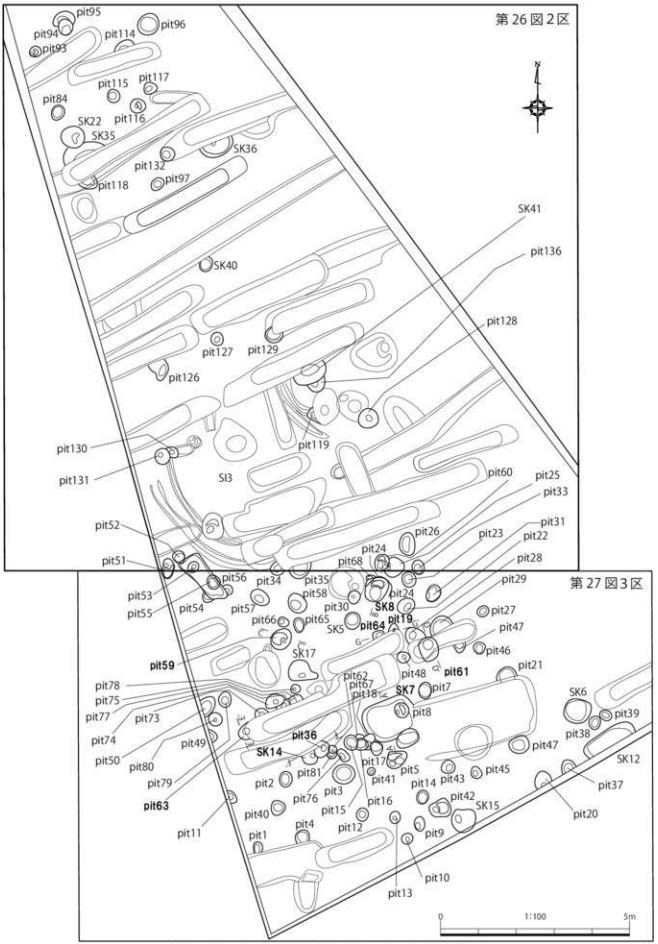



第 25 図　1 区土坑 (SK)・ピット (pit) 土層断面図（2）

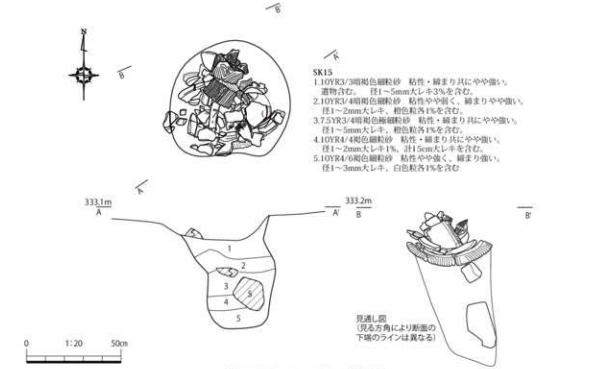
表 3　土坑計測表

| 遺構名 | 地点 | 平面形 | 規模 cm　※（現存値） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| SK01 | 3区 | 楕円 | 100 | 90 | 67 | |
| SK02 | 3区 | － | 55 | (28) | 13 | SI1 炉 |
| SK03 | 欠 | | | | | |
| SK04 | 欠 | | | | | |
| SK05 | 3区 | 楕円 | 46 | 41 | 30 | |
| SK06 | 3区 | 楕円 | 76 | 67 | 31 | |
| SK07 | 3区 | 隅丸方形 | (135) | 106 | 21 | |
| SK08 | 3区 | 不整形 | 72 | 55 | 53 | |
| SK09 | 3区 | 楕円 | 95 | 87 | 32 | |
| SK10 | 欠 | | | | | |
| SK11 | 3区 | 不整形 | 104 | 93 | 59 | |
| SK12 | 3区 | 隅丸方形 | 144 | (48) | 10 | |
| SK13 | 欠 | | | | | |
| SK14 | 3区 | － | 37 | (32) | 49 | |
| SK15 | 3区 | 不整形 | 66 | 64 | 67 | |
| SK16 | 欠 | | | | | |
| SK17 | 3区 | 不整形 | 76 | 54 | 31 | |
| SK18 | 1区 | 不整形 | 82 | 76 | 31 | |
| SK19 | 1区 | － | 61 | 48 | 5 | |
| SK20 | 1区 | 不整形 | 83 | 64 | 70 | |
| SK21 | 1区 | 楕円 | 66 | 54 | 33 | |

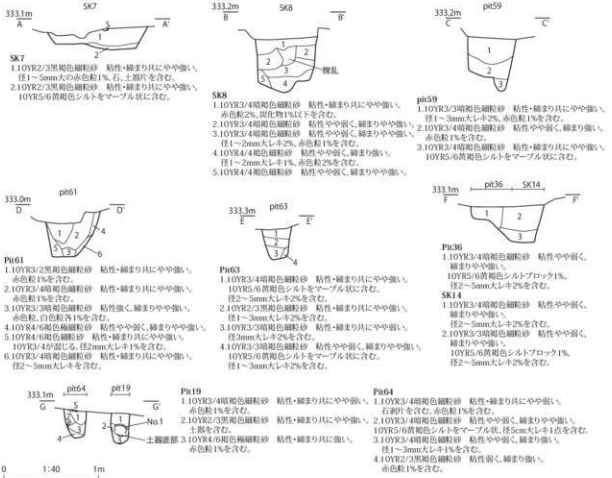
| 遺構名 | 地点 | 平面形 | 規模 cm　※（現存値） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| SK22 | 2区 | 楕円 | 62 | 57 | 56 | |
| SK23 | 1区 | 不整形 | 65 | 58 | 27 | |
| SK24 | 1区 | 不整形 | 88 | 66 | 37 | SI5 炉 |
| SK25 | 1区 | － | 101 | (58) | 29 | |
| SK26 | 1区 | 長楕円 | 63 | 43 | 25 | |
| SK27 | 2区 | － | (94) | 92 | 38 | SI2（配石状） |
| SK28 | 2区 | － | (76) | 74 | 31 | SI2 |
| SK29 | 2区 | 不整形 | 122 | 103 | 68 | SI2 炉 |
| SK30 | 2区 | 不整形 | 97 | 70 | 47 | SI2 |
| SK31 | 1区 | 不整形 | 37 | 64 | 37 | |
| SK32 | 1区 | 楕円 | 68 | 54 | 32 | SI5P1 |
| SK33 | 1区 | － | 94 | (60) | 37 | |
| SK34 | 1区 | － | 88 | (57) | 37 | |
| SK35 | 2区 | － | 114 | (31) | 41 | |
| SK36 | 2区 | － | 90 | (48) | 21 | |
| SK37 | 2区 | 不整形 | 113 | 99 | 40 | SI3 の炉 |
| SK38 | 欠 | | | | | |
| SK39 | 2区 | 隅丸方形 | 70 | 54 | 59 | SI3 |
| SK40 | 2区 | － | 43 | (32) | 28 | |
| SK41 | 2区 | 不整形 | 92 | 67 | 68 | SI2 |




第 26・27 図　2・3 区土坑 (SK)・ピット (pit) 分布図




第 28 図　SK15 平・断面図

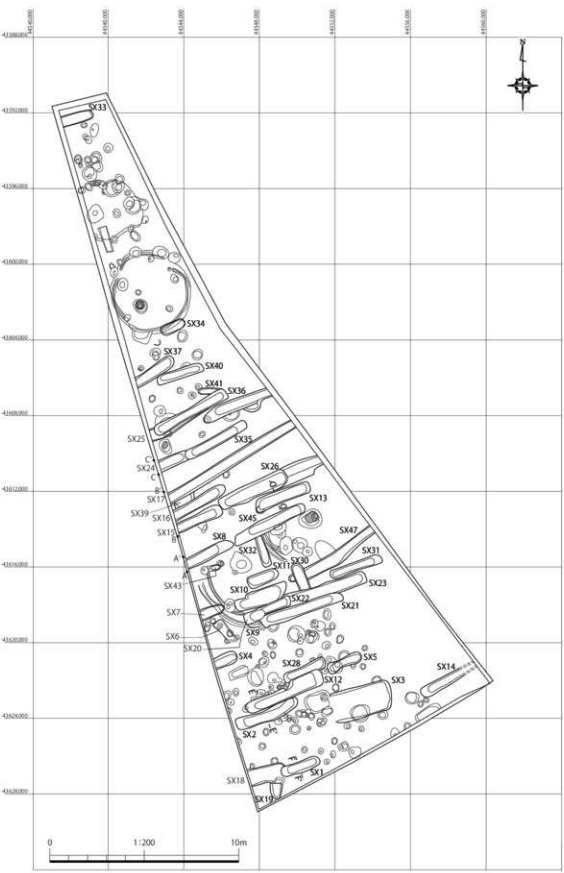



第 29 図　3 区土坑 (SK)・ピット (pit) 土層断面図

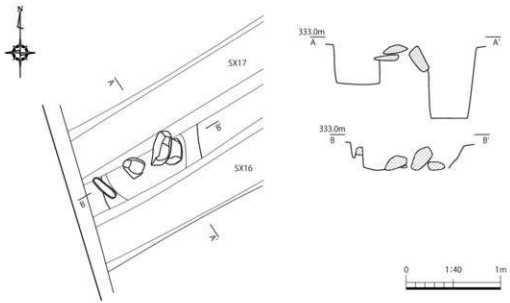
# 表4　ピット計測表

| 遺構名 | 地点 | 平面形 | 規模 cm　※（現存値） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| pit1 | 3区 | 長楕円 | 29 | 25 | 6 | |
| pit2 | 3区 | 長楕円 | 42 | 33 | 11 | |
| pit3 | 3区 | 楕円 | 60 | 52 | 18 | |
| pit4 | 3区 | ― | 37 | (32.0) | 14 | |
| pit5 | 3区 | 不整形 | 59 | 46 | 42 | |
| pit6 | 3区 | 不整形 | 63 | 44 | 9 | |
| pit7 | 3区 | 楕円 | 44 | 34 | 9 | |
| pit8 | 3区 | 楕円 | 40 | 38 | 8 | |
| pit9 | 3区 | 長楕円 | 39 | 28 | 35 | |
| pit10 | 3区 | 楕円 | 30 | 28 | 38 | |
| pit11 | 3区 | ― | 29 | (27) | 8 | |
| pit12 | 3区 | 楕円 | 34 | 31 | 17 | |
| pit13 | 3区 | 楕円 | 33 | 28 | 33 | |
| pit14 | 3区 | 楕円 | 36 | 32 | 18 | |
| pit15 | 3区 | 楕円 | 41 | 36 | 20 | |
| pit16 | 3区 | ― | 30 | (29) | 18 | |
| pit17 | 3区 | 不整形 | 37 | 33 | 55 | |
| pit18 | 3区 | 不整形 | 53 | 46 | 20 | |
| pit19 | 3区 | ― | 28 | (25) | 39 | |
| pit20 | 3区 | ― | 47 | 44 | 66 | |
| pit21 | 3区 | ― | 53 | (35) | 22 | |
| pit22 | 3区 | 楕円 | 49 | 40 | 14 | |
| pit23 | 3区 | 楕円 | 41 | 36 | 10 | |
| pit24 | 3区 | ― | 60 | (43) | 53 | |
| pit25 | 3区 | 不整形 | 54 | 48 | 47 | |
| pit26 | 3区 | 不整形 | 60 | 41 | 19 | |
| pit27 | 3区 | 楕円 | 32 | 28 | 15 | |
| pit28 | 3区 | ― | 52 | 45 | 54 | |
| pit29 | 3区 | ― | 63 | (35) | 28 | |
| pit30 | 3区 | 楕円 | 35 | 32 | 43 | |
| pit31 | 3区 | 楕円 | 47 | 35 | 35 | |
| pit32 | 欠 | | | | | |
| pit33 | 3区 | 不整形 | 39 | 33 | 18 | |
| pit34 | 3区 | ― | 38 | (21) | 9 | |
| pit35 | 3区 | ― | 62 | (36) | 9 | |
| pit36 | 3区 | ― | 45 | 39 | 49 | |
| pit37 | 3区 | ― | 38 | (37) | 13 | |
| pit38 | 3区 | 楕円 | 37 | 30 | 15 | |
| pit39 | 3区 | 楕円 | 33 | 26 | 11 | |
| pit40 | 3区 | 不整形 | 39 | 38 | 13 | |
| pit41 | 3区 | 楕円 | 21 | 21 | 19 | |
| pit42 | 3区 | 不整形 | 57 | 45 | 48 | |
| pit43 | 3区 | 不整形 | 36 | 33 | 34 | |
| pit44 | 欠 | | | | | |
| pit45 | 3区 | 不整形 | 33 | 30 | 23 | |
| pit46 | 3区 | 不整形 | 39 | 32 | 13 | |
| pit47 | 3区 | ― | (34) | 30 | 11 | |
| pit48 | 3区 | 楕円 | 33 | 30 | 41 | |
| pit49 | 3区 | ― | 40 | (22) | 16 | |
| pit50 | 3区 | ― | 44 | 43 | 8 | |
| pit51 | 2区 | 不整形 | 51 | 29 | 39 | |
| pit52 | 2区 | 楕円 | 45 | 32 | 25 | |
| pit53 | 2区 | 楕円 | 53 | 26 | 33 | |
| pit54 | 3区 | ― | 31 | 22 | 9 | |
| pit55 | 2区 | ― | 34 | (30) | 8 | |
| pit56 | 3区 | ― | 29 | (18) | 9 | |
| pit57 | 3区 | 長楕円 | 54 | 38 | 23 | |
| pit58 | 3区 | 長楕円 | 54 | 46 | 62 | |
| pit59 | 3区 | 長楕円 | 62 | 49 | 61 | |
| pit60 | 3区 | 長楕円 | 43 | 39 | 51 | |
| pit61 | 3区 | 不整形 | 61 | 50 | 53 | |
| pit62 | 3区 | 楕円 | 22 | 20 | 24 | |
| pit63 | 3区 | ― | 42 | 39 | 34 | |
| pit64 | 3区 | ― | 32 | (16) | 27 | |
| pit65 | 3区 | 長楕円 | 39 | 27 | 14 | |
| pit66 | 3区 | 長楕円 | 31 | 24 | 42 | |
| pit67 | 3区 | ― | (20) | (17) | 18 | |
| pit68 | 3区 | ― | (23) | (10) | 8 | |
| pit69 | 欠 | | | | | |
| pit70 | 1区 | ― | 29 | 21 | 15 | |
| pit71 | 1区 | 不整形 | 42 | 35 | 24 | |

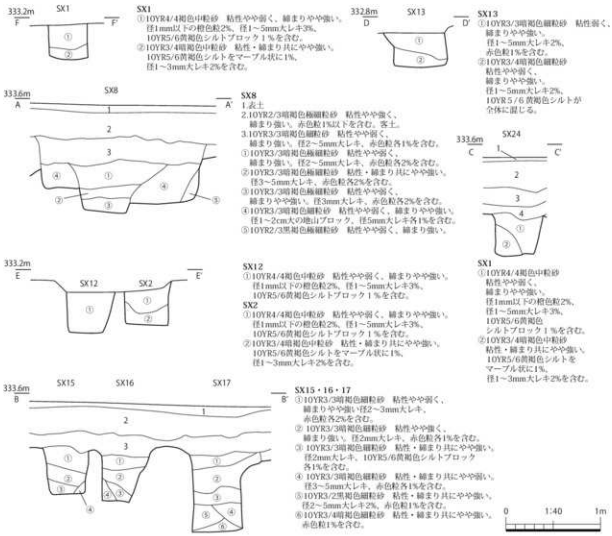
| 遺構名 | 地点 | 平面形 | 規模 cm　※（現存値） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| pit72 | 1区 | 楕円 | 34 | 34 | 11 | |
| pit73 | 3区 | ― | (36) | 17 | 15 | |
| pit74 | 3区 | 不整形 | 52 | 34 | 55 | |
| pit75 | 3区 | ― | 38 | (19) | 36 | |
| pit76 | 3区 | 不整形 | 27 | 22 | 11 | |
| pit77 | 3区 | ― | (41) | (10) | 41 | |
| pit78 | 3区 | 不整形 | 25 | 24 | 33 | |
| pit79 | 3区 | 不整形 | 42 | 33 | 35 | |
| pit80 | 3区 | 楕円 | 38 | 35 | 20 | |
| pit81 | 3区 | ― | (16) | (16) | 10 | |
| pit82 | 1区 | ― | 29 | (25) | 8 | |
| pit83 | 1区 | 長楕円 | 71 | 43 | 27 | |
| pit84 | 2区 | 楕円 | 43 | 35 | 17 | |
| pit85 | 1区 | 楕円 | 41 | 35 | 12 | SI4P5 |
| pit86 | 1区 | 不整形 | 39 | 28 | 29 | SI4P4 |
| pit87 | 1区 | 不整形 | 42 | 34 | 24 | |
| pit88 | 1区 | 不整形 | 61 | 45 | 46 | |
| pit89 | 1区 | 不整形 | 54 | 48 | 11 | |
| pit90 | 1区 | 長楕円 | 41 | 27 | 8 | |
| pit91 | 1区 | 長楕円 | 49 | 34 | 18 | |
| pit92 | 1区 | ― | 53 | (49) | 18 | |
| pit93 | 2区 | 不整形 | 32 | 28 | 27 | |
| pit94 | 2区 | 楕円 | 44 | 38 | 25 | |
| pit95 | 2区 | ― | 59 | (38) | 21 | |
| pit96 | 2区 | 楕円 | 61 | 58 | 22 | |
| pit97 | 2区 | 不整形 | 40 | 29 | 29 | |
| pit98 | 1区 | 楕円 | 32 | 31 | 6 | |
| pit99 | 1区 | 楕円 | 51 | 49 | 65 | |
| pit100 | 1区 | 不整形 | 49 | 41 | 26 | |
| pit101 | 1区 | 不整形 | 28 | 22 | 11 | |
| pit102 | 1区 | ― | 41 | 38 | 17 | SI4P2 |
| pit103 | 1区 | ― | 34 | (21) | 24 | SI4P6 |
| pit104 | 1区 | ― | (36) | 27 | 61 | |
| pit105 | 1区 | ― | (28) | 25 | 8 | |
| pit106 | 1区 | ― | 37 | (28) | 16 | |
| pit107 | 1区 | 不整形 | 36 | 32 | 32 | |
| pit108 | 1区 | 楕円 | 36 | 34 | 23 | SI5P4 |
| pit109 | 1区 | 楕円 | 51 | 38 | 41 | SI5P3 |
| pit110 | 1区 | 不整形 | 34 | 30 | 24 | SI5P2 |
| pit111 | 1区 | 楕円 | 47 | 39 | 21 | |
| pit112 | 1区 | 楕円 | 66 | 57 | 54 | |
| pit113 | 1区 | ― | 42 | (23) | 12 | |
| pit114 | 2区 | ― | 57 | (22) | 21 | |
| pit115 | 2区 | 不整形 | 34 | 33 | 21 | |
| pit116 | 2区 | 楕円 | 42 | 37 | 37 | |
| pit117 | 2区 | 不整形 | 37 | 31 | 21 | |
| pit118 | 2区 | ― | 44 | (31) | 19 | |
| pit119 | 2区 | ― | (18) | (13) | 20 | |
| pit120 | 欠 | | | | | |
| pit121 | 1区 | ― | 65 | (63) | 53 | |
| pit122 | 欠 | | | | | |
| pit123 | 1区 | 不整形 | 40 | 33 | 17 | SI4P1 |
| pit124 | 1区 | ― | 26 | (11) | 68 | |
| pit125 | 1区 | 楕円 | 33 | 29 | 28 | SI4P3 |
| pit126 | 2区 | 不整形 | (45) | 42 | 13 | |
| pit127 | 2区 | 楕円 | 34 | 33 | 33 | |
| pit128 | 2区 | 楕円 | 55 | 51 | 50 | |
| pit129 | 2区 | ― | 43 | (26) | 19 | |
| pit130 | 2区 | ― | (33) | 25 | 34 | |
| pit131 | 2区 | ― | (47) | 36 | 65 | |
| pit132 | 2区 | ― | 39 | (26) | 24 | |
| pit133 | 1区 | 楕円 | | 21 | 16 | SI5 立石 脚方 |
| pit134 | 2区 | ― | 38 | (35) | 72 | |
| pit135 | 2区 | 楕円 | 29 | 26 | 38 | SI3 |
| pit136 | 2区 | ― | (26) | 48 | 27 | |




第 30 図　その他の遺構 (SX) 分布図




第 31 図　SX39 平・断面図




第 32 図　その他の遺構 (SX) の土層断面図

## 表5　その他の遺構（SX）計測表

| 遺構名 | 地点 | 規模 cm　※（現存値） | | | 主軸方向 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| SX1 | 3区 | 214 | 59 | 31 | N-72°-E | |
| SX2 | 3区 | 348 | 71 | 53 | N-75°-E | |
| SX3 | 3区 | 318 | 165 | 17 | N-72°-E | |
| SX4 | 3区 | (118) | 65 | 20 | N-68°-E | |
| SX5 | 3区 | 190 | 54 | 41 | N-65°-E | |
| SX6 | 3区 | 144 | 47 | 12 | N-37°-W | |
| SX7 | 2区 | (124) | 53 | 11 | N-70°-E | |
| SX8 | 2区 | (257) | 63 | 11 | N-64°-E | |
| SX9 | 2区 | (69) | (28) | 13 | — | 切られているため計測困難ない |
| SX10 | 2区 | 279 | 89 | 30 | N-68°-E | |
| SX11 | 2区 | 170 | 65 | 22 | N-70°-E | |
| SX12 | 3区 | 435 | 63 | 56 | N-66°-E | |
| SX13 | 2区 | 305 | 64 | 46 | N-69°-E | |
| SX14 | 3区 | (242) | 54 | 47 | N-61°-E | |
| SX15 | 2区 | (246) | 51 | 38 | N-67°-E | |
| SX16 | 2区 | (302) | 59 | 37 | N-59°-E | |
| SX17 | 2区 | (620) | 63 | 68 | N-68°-E | |
| SX18 | 3区 | 195 | 89 | 10 | N-74°-E | |
| SX19 | 3区 | 81 | 64 | 16 | N-6°-E | |
| SX20 | 2区 | (113) | 70 | 36 | N-67°-E | |
| SX21 | 2区 | 452 | 57 | 9 | N-72°-E | |
| SX22 | 2区 | (150) | 48 | 7 | N-71°-E | |
| SX23 | 2区 | (420) | 68 | 7 | N-72°-E | |
| SX24 | 2区 | (159) | 61 | 34 | N-68°-E | |
| SX25 | 2区 | (318) | 64 | 11 | N-75°-E | |
| SX26 | 2区 | 385 | 80 | 46 | N-66°-E | |
| SX27 | 欠 | | | | | |
| SX28 | 3区 | 236 | 61 | | N-67°-E | |
| SX29 | 欠 | | | | | |
| SX30 | 2区 | (144) | 62 | 15 | N-20°-W | |
| SX31 | 2区 | 286 | 44 | 39 | N-71°-E | |
| SX32 | 2区 | (81) | 48 | 17 | N-15°-W | |
| SX33 | 1区 | (176) | 58 | 8 | N-73°-E | |
| SX34 | 1区 | 136 | 53 | 9 | N-69°-E | |
| SX35 | 2区 | 366 | 46 | 35 | N-61°-E | |
| SX36 | 2区 | 431 | 47 | 45 | N-61°-E | |
| SX37 | 2区 | (234) | 61 | 23 | N-56°-E | |
| SX38 | 2区 | 80 | 59 | 5 | — | SI6 炉[1] |
| SX39 | 2区 | 115 | (35) | 24 | — | 配石 |
| SX40 | 2区 | 245 | 53 | 26 | N-74°-E | |
| SX41 | 2区 | (128) | 35 | 17 | N-91°-E | |
| SX42 | 2区 | (376) | 64 | 46 | | |
| SX43 | 2区 | (40) | 29 | 12 | N-77°-E | |
| SX44 | 欠 | | | | | |
| SX45 | 2区 | 412 | 76 | 34 | N-65°-E | |
| SX46 | 2区 | (76) | 46 | 11 | | |
| SX47 | 2区 | (541) | 64 | 10 | N-63°-E,N-53°-E | |

# 第6章　出土した遺物

土器は縄文土器が大多数を占め、その他では甲斐型土器3点、平安時代の須恵器が1点出土している。縄文土器は早期、前期、中期、後期に属する土器の破片、中期の土器は完形に近い個体が出土しており、幅広い時期に亘る。石器は打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、凹石、台石、石皿、多孔石、石鏃、石匙、石棒（転用した石皿）、溶岩（炉石含む）、石材として石核、剥片が出土している。

出土した土器・石器はコンテナ30箱分に相当する。

以下、土器、石器について記述するが、遺構に関しては土器・石器を併せて記載した。1号住居址（以下SI1、同様に住居址はSI）は周辺の遺構がSI1に関わっている可能性が有るため周辺の遺構から出土した土器、石器も併せて記載し、調査区一括遺物は土器と石器を分けて記載した。

また、トータルステーション・システムで出土地点を計測した遺物は、必要に応じて平面と断面の出土地点を図示した。

SI1（第33、35図）

SI1炉（SK2）から出土した1、2は深鉢の体部である。1は三角区画文。隆帯上に縄文。2は平行する隆帯上に半裁竹管の押引き。隆帯間に棒状工具による刺突文。半裁竹管による平行沈線。いずれも中期中葉に属すると思われる。

SI1周辺の遺構から出土した土器（第33～第39図）

SK15は出土地点の断面を図示したが、覆土中の中位～下位で出土した土器は細片が多く図示できなかった。

SK1の3の口縁端部は外に開く。口縁部に平行沈線。区画内は斜位の沈線。4は波状口縁。連続刺突による斜位の沈線。縦方向の沈線は口縁端部の上まで延びる。内面は波状口縁に沿って沈線。5は底部から僅かに張りだした後内湾しながら立ち上がる。内面にスス。3は諸磯式、4・5は中期中葉に属すると思われる。SK9の6は楕円区画文。隆帯の区画内は縦位の沈線。隆帯上に交互刺突文。体部はケズリ。中期中葉に属すると思われる。SK11の7は施文後表面を撫でる。弧状の沈線。8は体部で膨らむ。渦巻文。区画内は沈線。9は上げ底の底部。底部からやや内湾しながら立ち上がる。区画間を斜位の沈線。7は早期末条痕文系、8は曽利Ⅲ式、9は曽利新段階に属すると思われる。SK7の10は土製円盤。SK12の11は口縁部に区画文。口縁端部に沿って沈線。体部は縦位の沈線。曽利Ⅲ式。Pit19の12は隆帯上に連続爪型文。隆帯に沿って並行沈線。体部は縦位の沈線。底部はやや上げ底。藤内式期。Pit6の13は斜行条線。曽利古段階。Pit20の14は外に開いて立ち上がる。口縁部は無文。頸部に沈線。曽利式か。pit58の15は並行する連続爪型文。16は波状口縁の突起部分。口縁端部中央に外周に沿って沈線を巡らす。内外に赤彩。15は諸磯b式、16は曽利式か。pit59の17は口縁端部で僅かに外反。上段は角押文。中段はペン先状工具による三角押文。下段は棒状工具による刺突文。外面に赤彩。新道式に属すると思われる。SK15の18は深鉢の口縁部で無文。19、20は深鉢の口縁部と口縁部から体部で重弧文。20の頸部は波状隆帯の区画内に斜位の沈線。沈線上に交差する斜位の隆帯。体部は条線。21は頸部に横位の5条の波状隆帯。25は楕円区画文。区画内はキャタピラー文と三角を波状に刺突。19～24は曽利古段階、25は中期中葉。SX1の26は横方向への湾曲が強く頸部の可能性がある。横位の沈線。中期か。SX2の27は曲線状の沈線を巡らす。28は甲斐型土器の坏の底部で外に開く。底に沈線。小型。9世紀か。SX4の29は深鉢の体部で角押文。狢沢式。SX12の30は羽状縄文。繊維を含む。31は口縁部で連続爪型文。32は半裁竹管による押引き文。棒状工具による刺突文。表面を撫でる。33は内面に赤彩。30は黒浜式、31は諸磯b式、32・33は中期中葉に属すると思われる。

SI2( 第 42・43 図 )

46 は楕円区画文。隆帯の両側にキャタピラー文。隆帯上に刻み。区画内の２列の刺突文は細かい連続するペン先状工具による刺突と棒状工具による不規則な刺突。47 は口縁部で端部は僅かに外反。２条の平行沈線と２条の蛇行沈線。沈線内は半裁竹管による押引き文（角押文?）。48 は深鉢の頸部で半裁竹管による斜位の隆線整形。その上に波状隆帯。隆線に交差する斜位の隆帯。隆帯上を押して凹凸を作る。46・47 は中期中葉、48 は曽利古段階に属すると思われる。

SI2 炉から出土した 49 は口縁部で外反する。剥離が著しいが隆帯の両側面にキャタピラー文が巡ると思われる。50 は表裏ミガキ。区画内の縦位の隆帯上に刺突文。区画内は横 J 字、逆横 J 字の沈線。区画の沈線間を棒状工具による縦位の沈線。渦巻状の沈線の下に刺突。51 は横位の２条の連続刺突文の間に１条の波状の連続刺突文。52 は口縁部～頸部で重弧文。53 は地文は条線。幅広の隆帯上に刻み。54 の地文は細い半裁竹管による条線整形。隆線上に半裁竹管による不規則な刺突文。49 は狢沢式、50・51 は中期中葉、52・53 は曽利古段階に属すると思われる。SK30 から出土した 55 は口縁部でボタン状突起。周囲の沈線内に細い棒状工具による刺突文。56 は楕円区画文。隆帯に沿って幅広の沈線が巡る。区画内は斜位の沈線。55 は新道式、56 は曽利新段階。

SI3( 第 47・48 図 )

P1(SK39) から出土した 68 は三角区画文。波長の長い蛇行文。隆帯上にはキャタピラー文。藤内式に属すると思われる。SI3 炉（SK37）から出土した 69 は口縁端部に棒状工具による押圧。頸部は、円形竹管による並行刺突文。上段は２度の刺突。70 は頸部で粘土紐による波状隆帯。地文は縄文。71 は連続する方形の区画文。区画内は棒状工具による縦位の太い沈線。72 は外・内面共に磨き。連続する方形の区画文。区画内は縦位の条線。73 は地文は不規則な幅の条線。縦位の蛇行沈線。破片上部にスス。68・69 は中期中葉、70 は曽利古段階、71・72・73 は曽利新段階に属すると思われる。

SI3 周辺の遺構から出土した土器（第 48 図）

SX8 の 74 は隆帯に沿ってキャタピラー文。破片上部に波状沈線。75 は隆帯に沿って爪型文。74 は新道式、75 は藤内式か。SX9 の 76 は地文は条線。垂下する隆帯。77 は斜位の沈線と直交する刻み。破片上部と下部に円形区画文。78 は玉抱三叉文。ペン先状工具の連続刺突による三角押文。キャタピラー文。79 は鉢の口縁部で内湾しながら立ち上がり肩を作る。口縁端部は外に開く。縦位の太い沈線。76 は曽利古段階、77 は曽利式期、78 は中期中葉、79 は後期か。

SI4( 第 49 ～ 51 図 )

81 の地文は縄文。4 条 1 単位。82 は底部でやや内湾しながら立ち上がる。底径は小さい。内面は丁寧なミガキ。体部は半裁竹管による縦位の細かい刺突文。３箇所の縦位の文様帯を有し、２箇所は渦巻と蛇行する沈線、１箇所は幅広の縦位の沈線と細かい波状隆帯。外面は底と破片の 1/3 にスス、内面は黒色化。83 は深鉢の体部で三角形の区画文。横位の隆帯上に沈線による三角押文と互い違いの刺突文。隆帯上にキャタピラー文。横位の幅広の隆帯上にキャタピラー文と互い違いの刺突文。84 は縦位の半裁竹管による隆線整形。縦位の波状隆帯。85 の口縁部は外に開く。口縁部は縄文。体部は隆帯と太い沈線。86 は地文は条線。その上に粘土紐を波状や褶曲させて貼り付けている。87 は頸部に文様帯。体部の地文は条線。上段の細い隆帯間に粘土紐を貼り付けた波状文。棒状工具により押圧された隆帯を挟んで、下段には押圧された２本の並行する隆帯間に粘土紐を貼り付けた波状文。88 は重弧文。89 の地文は条線。隆線３本による隆帯。81 ～ 83 は中期中葉、84 ～ 88 は曽利古段階、89 は曽利式期か。

SI5( 第 53 ～ 56 図 )

100 はペン先状工具による刺突。爪型文。101 は楕円区画文。隆帯に沿ってキャタピラー文と三角押文。

102 は隆帯に沿って三角押文。隆帯上に連続爪型文。103 は三角区画文。隆帯に沿ってキャタピラー文。区画内は半裁竹管による連続刺突文。104 は楕円区画文内は縦位の沈線。隆帯上に刻み。105 は沈線による楕円区画内に刺突文。106 は楕円区画文。区画内と破片下部にキャタピラー文。107 は半裁竹管による刺突文。108 は沈線による区画文。区画内は低い隆帯上に刻み。109 は隆帯による方形、楕円形の区画文。110 は頸部を挟んで斜位の条線と縦位の条線に分かれる。頸部には横位の隆線上に2条の波状の粘土紐を貼り付ける。111 は深鉢のほぼ完形品で口縁部に文様帯を持つ。6単位に区画され地文は条線の方向や刺突の向きを変えるなど各面異なる。内面の体部中段から上は棒状工具による横位の丁寧なナデ。112 は体部に縦位の条線。底部接続部をナデ。113 は口縁部に沿って太い沈線。方形と思われる区画文。114 は楕円区画文。区画内は条線。区画間には条線と縦位の波状沈線。115 はやや上げ底の底部。縦位の太い沈線。体部の一方にスス。116・117 は口縁部の突起部。118・119 は刺突文。118 は太い沈線。120 は斜位の深い沈線で区画。区画内は条線。121・122 は「ハ」字。121 は口縁部に二条の平行沈線。123 は斜位の沈線。124 は壺の体部で受口状。最大径の下部を横位に磨消。体部にスス。125 は浅鉢の底部～体部下で底部は外に開いて内湾しながら立ち上がる。体部下に微かに U 字の区画と縄文が確認できる。体部の半分にスス。126 は底部は外に開き内湾して立ち上がる。体部にスス。127 は口縁部に一条の横位の太い沈線。無文。沈線下に斜位の細かい条線。外面黒色化。128 は二条の縦位の太い沈線。地文は縄文。肩部と内面にスス。129 は口縁端部に沿って沈線が巡る。地文は条線。隆帯によって区画を作る。130 は口縁部に突起。口縁部は楕円形の区画文と渦巻文の組合せ。縦位の幅広の3条の沈線で区画される。区画内は縄文。体部にスス。131 は長楕円形の区画を並べる。上下の区画間は横 J、逆 J の組合せ。区画内は縄文。132 は口縁部は内湾して立ち上がり肥厚する。隆帯による渦巻文。100 ～ 104、106 ～ 109、117 は中期中葉、110 は曽利古段階、105、111 ～ 116、118 ～ 123 は曽利新段階、124 ～ 129 は曽利式期に属すると思われる。130 は加曽利 E Ⅲ式、131 は加曽利 E Ⅳ式、132 は曽利系に属すると思われる。

SI6（SX38）（第 56 図）

133 は外・内面ミガキ。最大径の下部の外・内面にスス。幅広の沈線。曽利式期か。

遺構から出土した土器（第 62 ～ 65 図）

Pit83 の 153 は浮線文。諸磯 b 式。Pit101 の 154 は角押文。狢沢式。pit112 の 155 は口縁部の装飾部である。井戸尻式。SK20 の 156 は横位の沈線。刺突文と波状沈線。波状沈線の下に縄文。中期中葉か。SK21 の 157 は口縁部に沿ってキャタピラー文。三角区画内はペン先状工具の連続刺突による三角押文。158 はキャタピラー文。ペン先状工具の縦位の連続刺突による三角押文。159 は突起部の装飾。157 は新道式、158 ～ 159 は藤内式。SK34 の 160 は玉抱三叉文。藤内式。SK38 の 161 は地文の条線上に粘土紐を貼り付ける。曽利古段階。SX13 の 162 は重弧文。163 は須恵器の甕の底部～体部で底部から外に開き内湾して立ち上がる。底部はケズリ。体部及底部接合部角度の異なる斜位の条痕。底部との接合部は横位のナデ。内面は自然釉。162 は曽利古段階、163 は平安時代と思われる。SX16 の 164 は外・内面に赤彩。中期中葉か。SX17 の 165 は縦位の鋭利な沈線。166 は甲斐型土器の坏の底部で外に開く。内面に暗文。底部は回転糸切り後、外周をヘラナデ。平安時代。165 は後期か。SX24 の 167 は口縁部で「く」字に折れ曲がる。口縁端部に連続爪型文。体部はミガキ。168 は「ハ」字。167 は藤内式、168 は曽利新段階。SX25 の 169 は区画内に縄文。曽利新段階。SX31 の 170 は斜交条線。曽利古段階か。SX39 の 171 は突起状装飾。172 は地文は粗い条線。底部接合部は弧状の太い沈線。破片には波状隆帯と思われる痕跡。底部は削られ高台状。底部中央にはケズリ痕が残る。内面は丁寧なケズリ。内面にスス。171 は藤内式、172 は曽利古段階。SX42 の 173 は地文は条線。渦巻文。174 は直線的に外に開く。口縁部に楕円区画文。

区画内は縄文。いずれも曽利新段階。

遺構外から出土した遺物

I区（第66図）

184は底からやや内向きに立ち上がる。体部下部に縦位の太い沈線。185は隆帯に沿ってキャタピラー文と波状沈線。186は楕円区画文内をキャタピラー文で充填。187は口縁に沿って沈線。沈線を起点に縦位のペン先状工具による三角押文。188は隆帯上に爪型文。189は口縁部に横位の角押文と角押文による楕円形の区画か。190は波状口縁で波のトップは指による押圧。体部は円形刺突文を中心に両側にC字と逆C字の刺突（蓮華文?）。191は区画内隆帯に沿ってキャタピラー文と区画内に角押文。192は隆帯上に刻み。193は隆帯上に沈線による三角押文。194は装飾部。隆帯上に爪型文。195は地文は縄文。196は渦巻文。隆帯上に刻み。197は区画文。隆帯上に刻み。198は区画文の側面に刻み。199は縄文を施文後ナデにより縄文を消して区画を作る。区画内は縄文。200はボタン状の粘土を横位に連続して貼り付ける。下段には半裁竹管による連蔵刺突文。体部には太い沈線と縦位の半裁竹管による連続刺突文。201は縦位の条線。渦巻状の隆帯。202は重弧文。203は口縁突起部。渦巻文。地文は条線。口縁端部にスス。204は口縁端部はやや内湾。肥厚している。斜位の隆帯。外面にスス。205は口縁部はやや内湾する。体部は細かい縄文と撚り糸状の縄文を施した後磨り消し。206は有孔鍔付土器の体部で口縁部は短い。鍔に搾孔。207は口縁部に区画文。「ハ」字。208は丁寧なナデ。体部は縄文。施文箇所にスス。184は中期初頭（五領ヶ台式か）、185～199は中期中葉（189は狢沢式か）、200～202は曽利古段階、203～208は曽利新段階。

II区（第66～69図）

209は径の大きい円形刺突文。沈線による区画内に先の尖った工具による刺突文。210は沈線文。211は口縁部に沿って細い沈線。連続爪型文。爪型文上と間に細い沈線。212・213は浮線文。214は口縁部に横位の条線。体部に弧状?の条線。215は太い波状沈線。玉抱三叉文。216は地文は縄文。施文後縦位の平行沈線。217は区画内は隆帯に沿ってキャタピラー文。隆帯内側に半裁竹管による刺突文。218はペン先状工具による刺突文。219は口縁部に平行沈線。端部に刻み。220はキャタピラー文。221の口縁部は内湾する。区画文。222は渦巻文。太い棒状工具による縦位の刻み。223は深鉢のほぼ完形品（底部欠）で口縁部は無文。頸部に横位の沈線と並行する波状隆帯。体部の地文は沈線。地文上に縦位の波状隆帯。区画は渦巻文で隆帯上に半裁竹管による刺突。区画内は沈線。224は台形土器で端部は外に開く。体部に透孔有り。225は重弧文もしくは斜行条線。226は渦巻文。227は口縁端部は受口状で内湾する。口縁部に文様帯。渦巻文。区画内はキャタピラー文。228は渦巻文。隆帯による区画内は条線。229は深鉢の体部でやや内湾しながら立ち上がる。内面はケズリ。地文は無文。隆帯両側面に並行する円形刺突文。230は縦位の並行沈線。区画内は斜格子状の沈線。内面ススス。231は口縁部に突起。横位の断面が三角状の隆帯。体部に沈線。232は口縁部は「L」字に折れ曲がる。頸部に沈線。地文は縦位の条線。233は渦巻文。区画内は縦位の沈線。234は体部は方区画文。区画内は縦位の条線。235は波状口縁の突起。内面はミガキ。236は口縁部は内湾する。方区画内は縦位の条線。237は波状口縁。口縁部に文様帯。区画内は刺突文。渦巻文。238は波状口縁。体部に太い沈線。239は口縁部に文様帯。区画内は縦位の条線。240の口縁部は内湾する。口縁部に文様帯。渦巻文とわらじ状の区画内は縦位の条線。体部は縦位の太い沈線と条線。241は丁寧なケズリ。太い縦位の沈線。「ハ」字。内面はミガキ。242は「ハ」字。243は沈線による区画。区画内は縄文。244は口縁部に太い沈線。区画内は「ハ」字。245は「ハ」字。246は頸部に隆帯。隆帯に沿って太い沈線。沈線から縦位の沈線。247は台形土器で搾孔有り。248は有孔鍔付土器の口縁部で外に開く。口縁端部にスス。破片下部に朱付着。249は有孔

鍔付土器の口縁部。口縁端部は細く尖らせて僅かに外反する。体部に渦巻状?の沈線。口縁部に赤彩。250は細い隆帯による区画。隆帯側面に縄文。251は体部は縄文。一部磨り消し? 252は壺の口縁部～体部で受口状。体部は縄文。253は口縁部は無文。地文は縄文。254はキャリパー型。区画内は縄文。一部磨り消し。255の口縁部は直線的に外に開く。方区画文。区画内は縄文で磨り消し。256は口縁部～体部でやや外反して立ち上がり肩部を持つ。屈曲して口縁端部は直線的に外に開いて立ち上がる。体部は縦位の太い沈線。257は壺の体部で口縁部に沿って隆帯。受口状。258は甲斐型土器の坏の底部～体部で底部から内湾しながら立ち上がる。底部外周はナデ。209は前期終末か。210は諸磯a式、211～214は諸磯b式。215・216は五領ヶ台式。217～222は中期中葉、223～225は曽利古段階、226は曽利Ⅲ式、227～238、241～245は曽利新段階。239・240・250は曽利新式に加曽利E系の要素が混じる。在地系の土器か。246～249は曽利式期か。251・252は加曽利EⅢ。253～255は加曽利EⅣ式。256は堀之内式。257は後期か。258は平安時代の甲斐型土器。

Ⅲ区（第69～70図）

259は連続爪型文。260は口縁部に角押文。体部は縦位の刺突文。261は重弧文に波状隆帯。262の頸部は「く」字に折れ曲がる。頸部に隆帯と沈線。地文は条線。条線上に隆帯と渦巻文。263は波状口縁。口縁部に楕円区画文。隆帯の下に区画文。区画内を横位、斜位の条線で充填。264は波状口縁。口縁部に沿って太い沈線。265は隆帯による区画文。区画内は縦位の条線。266は壺の体部で地文は縄文。頸部に平行沈線。小型。破片内面下部にスス。267は有孔鍔付土器の体部。体部に渦巻文。外面ミガキ。268は底部から外に開く。269は地文は縄文。波状沈線が垂下する。破片の外面上部と内面下部にスス付着。270は微隆起による区画内の地文は縄文。さらに内側は隆帯により区画され区画内は無文。隆帯に沿って両側面に円形刺突文。271は微隆起による区画文。区画内は縄文。隆帯に沿って両側面に円形刺突文。全体が黒色化。272の口縁端部は内湾する。隆帯と沈線による区画。区画内は縄文。273は波状口縁。頸部に細い隆帯。区画内は縄文。274は口縁端部で僅かに内湾する。口縁部は無文。隆帯により区画。体部は縄文。275は壺の口縁部で波状口縁。隆帯に沿って円形刺突文。地文は縄文。276は体部から立ち上がり肩部を作る。口縁端部は内に入り外反しながら立ち上がる。外面ミガキ。277は口縁部に沿って太い沈線。外・内面ミガキ。278は薄手。太い沈線とミガキ。259は諸磯b式。260は前期か。261・262は曽利古段階。263～266は曽利新段階。267～269は曽利式期か。270～275は加曽利EⅣ式。276～278は堀之内式。

試掘調査で出土した土器（第76図）

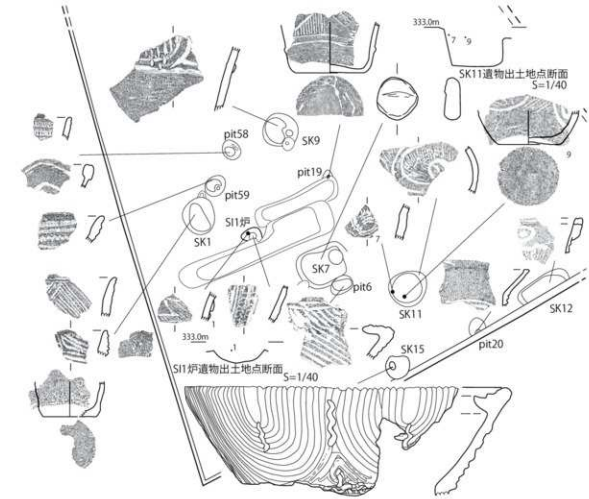
320はペン先状工具による刺突。321は渦巻文。隆帯上に連続爪型文。322の地文は条線。条線上に波状隆帯。323は地文は条線。縦位、横位の隆帯。隆帯上に刻み。324は外面の地文は縄文。隆帯。320は新道式。321は藤内式。322～323は曽利古段階。324は曽利新段階。

石器・石材（第40～42、44～46、48～50、52、57～61、64～65、71～76図）

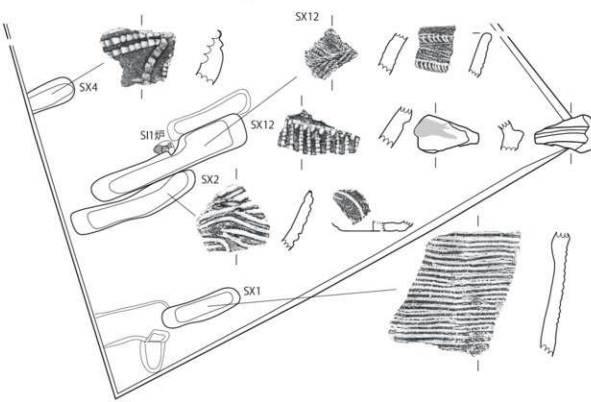
石器・石材は多く出土している。その要因は第2章で述べたように、大月市付近には北側に砂岩・頁岩・粘板岩等からなる小仏層群、南側には安山岩～玄武岩質の火山岩・角礫凝灰岩等（古くはグリーンタフと呼称された）からなる西八代層群、その境界には礫岩層が分布しており、さらに花崗岩類を供給する地域や調査区付近まで猿橋溶岩が迫っている。

石器・石材については観察表にまとめた。

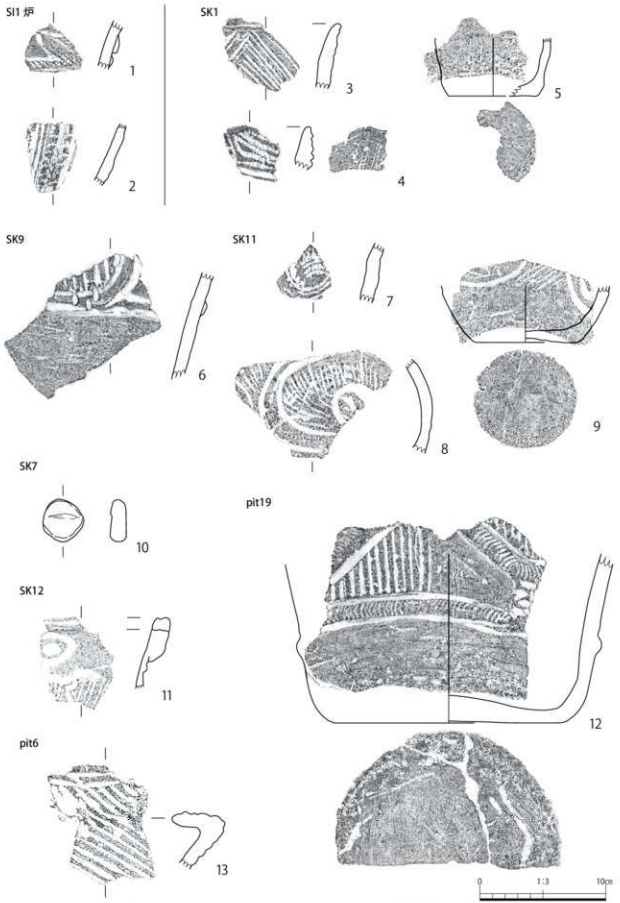
石器の種類は、打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、凹石、台石、石皿、多孔石、石錐、石匙、石棒（転用した石皿）、溶岩（炉石含む）、石材として石核、剥片が出土している。



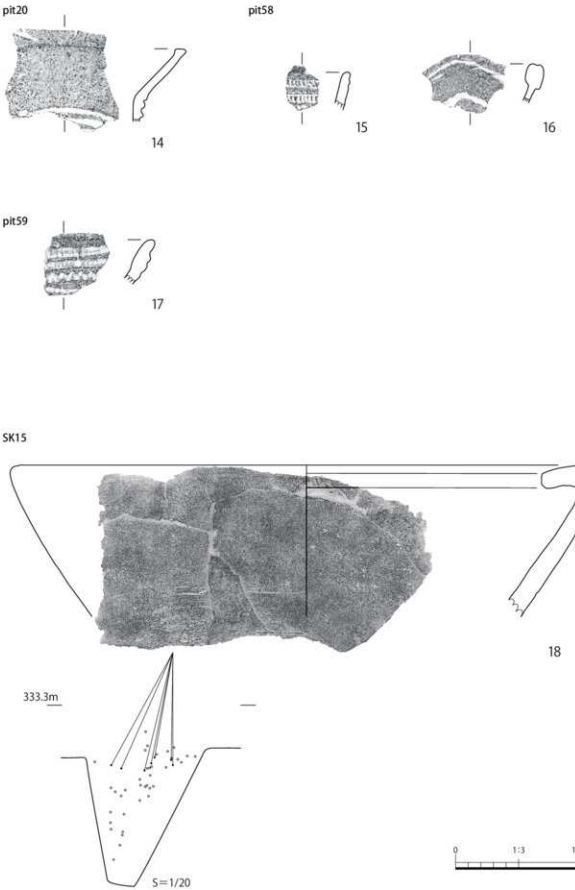

第 33 図　SI1 と周辺の SK・pit から出土した遺物出土分布図（土器）（平面）



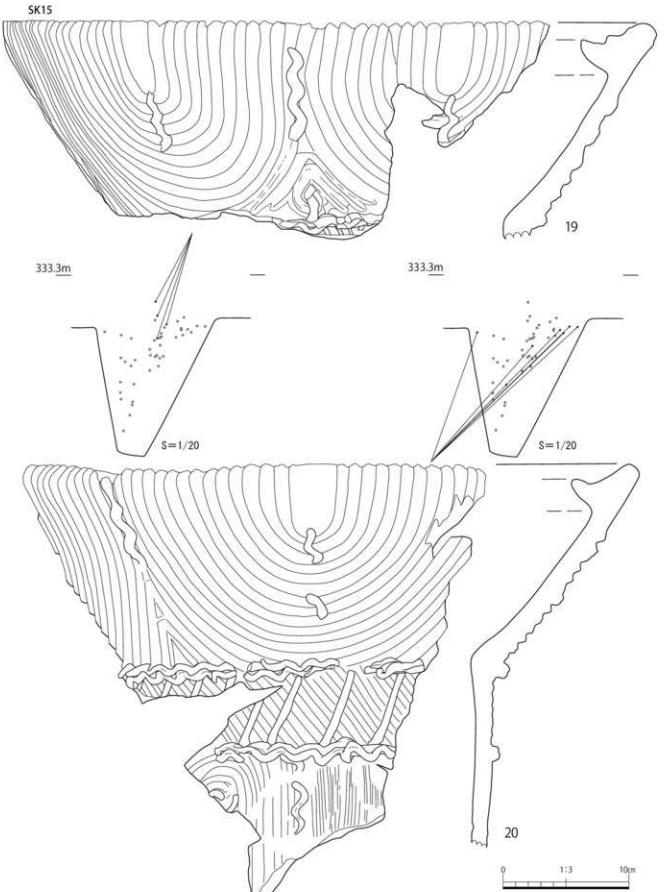

第 34 図　SI1 周辺の SX から出土した遺物出土分布図（土器）（平面）



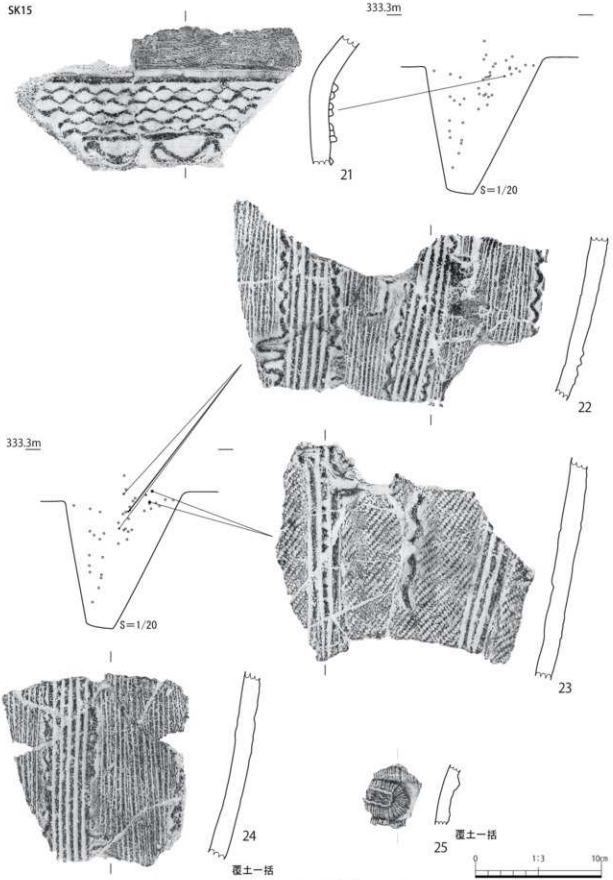

第 35 図　SI1 と周辺の SK・pit から出土した遺物実測図（土器）



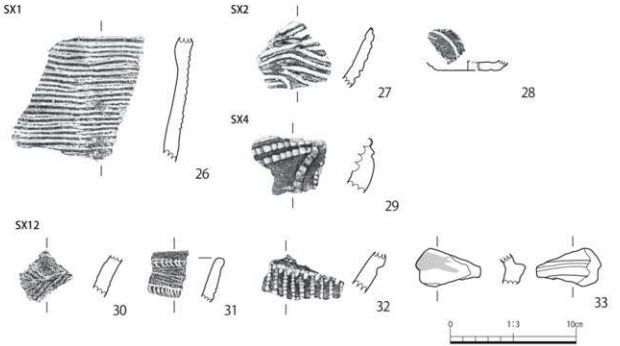

第 36 図　SI1 周辺の pit・SK15(1) から出土した遺物実測図（土器）



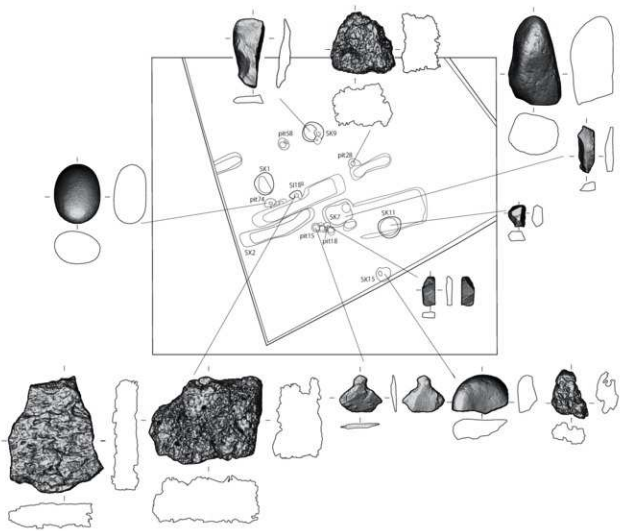

第 37 図　SK15 から出土した遺物実測図（土器）（2）



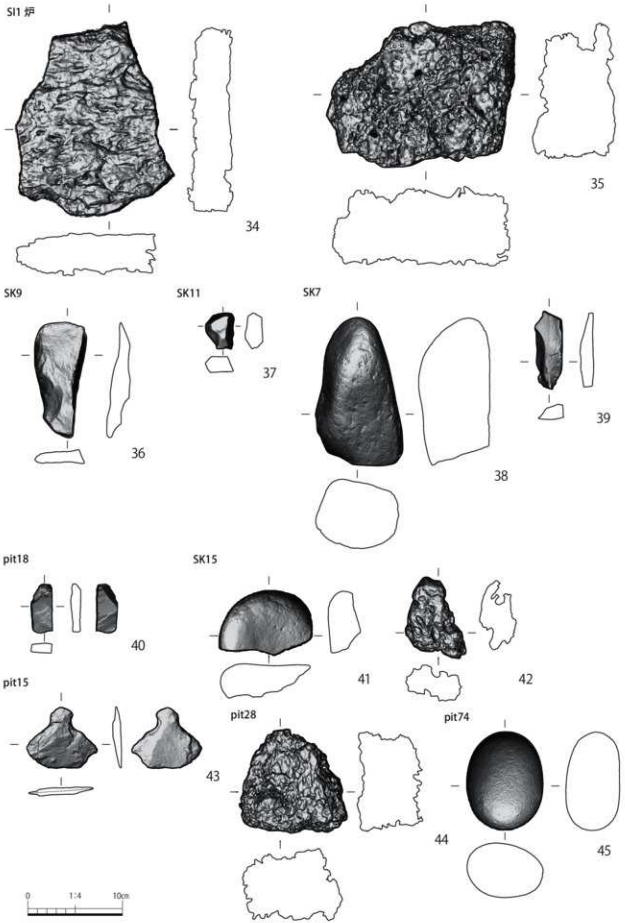

第 38 図　SK15 から出土した遺物実測図（土器）（3）



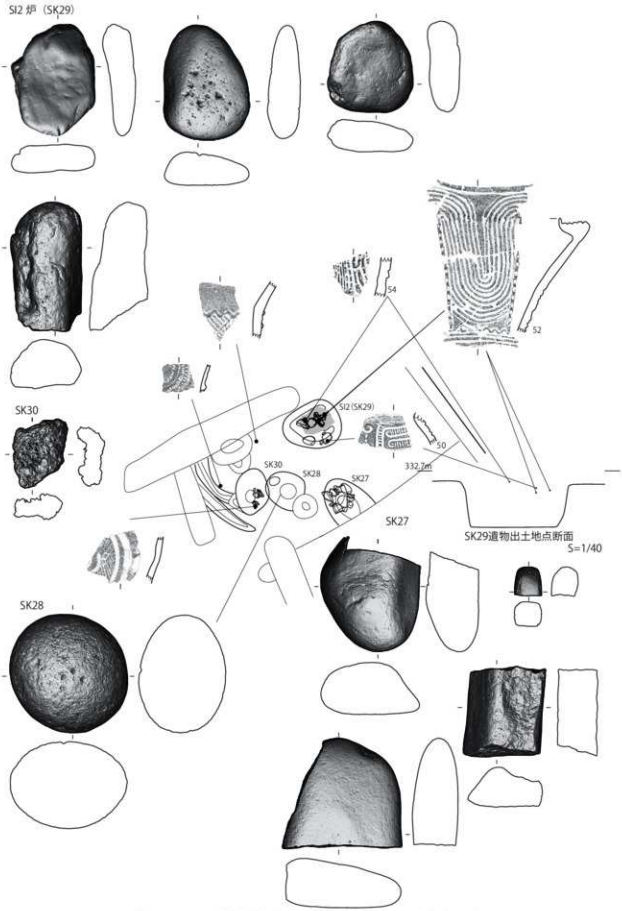

第 39 図　SI1 周辺の SX から出土した遺物実測図（土器）



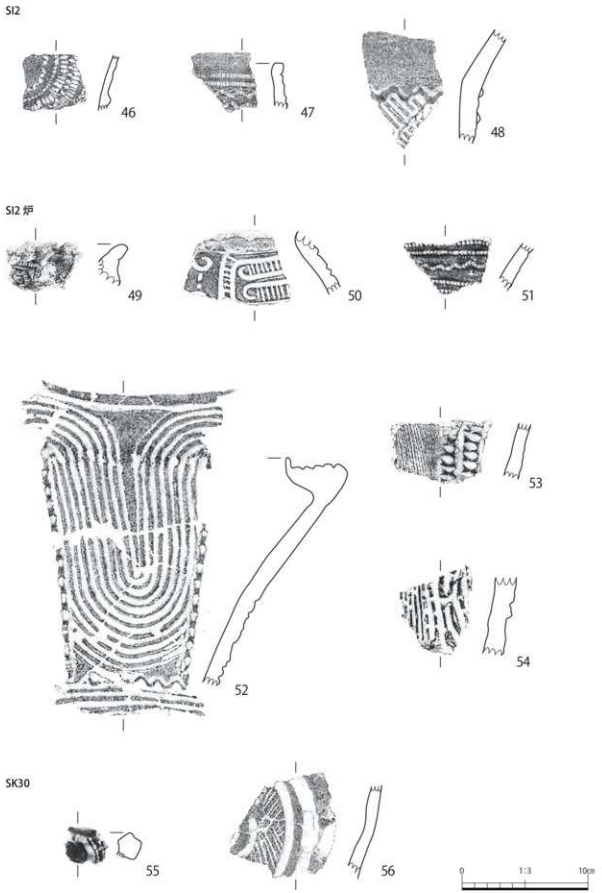

第 40 図　SI1 と周辺の遺構の遺物出土分布図（石器・石材）（平面）



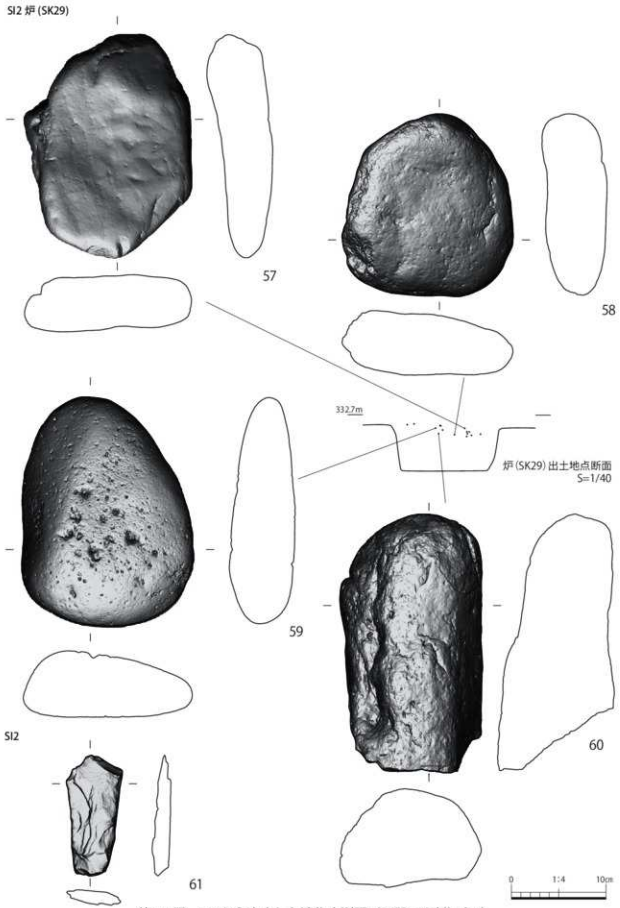

第 41 図　SI1 と周辺の遺構から出土した遺物実測図（石器・石材）



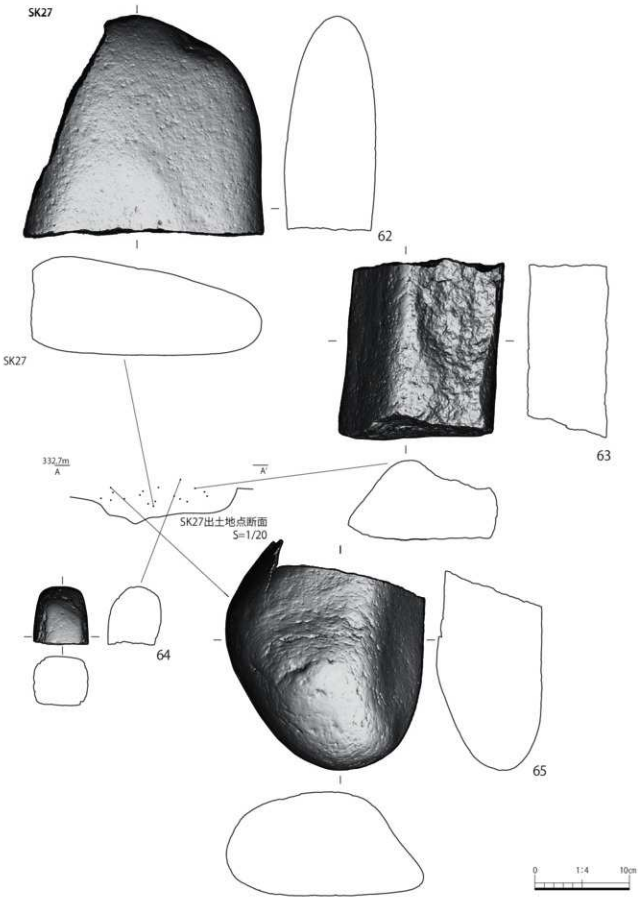

第 42 図　SI2 遺物出土分布図（土器・石器・石材）（平面）



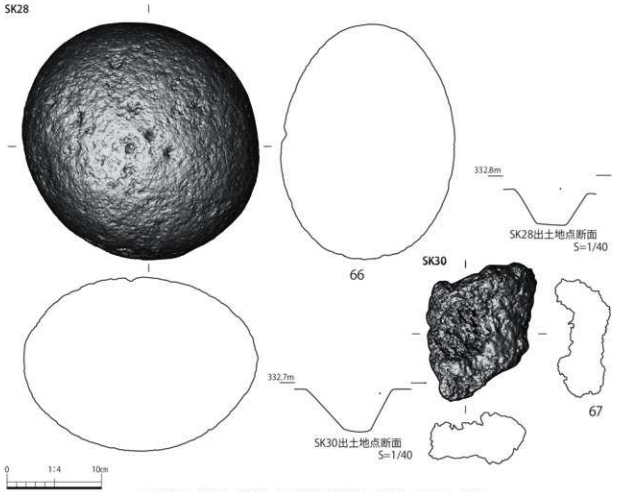

第 43 図　SI2 から出土した遺物実測図（土器）



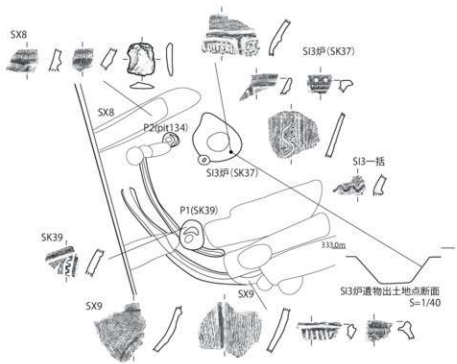

第 44 図　SI2 から出土した遺物実測図（石器・石材）（1）



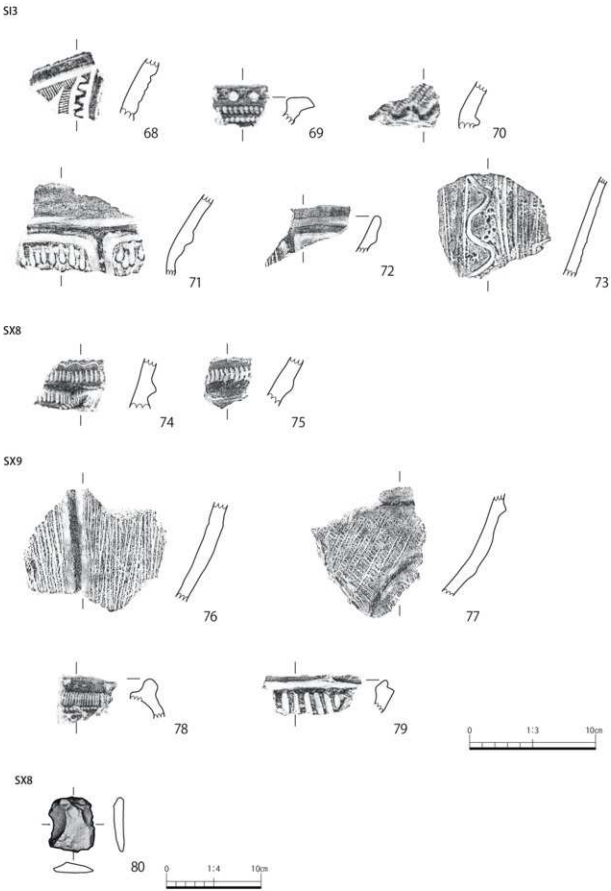

第 45 図　SI2 から出土した遺物実測図（石器・石材）（2）



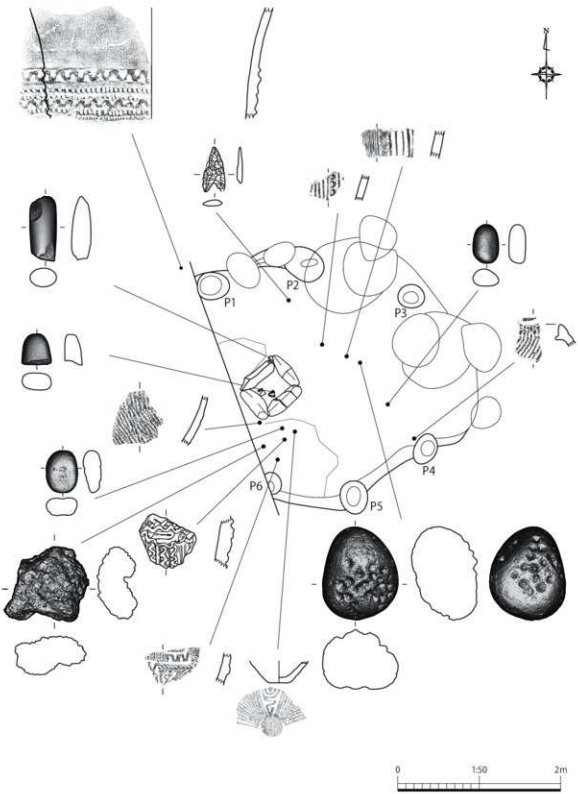

第 46 図　SI2 から出土した遺物実測図（石器・石材）（3）



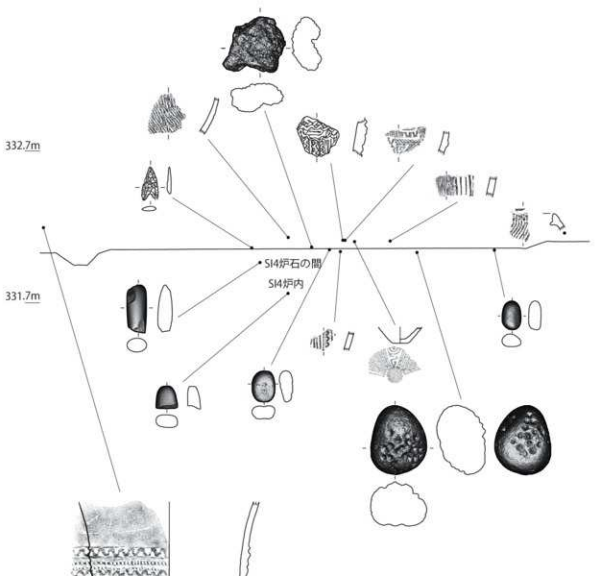

第 47 図　SI3 と周辺の遺構から出土した遺物出土分布図（土器）（平面）




第 48 図　SI3 と周辺の遺構から出土した遺物実測図（土器・石材）

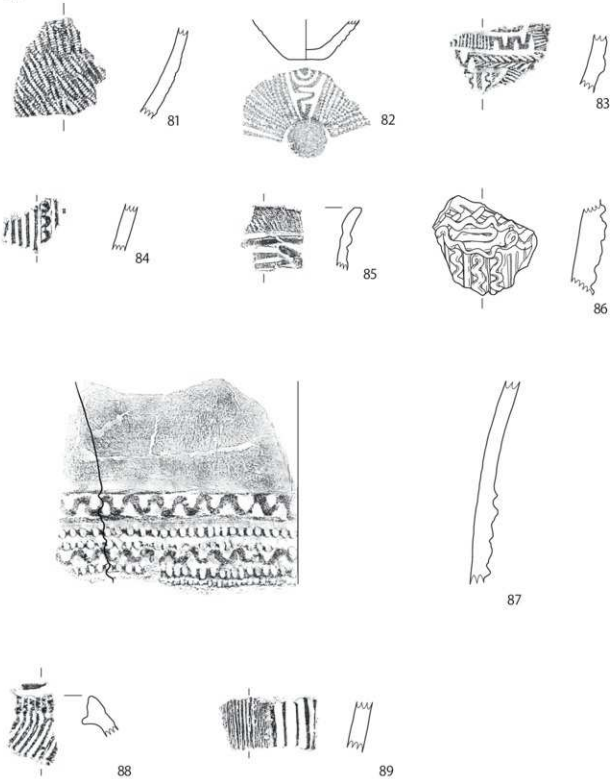



第 49 図　SI4 遺物出土分布図（土器・石器・石材）（平面）

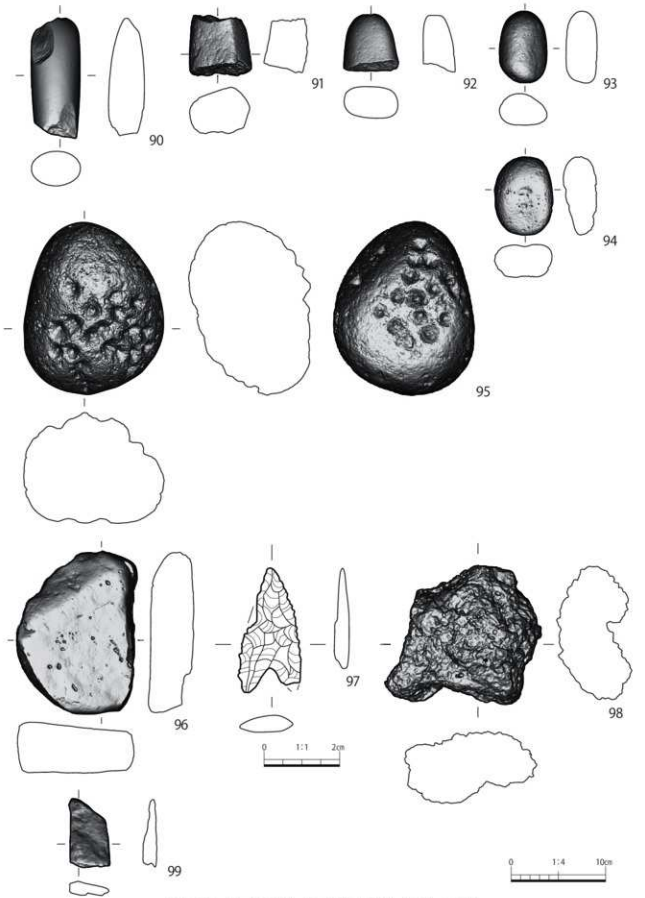



第 50 図　SI4 遺物出土分布図（土器・石器・石材）（断面）

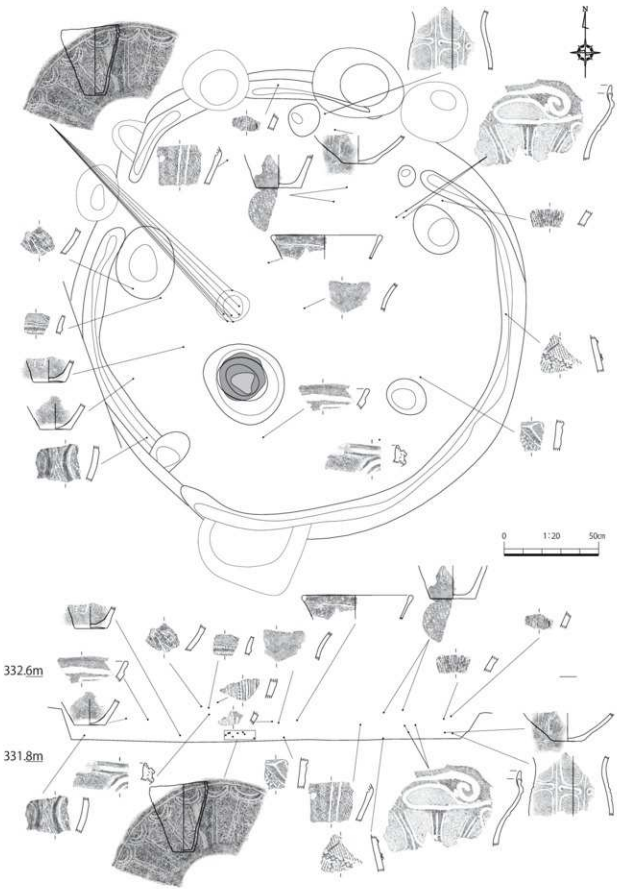
SI4



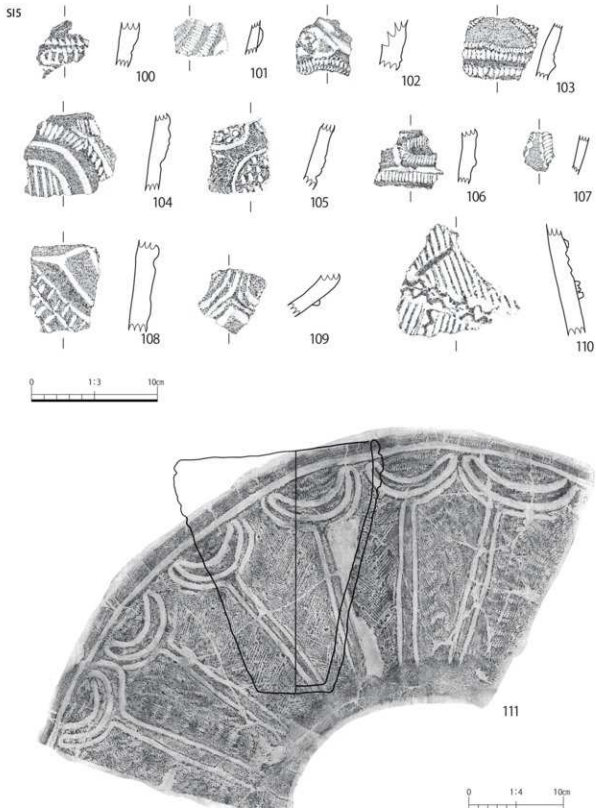

第 51 図　SI4 から出土した遺物実測図（土器）



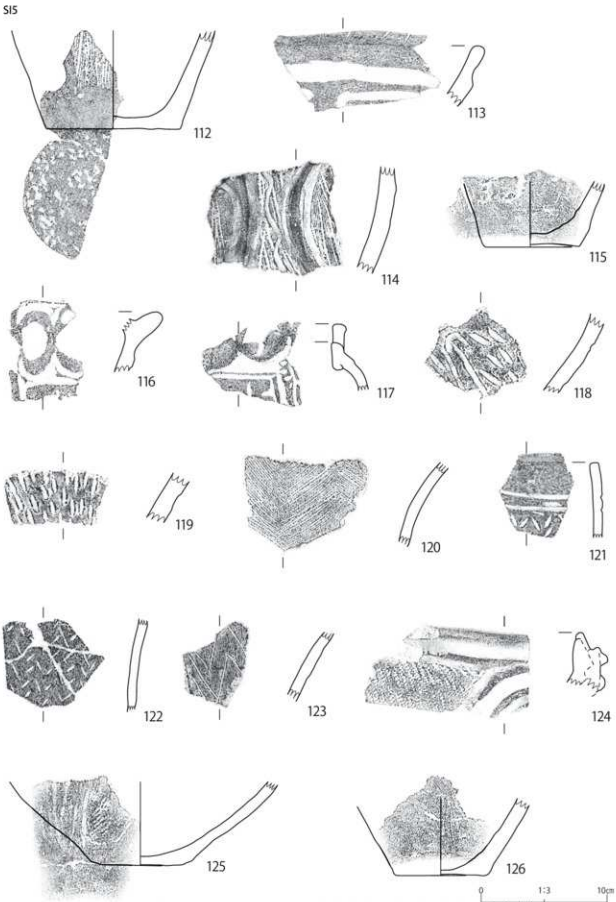

第 52 図　SI4 から出土した遺物実測図（石器・石材）



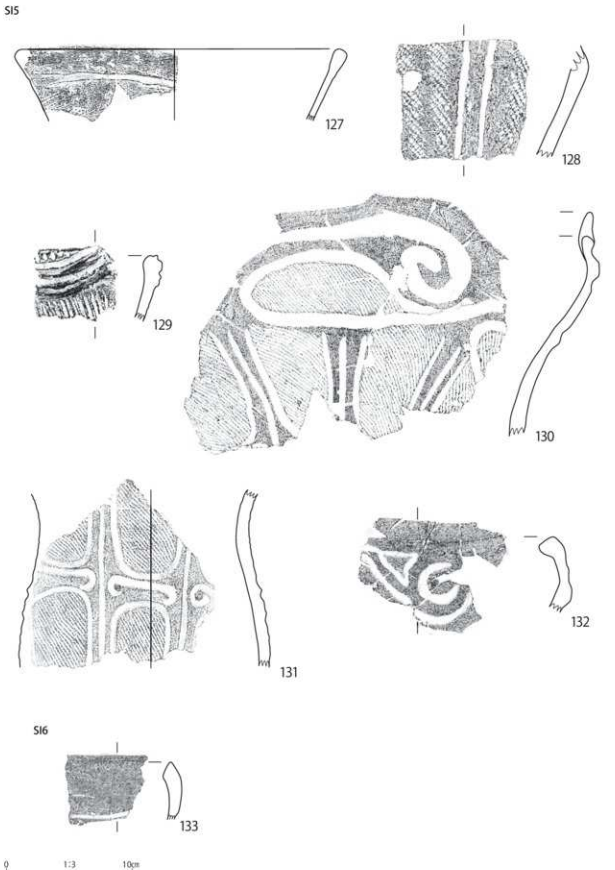

第 53 図　SI5 遺物出土分布図（土器）（平面・断面）



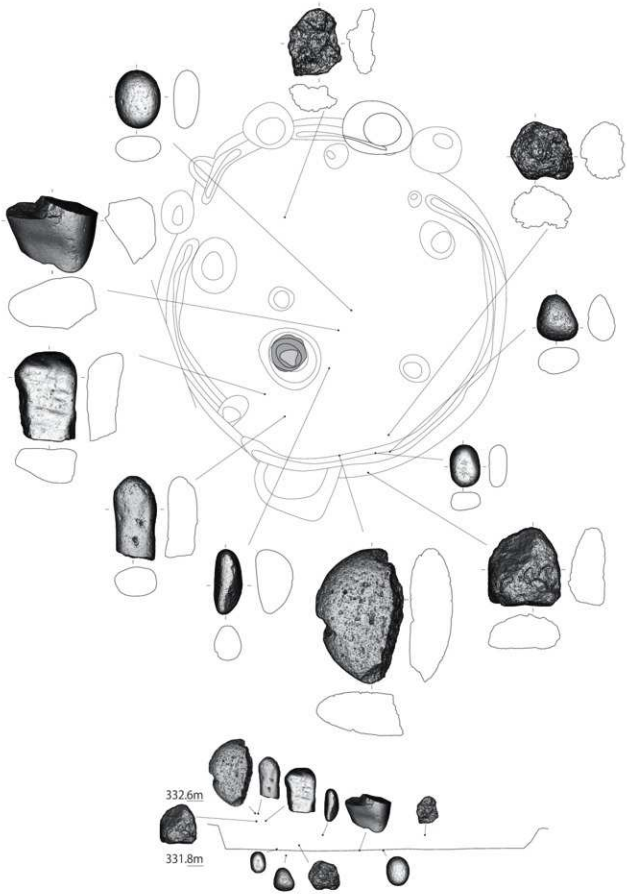

第 54 図　SI5 から出土した遺物実測図（土器）（1）



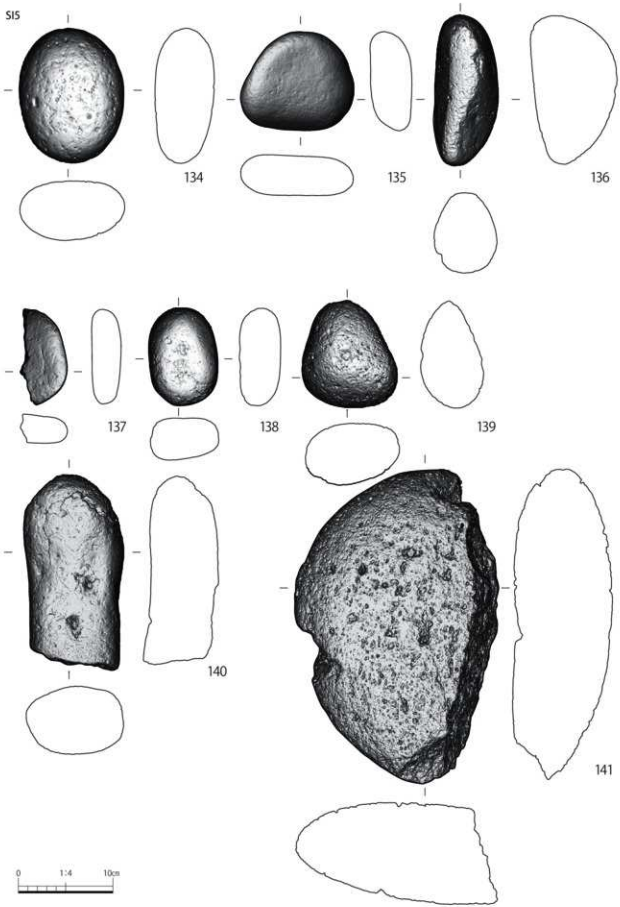

第 55 図　SI5 から出土した遺物実測図（土器）（2）



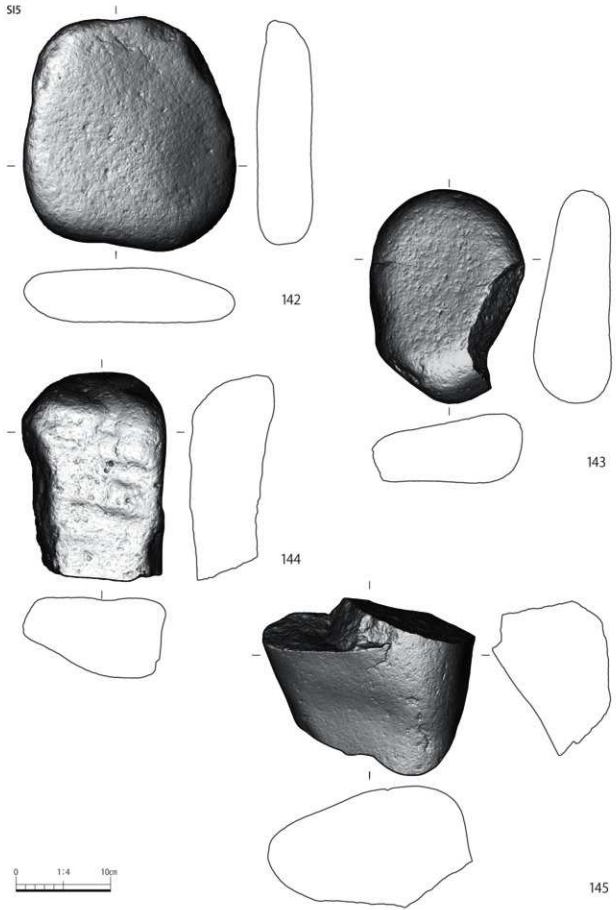

第 56 図　SI5(3)・SI6 から出土した遺物実測図（土器）



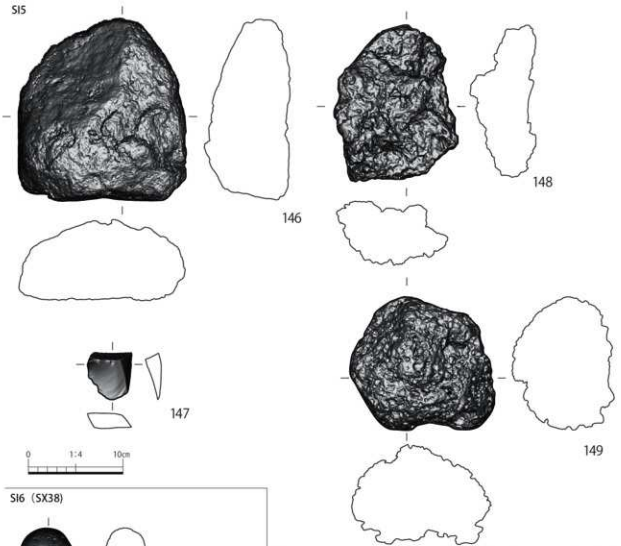

第 57 図　SI5 遺物出土分布図（石器・石材）（平・断面）



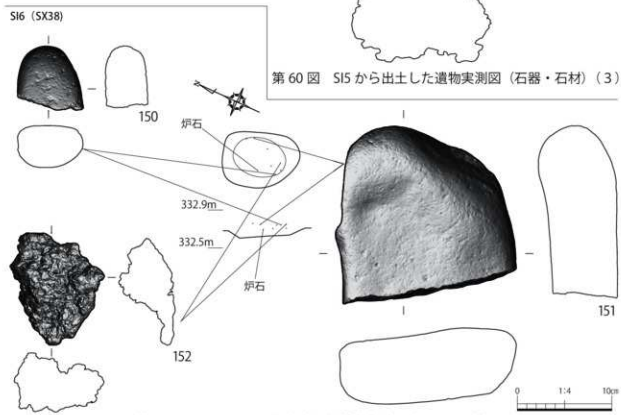

第 58 図　SI5 から出土した遺物実測図（石器・石材）（1）



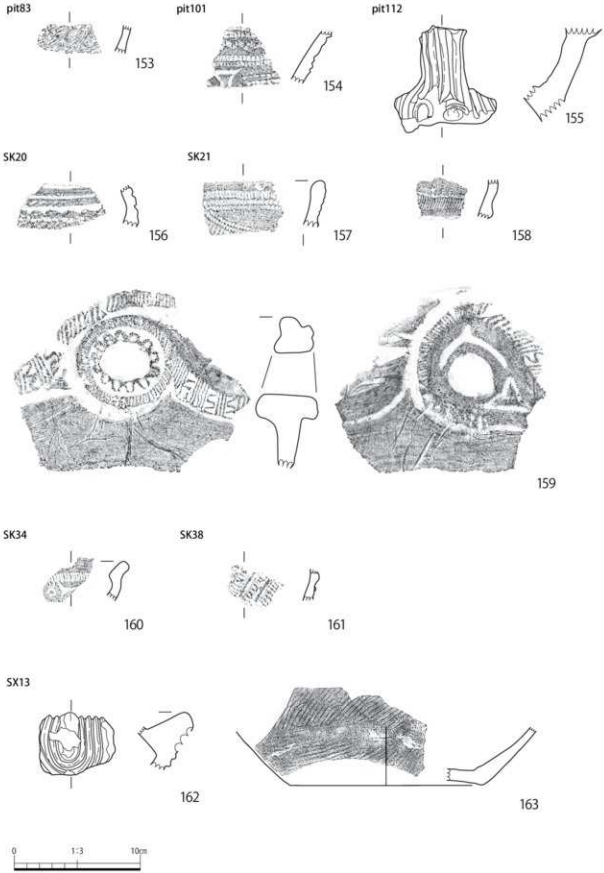

第 59 図　SI5 から出土した遺物実測図（石器・石材）（2）



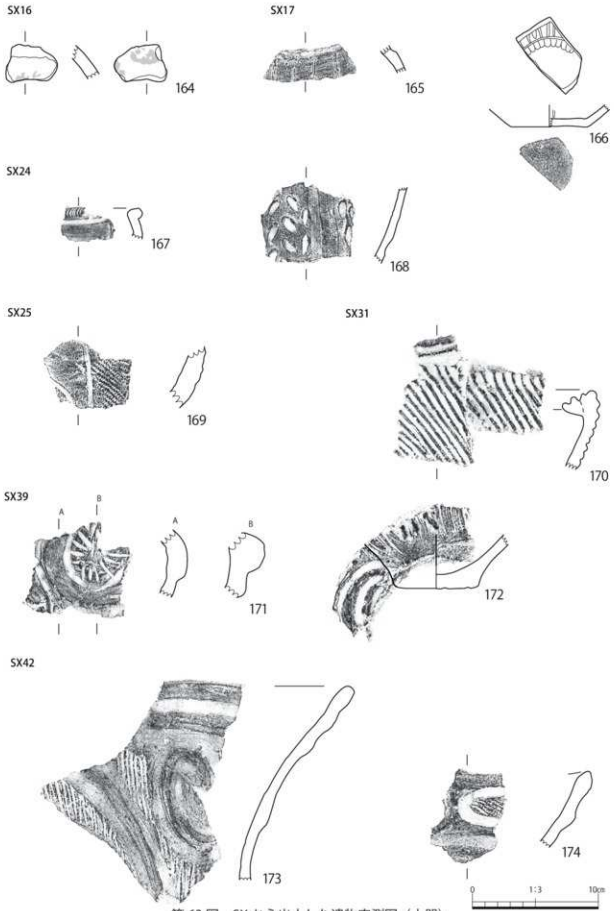

第 60 図　SI5 から出土した遺物実測図（石器・石材）（3）



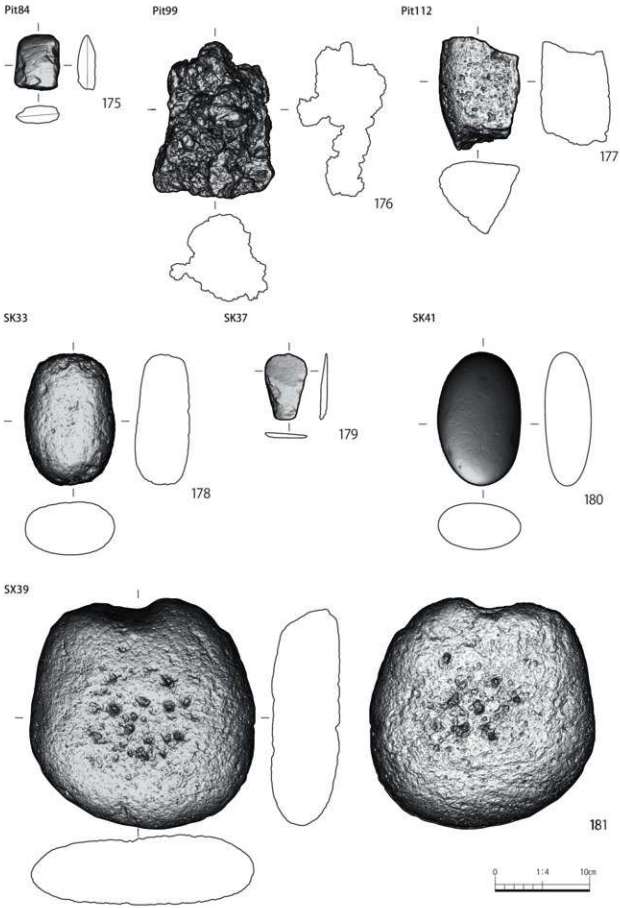

第 61 図　SI6(SX38) から出土した遺物実測図（石器・石材）



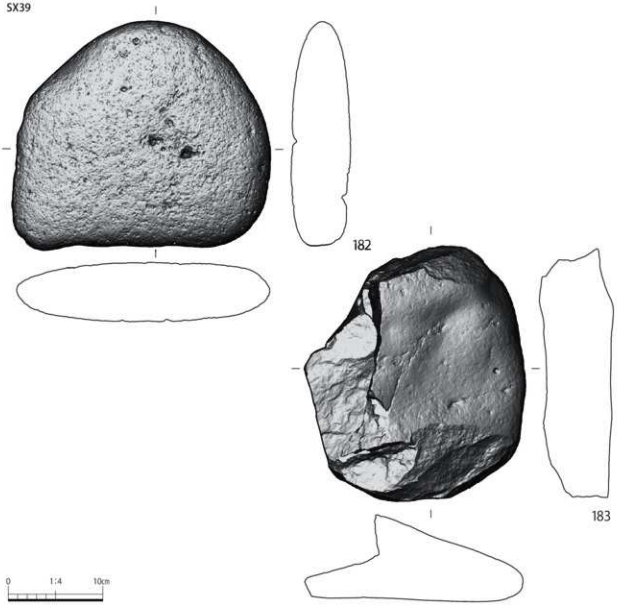

第 62 図　pit・SK・SX から出土した遺物実測図（土器）



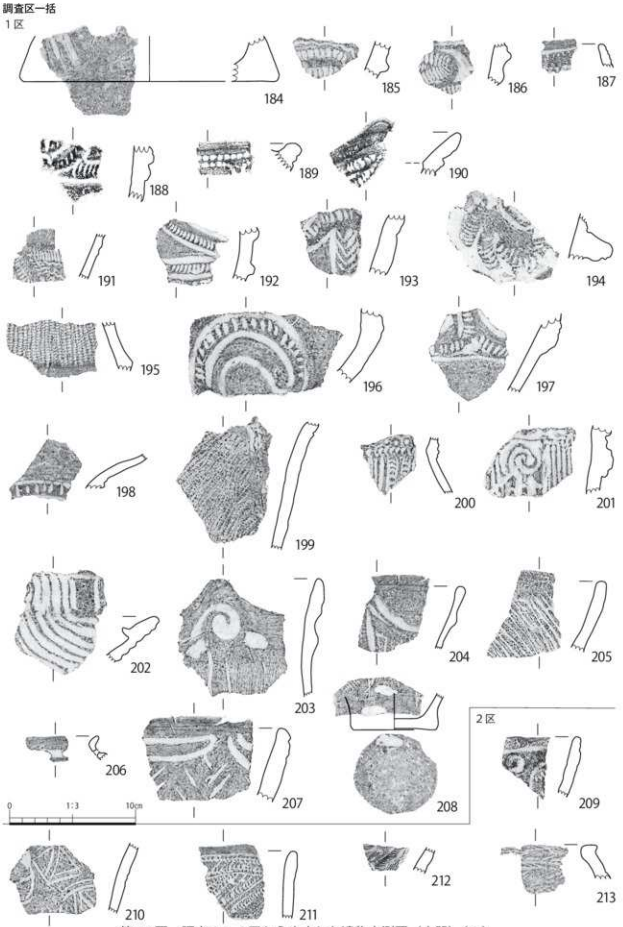

第 63 図　SX から出土した遺物実測図（土器）



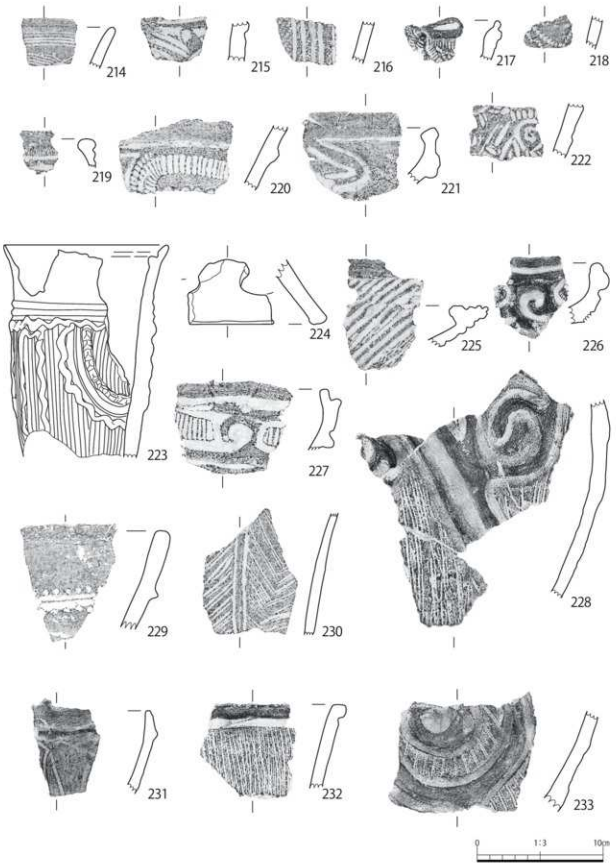

第 64 図　pit・SK・SX から出土した遺物実測図（石器・石材）



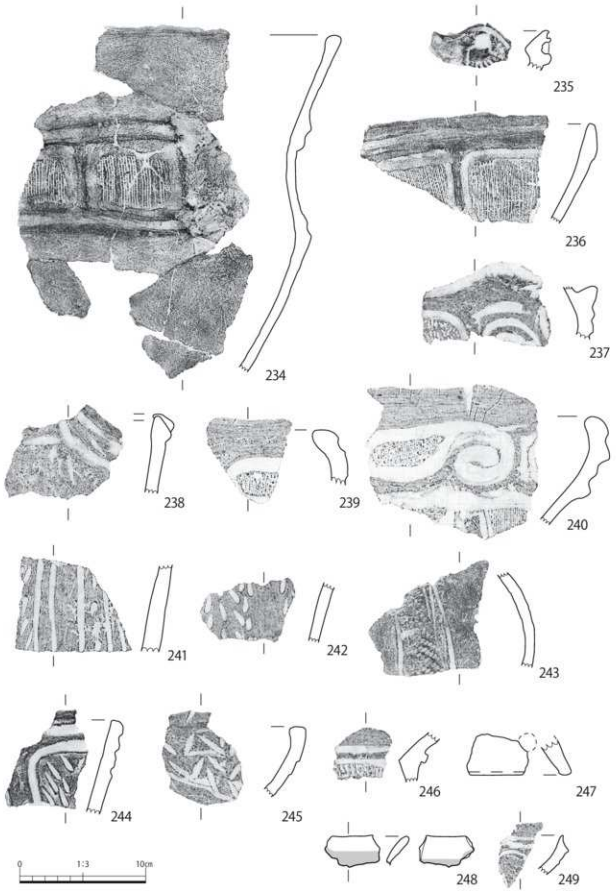

第 65 図　SX から出土した遺物実測図（石器・石材）



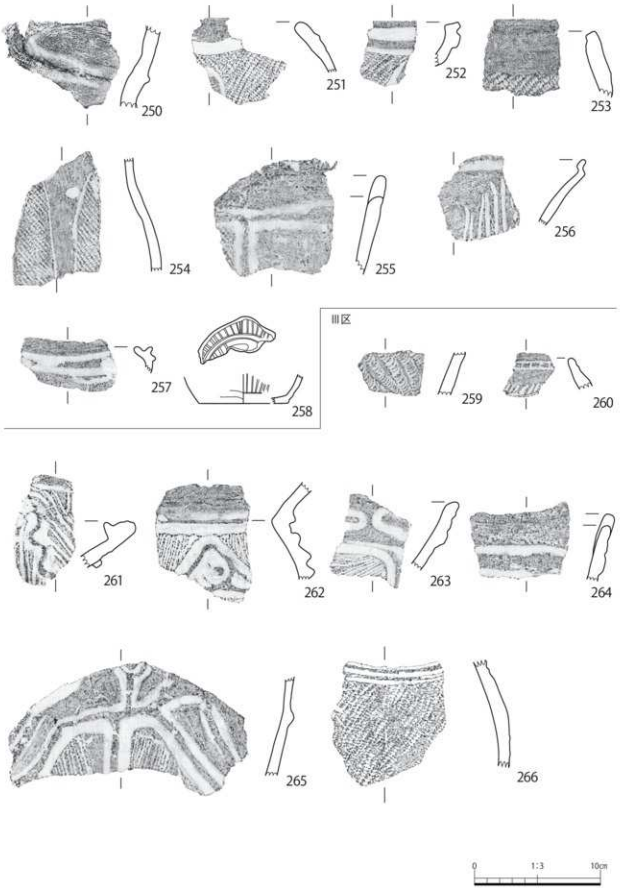

第 66 図　調査１・２区から出土した遺物実測図（土器）（１）



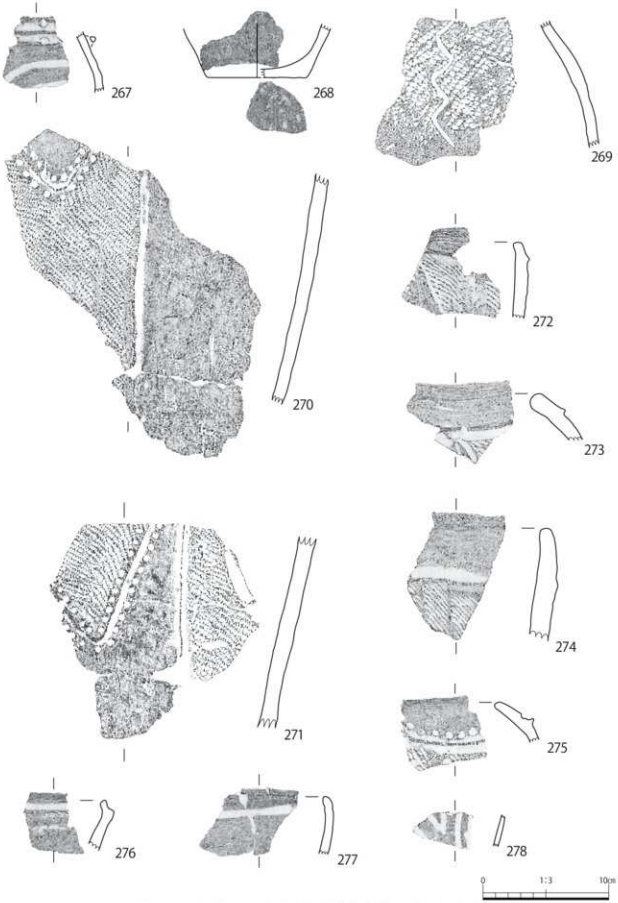

第 67 図　調査 2 区から出土した遺物実測図（土器）（2）



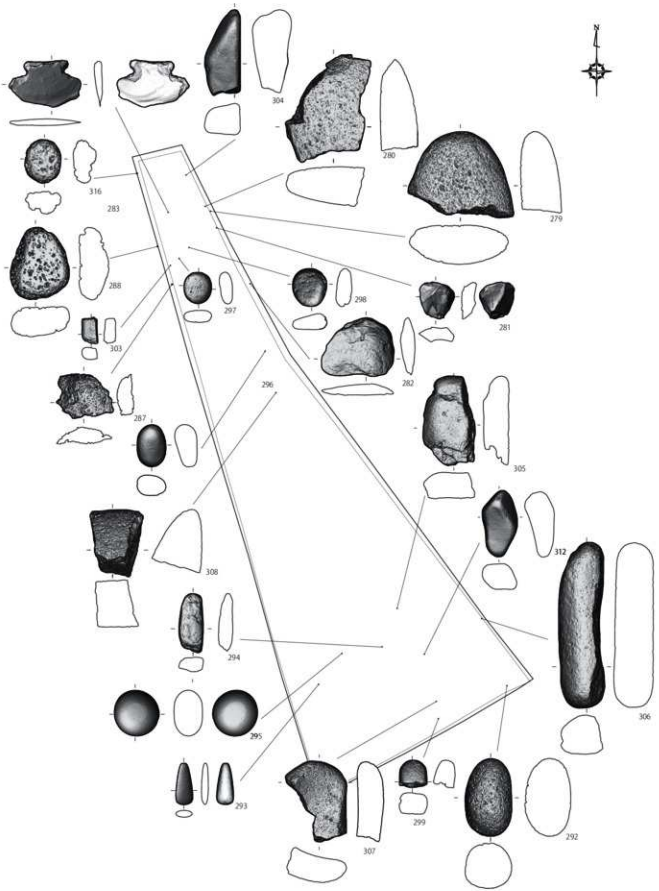

第 68 図　調査 2 区から出土した遺物実測図（土器）（3）



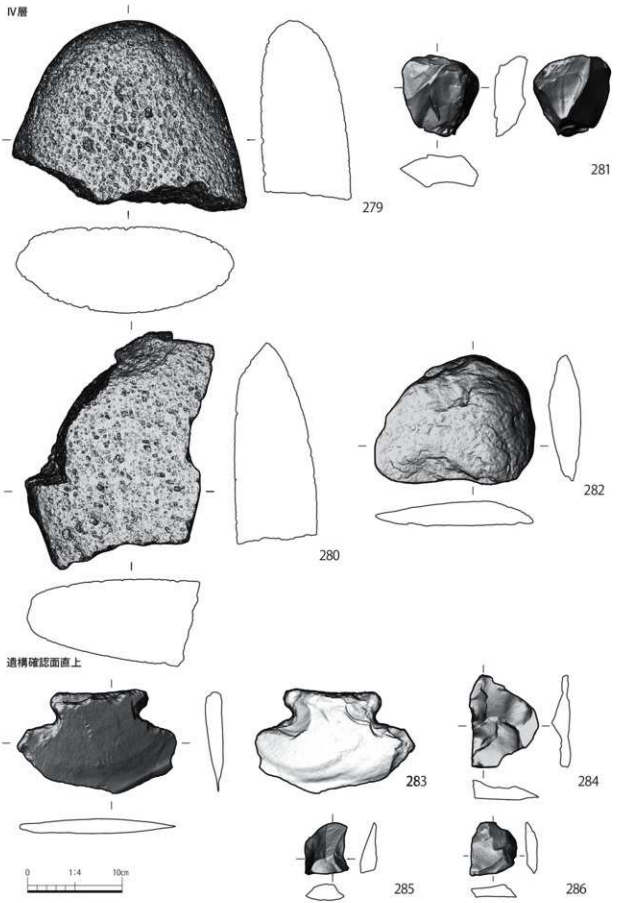

第 69 図　調査 2・3 区から出土した遺物実測図（土器）（4）



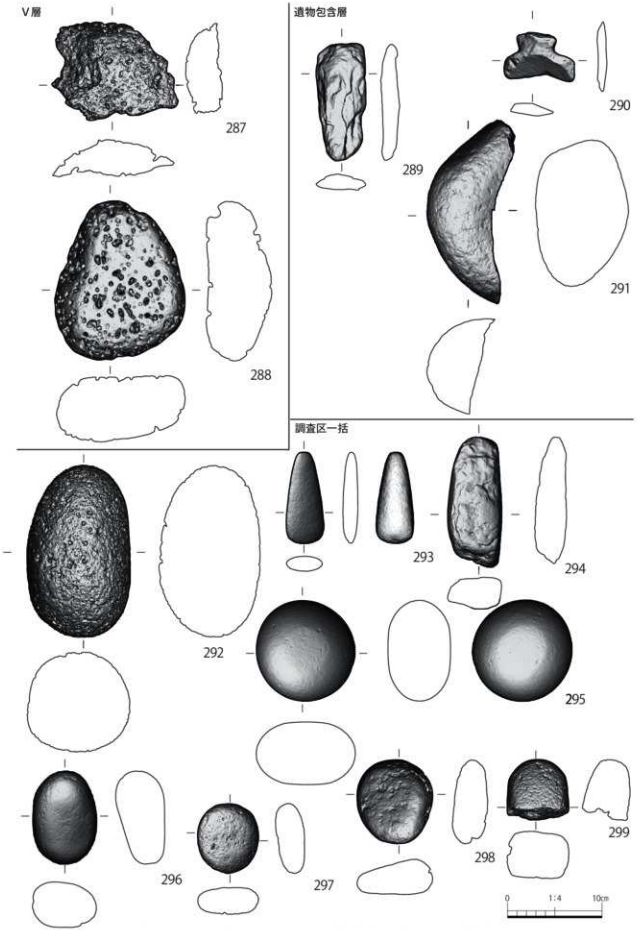

第 70 図　調査 3 区から出土した遺物実測図（土器）（5）



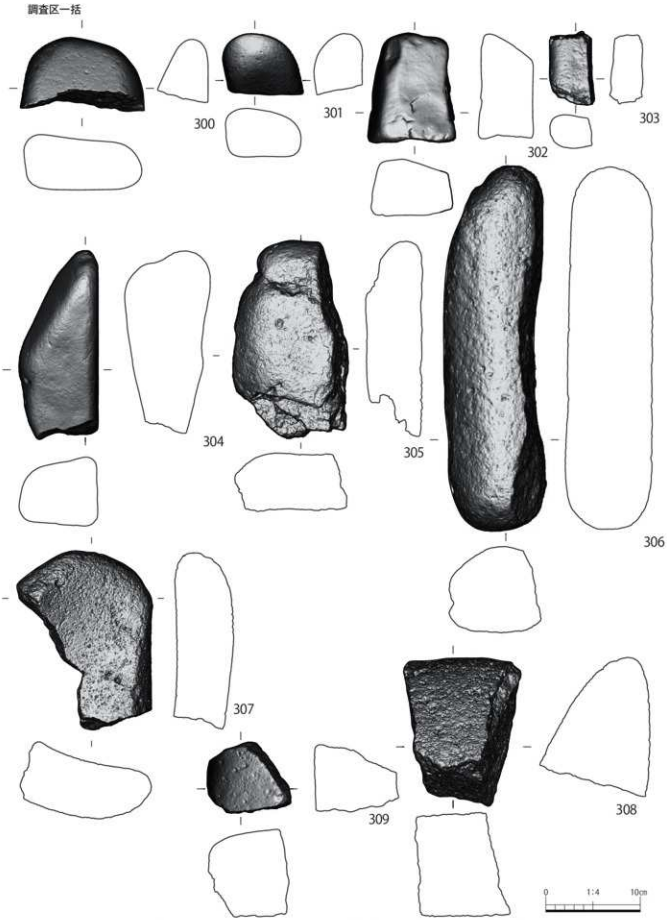

第 71 図　調査区から出土した遺物分布図（石器・石材）



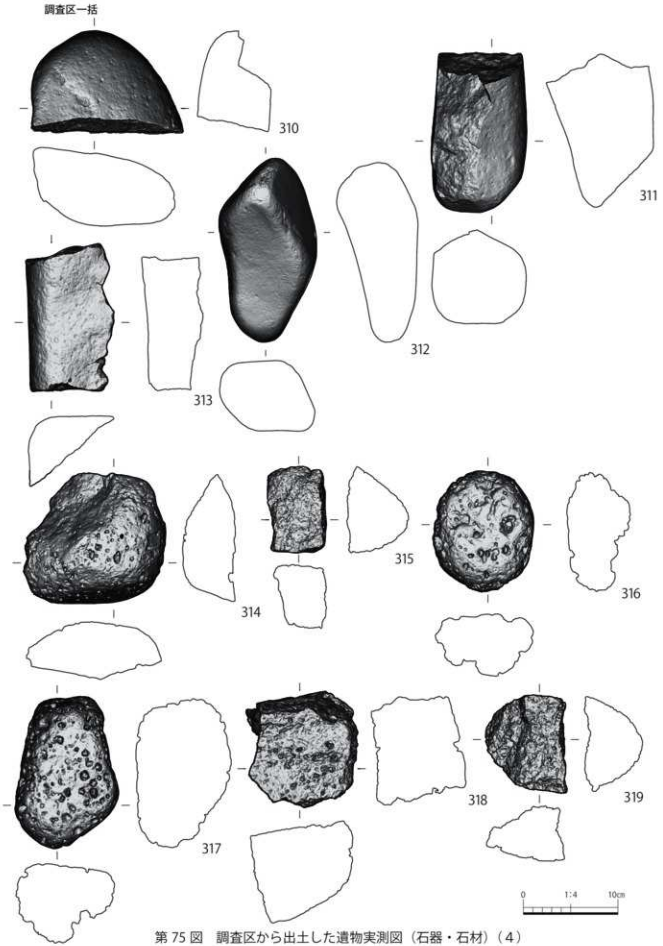

第 72 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（1）



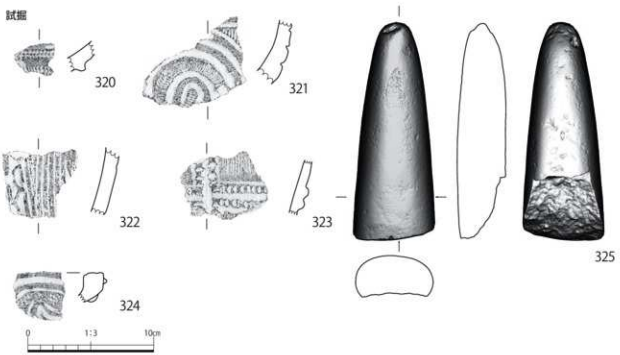

第 73 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（2）




第 74 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（3）




第 75 図　調査区から出土した遺物実測図（石器・石材）（4）




第 76 図　試掘調査で出土した遺物実測図（土器・石器）

## 表6　土器観察表（1）

| 報告No | 地区 | 出土遺構 | 取り上げNo. | 器種 | 部位 | 法量 口径 | 法量 底径 | 法量 器高 | 色調 外面 | | 焼成 | 胎土 含有物 | 文様・調整 外面 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ⅲ区 | SI1炉 | 5 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.8> | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 三角区画文。隆帯上に縄文。 |
| 2 | Ⅲ区 | SI1炉 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.9> | 赤褐 | 5YR4/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 平行する隆帯上に半截竹管による押引き。隆帯間に棒状工具による刺突文。半截竹管による平行沈線。 |
| 3 | Ⅲ区 | SK1 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <5.2> | 褐 | 7.5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁端部で外に開く。口縁部は平行沈線。区画内は斜位の沈線。 |
| 4 | Ⅲ区 | SK1 | 一括 | 深鉢 | 底部 | − | (7.0) | <4.6> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 底部から僅かに張りだした後内傾しながら立ち上がる。内面にスス。 |
| 5 | Ⅲ区 | SK1 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.3> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）多い、白色粒多い、金色の雲母多い | 波状口縁。連続刺突による斜位の沈線。縦方向の沈線は口縁端部の上まで延びる。裏面は波状口縁に沿って沈線。 |
| 6 | Ⅲ区 | SK9 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <8.5> | 褐 | 7.5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 楕円形区画文。隆帯の区画内に縦位の沈線。隆帯上に2箇所の刻み。体部はケズリ。 |
| 7 | Ⅲ区 | SK11 | 2 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.7> | 明赤褐 | 5YR5/8 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 施文後表面を撫でる。弧状の沈線。 |
| 8 | Ⅲ区 | SK11 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.5> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、雲母 | 浅い沈線。渦巻文に沿って放射状に太い沈線を施す。 |
| 9 | Ⅲ区 | SK11 | 1 | 深鉢 | 底部～体部下 | − | 8.0 | <4.5> | 明赤褐 | 5YR5/8 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 上げ底の底部。底部からやや内傾しながら立ち上がる。渦巻文?斜位の沈線。 |
| 10 | Ⅲ区 | SK7 | 一括 | 土製円盤 | | 3.3 | 3.2 | 1.2 | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 土製円盤。 |
| 11 | Ⅲ区 | SK12 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <5.7> | 明褐 | 7.5YR5/8 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 口縁部に区画文。口縁端部は口縁部に沿って沈線。体部は沈線。 |
| 12 | Ⅲ区 | pit19 | 1 | 深鉢 | 底部～体部 | − | (18.0) | <13.4> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 隆帯上に連続爪型文。体部は縦位の沈線。底部はやや上げ底。 |
| 13 | Ⅲ区 | pit6 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <4.5> | 明黄褐 | 10YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、雲母 | 斜行条線。 |
| 14 | Ⅲ区 | pit20 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (20.0) | − | <5.8> | 明黄褐 | 10YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 口縁部は外に開いて立ち上がる。口縁端部は肥厚する。口縁部は無文。頸部に沈線。 |
| 15 | Ⅲ区 | pit58 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.9> | 褐 | 10YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 平行する連続爪型文。金色の雲母を多く含む。 |
| 16 | Ⅲ区 | pit58 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.1> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 波状口縁の突起部分。口縁端部中央に外側に沿って沈線を巡らす。内外に赤彩。 |
| 17 | Ⅲ区 | pit59 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.5> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、赤色粒 | 口縁端部で僅かに外反。上段は角押文、中段は三角押文、下段は棒状工具による刺突文。外面に赤彩。 |
| 18 | Ⅲ区 | SK15 | 3,24,34,35,38,41,44,46、一括 | 深鉢 | 口縁部 | (47.0) | − | <12.0> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部は無文。 |
| 19 | Ⅲ区 | SK15 | 4,5,20,45、一括 | 深鉢 | 口縁部 | (52.0) | − | <17.3> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 垂弧文。 |
| 20 | Ⅲ区 | SK15 | 13,14,21,40,47,57,61、一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | − | − | <30.4> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 垂弧文。頸部は波状隆帯の区画に斜位の沈線。沈線上に交差する斜位の隆帯。体部は沈線。 |
| 21 | Ⅲ区 | SK15 | 42、一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <10.4> | にぶい黄橙 | 107/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | 口縁部は外に開く。頸部は横位の5条の波状隆帯。 |
| 22 | Ⅲ区 | SK15 | 65,70,72,74,84 | 深鉢 | 体部 | − | − | <13.1> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母 | 地文は沈線。5条の縦位の沈線と縦位の1条の波状隆帯の組合せ。109と同一個体か。 |
| 23 | Ⅲ区 | SK15 | 67,71 | 深鉢 | 体部 | − | − | <17.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 三条の太い沈線で区画。区画内は縄文と波状隆帯。 |
| 24 | Ⅲ区 | SK15 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <15.1> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母 | 地文は沈線。5条の縦位の太い沈線と縦位の1条の波状隆帯の組合せ。108と同一個体か。 |
| 25 | Ⅲ区 | SK15 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.8> | 橙 | 5YR6/8 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | 楕円区画文。区画内はキャタピラー文と三角を波状に刺突。 |
| 26 | Ⅲ区 | SX1 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <9.8> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母多い | 横位の沈線。 |
| 27 | Ⅲ区 | SX2 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.8> | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 沈線による抽象文? |
| 28 | Ⅲ区 | SX2 | 一括 | 坏 | 底部 | − | (5.0) | <0.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 密 | 底部から外に開く。底に沈線。小型。 |
| 29 | Ⅲ区 | SX4 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.3> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 角押文。 |
| 30 | Ⅲ区 | SX12 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.2> | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、繊維 | 地文は縄文。繊維を含む。 |
| 31 | Ⅲ区 | SX12 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.5> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 横位、斜位の沈線。連続爪型文。 |
| 32 | Ⅲ区 | SX12 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.2> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母 | 半截竹管による連続刺突文。棒状工具による刺突文。表面を撫でる。 |
| 33 | Ⅲ区 | SX12 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.4> | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 内面に赤彩。 |
| 46 | Ⅱ区 | SI2 | 3 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.4> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母、径5mm大レキ | 楕円区画文。隆帯の両側にキャタピラー文。隆帯上に刻み。区画内の2列の刺突文は細かい連続する刺突と不規則な刺突。 |
| 47 | Ⅱ区 | SI2 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (40.0) | − | <3.6> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁端部は僅かに外反。2条の平行沈線と2条の蛇行沈線。沈線内は半截竹管による押引き（角押文?） |
| 48 | Ⅱ区 | SI2 | 2 | 深鉢 | 頸部 | − | − | <9.2> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 半截竹管による斜位の稜線整形。その上に波状隆帯。隆線に交差する斜位の隆帯。隆帯上を押して凹凸を作る。 |
| 49 | Ⅱ区 | SI2SK29 | 9 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.3> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）多い、白色粒多い、金色の雲母 | 口縁部は外反する。剥離が著しいが隆帯の両側面にキャタピラー文が巡ると思われる。 |
| 50 | Ⅱ区 | SI2SK29 | 7 | 深鉢 | 体部 | − | − | <5.0> | 褐灰 | 7.5YR4/1 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、雲母 | 表面ミガキ。区画内の隆帯上に縦位のみ半截竹管の外皮側（D字）の刺突。区画内は横J字、逆横J字の沈線。沈線間を棒状工具による縦位の沈線。渦巻状の沈線の下に刺突。 |
| 51 | Ⅱ区 | SI2SK29 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.8> | にぶい橙 | 5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）と白色粒多い、金色の雲母 | 横位の2条の連続刺突文の間に1条の波状の連続刺突文。 |
| 52 | Ⅱ区 | SI2SK29 | 9,13 | 深鉢 | 口縁部～頸部 | (52.0) | − | <18.2> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、赤色粒、雲母 | 垂弧文。 |
| 53 | Ⅱ区 | SI2SK29 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.5> | にぶい黄褐 | 10YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 地文は条線。幅広の隆帯上に刻み。 |
| 54 | Ⅱ区 | SI2SK29 | 2 | 深鉢 | 体部 | − | − | <6.2> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、赤色粒、金色の雲母 | 地文は細い半截竹管による条線整形。隆線上に半截竹管による不規則な刺突文。 |
| 55 | Ⅱ区 | SI2SK30 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <2.1> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、赤色粒、雲母 | ボタン上突起。両側の沈線内に細い棒状工具による刺突文。 |
| 56 | Ⅱ区 | SI2SK30 | 1 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.4> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒赤色粒、金色の雲母 | 隆帯により楕円形区画文を作る。隆帯に沿って幅広の沈線が巡る。区画内は斜位の沈線。渦巻文か? |
| 68 | Ⅱ区 | SK39 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.9> | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、雲母 | 三角区画文。波長の長い蛇行文。三角形を呈すると思われる平坦な隆帯上にはキャタピラー文。 |

# 表7　土器観察表（2）

| 報告No | 地区 | 出土遺構 | 取り上げNo. | 器種 | 部位 | 法量 口径 | 法量 底径 | 法量 器高 | 色調 外面 | | 焼成 | 胎土 含有物 | 文様・調整 外面 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | II区 | SK37 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <2.2> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母 | 外に開く。口縁端部は棒状工具による押圧。頸部は、円形竹管による平行刺突文。上段の刺突文は2度の刺突。 |
| 70 | II区 | SI3 | 一括 | 深鉢 | 頸部 | − | − | <3.7> | 褐 | 10YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 粘土紐による波状隆帯。地文は縄文。 |
| 71 | II区 | SK37 | 1 | 深鉢 | 体部 | − | − | <6.5> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 連続する方形の区画文。区画内は棒状工具による縦位の太い沈線。 |
| 72 | II区 | SK37 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.8> | 灰褐 | 7.5YR4/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 外・内面共に磨き。連続する方形の区画文。区画内は縦位の条線。 |
| 73 | II区 | SK37 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <8.0> | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | やや外反する。地文は不規則な幅の条線。縦位の蛇行沈線。破片上部にスス。 |
| 74 | III区 | SX8 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 隆帯に沿ってキャタピラー文。破片上部に波状沈線。破片下部に斜位の隆帯?隆帯に沿って刺突文? |
| 75 | III区 | SX8 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 隆帯に沿って爪型文。 |
| 76 | III区 | SX9 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.9> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 地文は条線。垂下する隆帯。 |
| 77 | III区 | SX9 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <8.1> | 褐 | 7.5YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 斜位の沈線と直交する刻み。破片上部と下部に円形区画文? |
| 78 | III区 | SX9 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.1> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 破片下部に玉抱三叉文。ペン先状工具の連続刺突による三角押文。キャタピラー文。 |
| 79 | III区 | SX9 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <2.6> | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 内湾しながら立ち上がり肩を作る。口縁端部は外に開く。縦位の太い沈線。 |
| 81 | I区 | SI4 | 79 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.3> | にぶい黄褐 | 10YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 地文は縄文、4条1単位。 |
| 82 | I区 | 調査区 | 66 | 深鉢 | 底部 | − | 2.8 | <3.2> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒 | やや内湾しながら立ち上がる。底径は小さい。内面は丁寧なミガキ。地文は半截竹管による縦位の細かい刺突文。3箇所の縦位の文様帯を有し、2箇所は渦巻と蛇行する沈線、1箇所は幅広の縦位の沈線と細かい波状隆帯。外面は底と破片の1/3にスス。内面は黒色化。 |
| 83 | I区 | SI4 | 51 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.6> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 三角形の区画文。三角区画の横位の隆帯上に沈線による三角押文と互い違いの刺突文。斜位の隆帯上にキャタピラー文。横位の幅広の隆帯上にキャタピラー文と互い違いの刺突文。縦位の隆帯上にはキャタピラー文。 |
| 84 | I区 | SI4 | 88 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 縦位の半截竹管による隆線整形。縦位の波状隆帯。 |
| 85 | I区 | SI4 | 3 | 深鉢 | 体部 | − | − | <5.1> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母多い | 口縁部は外に開く。口縁部は縄文。体部は隆帯と太い沈線。 |
| 86 | I区 | SI4 | 54 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.3> | 灰褐 | 7.5YR4/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 地文は条線。その上に粘土紐を波状や渦巻させて貼り付けている。 |
| 87 | I区 | 調査区 | 91 | 深鉢 | 頸部～体部 | <29.8> | − | <16.2> | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 口縁部は無文で外に開く。頸部に文様帯。体部の地文は条線。上段の細い隆帯に挟まれた区画には粘土紐を貼り付けた波状文。棒状工具による押圧を施された隆帯を挟んで、下段には2本の平行する隆帯間に粘土紐を貼り付けた波状文。 |
| 88 | I区 | SI4 | 6 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.3> | にぶい赤褐 | 5YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、赤色粒、雲母 | 垂弧文。 |
| 89 | I区 | SI4 | 57 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.1> | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母多い | 地文は条線。4本の縦位の平行隆帯。 |
| 100 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.6> | 明赤褐 | 5YR3/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | ペン先状工具による刺突。爪型文。 |
| 101 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.8> | 褐 | 7.5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 楕円区画文、隆帯に沿ってキャタピラー文と三角押文。 |
| 102 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.0> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 隆帯に沿って三角押文。隆帯上に連続爪型文。 |
| 103 | I区 | SI5 | 60 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.6> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 白色粒、金色の雲母 | 三角区画文。隆帯に沿ってキャタピラー文。区画内は半截竹管による連続刺突文。 |
| 104 | I区 | SI5 | ベルト一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <6.2> | 褐 | 7.5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 楕円区画文内は縦位の沈線。隆帯上に刻み。 |
| 105 | I区 | SI5 | ベルト一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <5.3> | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | 沈線による楕円区画内に刺突文。 |
| 106 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.3> | 赤褐 | 2.5Y4/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 楕円区画文、区画内と破片下段にキャタピラー文。 |
| 107 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.1> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 温泉マーク文。半截竹管による刺突文。 |
| 108 | I区 | SI5 | 173 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.3> | 赤褐 | 5YR4/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 沈線による区画。区画内は低い隆帯上に刻み。 |
| 109 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.4> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 隆帯による方形、楕円形の区画文。 |
| 110 | I区 | SI5 | 175 | 深鉢 | 体部 | − | − | <8.8> | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 頸部を挟んで斜位の条線と縦位の条線に分かれる。頸部には横位の隆線上に2条の波状の粘土紐を貼り付ける。 |
| 111 | I区 | SI5 | 134～138.140.153.161 | 深鉢 | 完形 | 20.5 | 7.8 | 21.8 | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母 | 口縁部に文様帯を持つ。6単位に区画され地文は条線の方向や刺突の向きを変えるなど各面異なる。内面の体部中から上は棒状工具による横位の丁寧なナデ。 |
| 112 | I区 | SI5 | 61, 調15 | 深鉢 | 底部～体部下 | − | (10.6) | <7.8> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 体部に縦位の条線。底部接続部をナデ。 |
| 113 | I区 | SI5 | 119 | 深鉢 | 口縁部 | (40.0) | − | <4.8> | 明黄褐 | 10YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 口縁端部でやや外反して立ち上がる。口縁部に沿って太い沈線。方形と思われる区画文。 |
| 114 | I区 | SI5 | 167 | 深鉢 | 体部 | − | − | <8.5> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色、赤色粒多い、雲母 | 楕円区画文。区画内は条線。区画間には条線と縦位の波状沈線。 |
| 115 | I区 | SI5 | 182 | 深鉢 | 底部～体部下 | − | 7.6 | <5.2> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | やや上げ底状の底部。縦位の太い沈線。体部の一方にスス。 |
| 116 | I区 | SI5 | ベルト一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <4.8> | にぶい黄 | 2.5Y6/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 口縁部突起。 |
| 117 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 口縁部突起 | − | − | <5.3> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 突起部 |
| 118 | I区 | SI5 | 70 | 深鉢 | 体部 | − | − | <6.3> | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 刺突文。太い沈線。 |
| 119 | I区 | SI5 | 110 | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.0> | にぶい褐 | 5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 刺突文。 |
| 120 | I区 | SI5 | 115, 北一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <6.5> | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色、赤色粒、金色の雲母多い | 斜位の深い沈線で区画。区画内は条線。 |
| 121 | I区 | SI5 | ベルト一括 | 深鉢 | 体部 | (28.0) | − | <6.0> | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 口縁部に二条の平行沈線。「ハ」字。 |
| 122 | I区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.5> | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 「ハ」の字。 |

# 表8　土器観察表（3）

| 報告No | 地区 | 出土遺構 | 取り上げNo. | 器種 | 部位 | 法量 | | | 色調 | | 焼成 | 胎土 | 文様・調整 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | | | 含有物 | 外面 |
| 123 | Ⅰ区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <5.5> | 黒褐 | 10YR3/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 斜位の沈線。 |
| 124 | Ⅰ区 | SI5 | 118 | 壺? | 体部 | － | － | <4.8> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部と体部の間に隆帯を望U状に貼り付ける。地文は縄文。2条の曲線の隆帯が残る。最大径の下部を横位に磨消。体部にスス。 |
| 125 | Ⅰ区 | SI5 | 142 | 深鉢 | 底部～体部下 | － | 7.8 | <7.2> | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 底部から外に開いて内湾しながら立ち上がる。体部下に僅かにU字の区画と縄文が確認できる。体部の半分にスス。 |
| 126 | Ⅰ区 | SI5 | 150 | 深鉢 | 底部～体部下 | － | 7.5 | <6.1> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 底部から外に開き内湾して立ち上がる。体部にスス。 |
| 127 | Ⅰ区 | SI5 | 89 | 甕 | 口縁部 | － | － | <5.7> | 黒褐 | 10YR3/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部に一条の横位の太い沈線。無文。沈線下に斜位の細かい条線。外面黒色化。 |
| 128 | Ⅰ区 | SI5 | 94 | 深鉢 | 体部 | － | － | <8.9> | 明黄褐 | 10YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 二条の縦位の太い沈線。地文は縄文。底部と内面にスス。 |
| 129 | Ⅰ区 | SI5 | ベルト一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <5.2> | 黒褐 | 2.5Y3/1 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部は内湾して立ち上がる。わずかに波状。口縁端部に口縁に沿って沈線が巡る。地文は条線。隆帯によって区画を作る。区画内は刺突文。外面は黒色。 |
| 130 | Ⅰ区 | SI5 | 111,112,141 | 深鉢 | 口縁部～体部上 | － | － | <17.8> | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）,雲母（微量） | 内湾しながら立ち上がる。口縁部に突起。口縁部は楕円形の区画文と渦巻文の組合せ。縦位の幅広の3条の沈線で区画される。区画内は縄文。体部にスス。 |
| 131 | Ⅰ区 | SI5 | 143 | 深鉢 | 体部 | － | － | <14.1> | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 長楕円形の区画を並べる。上下の区画間は横J、逆Jの組合せの施文。区画内は縄文。 |
| 132 | Ⅰ区 | SI5 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部上 | (19.2) | － | <6.0> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 口縁部は内湾して立ち上がる。口縁部は肥厚する。隆帯による渦巻文。 |
| 133 | Ⅱ区 | SI6 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (22.0) | － | <4.6> | 明赤褐 | 5YR5/8 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 両面ミガキ。最大径の下部の内外面にスス。幅広の沈線 |
| 153 | Ⅰ区 | pit83 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.3> | にぶい黄褐 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 浮線文。 |
| 154 | Ⅰ区 | pit101 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <3.2> | 橙 | 7.5YR6/8 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 角押文。 |
| 155 | Ⅰ区 | pit112 | 1 | 深鉢 | 把手 | － | － | <8.8> | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 口縁部装飾。 |
| 156 | Ⅰ区 | SK20 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <3.4> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 横位の沈線。刺突文と波状沈線。波状沈線の下に縄文。 |
| 157 | Ⅲ区 | SK21 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (26.0) | － | <3.8> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部は直線的に上に立ち上がる。口縁部に沿ってキャタピラー文。三角区画文。ペン先状工具の連続刺突による三角押文。 |
| 158 | Ⅲ区 | SK21 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <3.1> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | キャタピラー文。縦位のペン先状工具の連続刺突による三角押文。 |
| 159 | Ⅲ区 | SK21 | 1 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <12.4> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部突起部の装飾。 |
| 160 | | SK34 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <3.2> | 褐 | 7.5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 玉抱三叉文。 |
| 161 | | SK38 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.6> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 地文の条線上に粘土紐を貼り付け。 |
| 162 | Ⅱ区 | SX13 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <4.7> | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母 | 垂弧文。 |
| 163 | Ⅱ区 | SX13 | 一括 | 甕 | 底部～体部 | － | (16.0) | <4.7> | 灰黄褐 | 10YR5/2 | 良好 | 白色粒 | 底部から外に開き内湾して立ち上がる。底部はケズリ。体部及底部接合部角度の異なる斜位の条痕。底部との接合部は横位のナデ。内面は自然釉。 |
| 164 | Ⅱ区 | SX16 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.7> | 黒褐 | 10YR3/1 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、雲母 | 外内面に赤彩。 |
| 165 | Ⅱ区 | SX17 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.2> | にぶい橙 | 5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 縦位の鋭利な沈線。 |
| 166 | Ⅱ区 | SX17 | 一括 | 坏 | 底部 | － | (6.0) | <1.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂） | 底部から外に開く。内面に暗文。底部は回転糸切り後、外周をヘラナデ。 |
| 167 | Ⅱ区 | SX24 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <2.5> | 灰褐 | 7.5YR5/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部は「く」字に折れ曲がる。口縁端部に連続爪型文。体部はケズリ。 |
| 168 | Ⅱ区 | SX24 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <6.0> | 明赤褐 | 2.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 「ハ」字。 |
| 169 | Ⅱ区 | SX25 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <4.9> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 区画内は縄文。 |
| 170 | Ⅱ区 | SX31 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <2.5> | 橙 | 5YR6/8 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母 | 斜交条線。 |
| 171 | Ⅱ区 | SX39 | 4 | 深鉢 | 体部 | － | － | <5.4> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母 | 突起状装飾。 |
| 172 | Ⅱ区 | SX39 | 2 | 深鉢 | 底部 | － | 6.4 | <4.3> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母 | 地文は条線。底部接合部まで施文。弧状の太い沈線。縦位には波状隆帯と思われる痕跡。底部の接合が削られ高台状になっている。底部中央にはケズリ痕が残る。内面は丁寧なケズリ。内面にスス。 |
| 173 | Ⅱ区 | SX42 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <15.4> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母 | 口縁部は外に開く。地文は条線。渦巻文。 |
| 174 | Ⅱ区 | SX42 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <6.0> | 明黄褐 | 10YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部は直線的に外に開く。口縁部に楕円区画文。区画内は縄文。 |
| 184 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 底部 | － | (20.0) | <3.6> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母多い | やや内向きに立ち上がる。体部下部に縦位の太い沈線。 |
| 185 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.9> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 隆帯に沿ってキャタピラー文と波状沈線。 |
| 186 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <3.3> | 褐 | 7.5YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母 | 楕円区画文内をキャタピラー文で充填。 |
| 187 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <1.9> | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、径5mm大の白色レキ | 口縁に沿って沈線。沈線からペン先状工具による三角押文。 |
| 188 | Ⅰ区 | 調査区（SI4） | 44 | 深鉢 | 体部 | － | － | <4.4> | 橙、にぶい黄褐 | 5YR6/6、10YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 隆帯による区画。隆帯上に爪型文。 |
| 189 | Ⅰ区 | 調査区（SI4） | 36 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.2> | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部に横位の角押文と角押文による円形の区画か。 |
| 190 | Ⅰ区 | 調査区（SI4） | 43 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <3.5> | にぶい黄橙、にぶい褐 | 10YR6/4、7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母 | 波状口縁。波のトップは指による押圧。体部は円形刺突文を中心に両側にC字と逆C字の刺突（蓮華文?） |
| 191 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | － | － | <3.6> | 明黄褐 | 10YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 区画内隆帯に沿ってキャタピラー文と区画内に角押文。 |
| 192 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <2.6> | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 隆帯上に刻み。 |
| 193 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <4.7> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 隆帯上に三角押文。 |
| 194 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <3.8> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 装飾部。隆帯上に爪型文。 |
| 195 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <3.8> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 地文は縄文。 |
| 196 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <5.9> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 渦巻文。隆帯上に刻み。 |
| 197 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | － | － | <6.2> | にぶい赤褐 | 5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 区画文。隆帯上に刻み。 |

# 表9　土器観察表（4）

| 報告No | 地区 | 出土遺構 | 取り上げNo. | 器種 | 部位 | 法量 口径 | 法量 底径 | 法量 器高 | 色調 外面 | 色調 外面 | 焼成 | 胎土 含有物 | 文様・調整 外面 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 198 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <2.7> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 区画文の側面に刻み。 |
| 199 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <10.1> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 縄文を施文後ナデにより縄文を消して区画を作る。区画内は縄文。 |
| 200 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <4.4> | 黒褐 | 5YR3/1 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | ボタン状の粘土を横位に連続して貼り付ける。下段には半截竹管による連続刺突文。体部には太い沈線と縦位の半截竹管による連続刺突文。 |
| 201 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <5.5> | 褐 | 7.5YR4/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 縦位の条線に半截竹管による隆帯調整。渦巻状の隆帯。 |
| 202 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (30.0) | — | <3.6> | にぶい黄橙 | 10YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 垂弧文。 |
| 203 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <9.4> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部突起。渦巻文。地文は条線。口縁端部にスス。内面ミガキ。黒色化。 |
| 204 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (16.0) | — | <4.9> | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 口縁端部はやや内傾。肥厚している。斜位の隆帯。外面スス。 |
| 205 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <5.6> | 灰黄褐 | 10YR5/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部はやや内湾する。体部は細かい縄文と撚り糸状の縄文を施した後磨り消し。 |
| 206 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 有孔鍔付土器 | 体部 | — | — | <1.9> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部は短い。鍔に押孔。 |
| 207 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (28.0) | — | <5.9> | 明黄褐 | 10YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部に区画文。「ハ」字。 |
| 208 | Ⅰ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 底部 | — | 6.4 | <2.9> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 外面は丁寧なナデ。体部に縄文。施文隙間にスス。 |
| 209 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <3.0> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 太い弧状沈線。玉抱三叉文？ |
| 210 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <5.6> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 沈線文。 |
| 211 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (30.0) | — | <5.3> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部に沿って細い沈線。連続爪型文。爪型文上部に細い沈線。 |
| 212 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <2.0> | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 浮線文。 |
| 213 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <2.7> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 浮線文。 |
| 214 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (24.0) | — | <3.3> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁端部はやや外反する。口縁部に横位の条線。体部に弧状？の条線。 |
| 215 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <4.8> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 径の大きい円形刺突文。沈線による区画内に先の尖った工具による刺突文。玉抱三叉文？ |
| 216 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <3.4> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 地文は縄文。施文後縦位の平行沈線。 |
| 217 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <3.4> | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 区画内は隆帯に沿ってキャタピラー文。内側に半截竹管による刺突文。 |
| 218 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <2.6> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | ペン先状工具による刺突文。 |
| 219 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <2.2> | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部に平行沈線。端部に刻み。 |
| 220 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <5.1> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | キャタピラー文。 |
| 221 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (28.0) | — | <4.5> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 口縁部は内湾する。区画文。 |
| 222 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <4.3> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、金色の雲母多い | 渦巻文。縦位の太い棒状工具による刻み。 |
| 223 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 底部欠 | 13.2 | — | <16.9> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部は無文。頸部に横位の沈線と平行する波状隆帯。体部の地文は沈線。地文上に縦位の波状隆帯。区画は渦巻文で隆帯上に半截竹管による刺突。区画内は沈線。 |
| 224 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 器台 | 脚部 | — | — | <5.1> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 端部は外に開く。体部に透孔有り。 |
| 225 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <3.2> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 垂弧文もしくは斜行条線。 |
| 226 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <4.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 渦巻文。 |
| 227 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | (26.0) | — | <4.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 受口状。口縁端部は内湾する。口縁部に文様帯。渦巻文。区画内はキャタピラー文。 |
| 228 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <15.8> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 渦巻文。隆帯による区画。区画内は条線。 |
| 229 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <7.8> | 浅黄橙 | 10YR8/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、径5mm大レキ、白色粒多い | やや内湾しながら立ち上がる。内面はケズリ。地文は無文。隆帯両側部に平行する円形刺突文。 |
| 230 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <9.7> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 縦位の平行沈線。区画内は斜格子状の沈線。内面スス。 |
| 231 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <6.6> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部に突起。横位の三角状の隆帯。体部に沈線。 |
| 232 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <6.6> | 褐 | 7.5YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 口縁部は「L」字に折れ曲がる。頸部に沈線。地文は縦位の条線。 |
| 233 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <7.9> | 褐灰 | 10YR4/1 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、雲母 | 渦巻文。区画内は縦位の沈線で充填。 |
| 234 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <26.7> | 明赤褐<br>にぶい赤褐 | 5YR5/6<br>5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 体部は方区画文。区画内は縦位の条線。 |
| 235 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <3.2> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 波状口縁の突起。内面はミガキ。 |
| 236 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <7.9> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部は内湾する。方区画内は縦位の条線。 |
| 237 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <4.2> | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒 | 波状口縁。口縁部に文様帯。区画内は刺突文。渦巻文。 |
| 238 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <6.3> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 波状口縁。体部に太い沈線。 |
| 239 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | — | — | <4.7> | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 口縁部は内湾する。口縁部に文様帯。区画内は縦位の条線。 |
| 240 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <8.6> | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | 口縁部は内湾する。平縁。口縁部に文様帯。渦巻文とわらじ状の区画内は縦位の条線。体部は縦位の太い沈線と条線。 |
| 241 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <6.9> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | 外面は丁寧なケズリ。太い縦位の沈線。「ハ」字?内面はミガキ。 |
| 242 | Ⅱ区 | 調査区 | Ⅱ | 深鉢 | 体部 | — | (8.0) | <4.4> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 「ハ」字。 |
| 243 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <7.5> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒 | 沈線による区画。区画内は縄文。 |
| 244 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <7.5> | にぶい褐 | 7.5YR5/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 口縁部に太い沈線。区画内は「ハ」字?。 |
| 245 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | — | — | <5.7> | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 「ハ」字。 |
| 246 | Ⅱ区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | — | — | <3.9> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | 頸部?に隆帯。隆帯に沿って太い沈線。沈線から縦位の沈線。 |

# 表10　土器観察表（5）

| 報告No | 地区 | 出土遺構 | 取り上げNo. | 器種 | 部位 | 法量 口径 | 底径 | 器高 | 色調 外面 | | 焼成 | 胎土 含有物 | 文様・調整 外面 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 247 | II区 | 調査区 | 一括 | 台形土器 | 鍔 | − | − | <2.7> | にぶい黄橙 | 10YR6/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 穿孔有り。 |
| 248 | II区 | 調査区 | 一括 | 有孔鍔付土器? | 口縁部 | − | − | <2.3> | 褐灰 | 7.5YR4/1 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 口縁部は外に開く。口縁端部にスス。破片下部に朱付着。 |
| 249 | II区 | 調査区 | 一括 | 有孔鍔付土器? | 口縁部 | − | − | <3.1> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁端部は細く尖らせて僅かに外反する。体部に渦巻状?の沈線。口縁部に赤彩? |
| 250 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <6.3> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 細い隆帯による区画。隆帯側面に縄文。 |
| 251 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | − | − | <4.8> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 波状口縁?体部は縄文。一部磨り消し? |
| 252 | II区 | 調査区 | 一括 | 壺 | 口縁部～体部 | − | − | <3.2> | にぶい褐 | 7.5YR6/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 受口状。体部は縄文。 |
| 253 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <5.0> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、雲母 | 口縁端部で外反する。口縁部は無文、地文は縄文。 |
| 254 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <8.6> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | キャリパー型。区画内は縄文。一部磨り消し。 |
| 255 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | − | − | <7.5> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部は直線的に外に開く。隆帯による区画。区画内は縄文で磨り消し。 |
| 256 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | − | − | <5.0> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 体部はやや外反して立ち上がり肩部を持つ。屈曲して口縁端部は直線的に上に立ち上がる。体部は縦位の太い沈線。 |
| 257 | II区 | 調査区 | 一括 | 壺 | 体部 | (16.0) | − | <2.0> | 灰黄褐 | 10YR4/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部に沿って隆帯。受口状。 |
| 258 | II区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 底部～体部 | − | (7.0) | <2.2> | 明赤褐 | 5YR5/6 | 良好 | 密 | 底部から内湾しながら立ち上がる。底部外面はナデ。 |
| 259 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <3.3> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 連続爪形文。 |
| 260 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.3> | にぶい黄橙 | 10YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 口縁部に角押文。体部は縦位の刺突文。 |
| 261 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.5> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、金色の雲母 | 垂弧文に波状隆帯。 |
| 262 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.4> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母多い | 頸部は「く」字に折れ曲がる。頸部に隆帯と沈線。地文は条線。条線上に隆帯と渦巻文。 |
| 263 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <5.2> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 波状口縁。口縁部に楕円区画文。隆帯の下に区画文。区画内を横位、斜位の条線で充填。 |
| 264 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <5.1> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 波状口縁。口縁部に沿って太い沈線。 |
| 265 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <7.5> | 橙 | 7.5YR 7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 隆帯による区画文。区画内は縦位の条線。 |
| 266 | III区 | 調査区 | 67 | 壺 | 体部 | − | − | <8.2> | にぶい赤褐 | 5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い、赤色粒、雲母 | 地文は縄文。頸部に平行沈線。小型。破片内面下部にスス。 |
| 267 | III区 | 調査区 | 一括 | 有孔鍔付土器? | 体部 | − | − | <4.9> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 有孔鍔付土器。体部に渦巻文。外面ミガキ。 |
| 268 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 底部 | − | − | <2.6> | 橙 | 5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 底部から外に開く。 |
| 269 | III区 | 調査区 | 52 | 深鉢 | 頸部～体部 | − | − | <10.4> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒粒径大きく多い、雲母 | 膨らんだ体部から頸部で外反し始める。地文は縄文。波状沈線が垂下する。破片の外面上部と内面下部にスス付着。 |
| 270 | III区 | 調査区 | 26,45 | 深鉢 | 体部 | − | − | <18.4> | 浅黄橙 | 10YR8/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒粒 | 縦位の隆帯により区画。地文が縄文の区画ではさらに隆帯によって区画され区画内は無文。隆帯に沿って両側面に円形刺突文。 |
| 271 | III区 | 調査区 | 63 | 深鉢 | 体部 | − | − | <15.6> | 灰黄 | 2.5Y7/2 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 隆線による区画文。区画内は縄文。隆帯に沿って両側面に円形刺突文。全体が黒色化。 |
| 272 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <6.2> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 口縁端部は内湾する。隆帯と沈線による区画。区画内は無節縄文。 |
| 273 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <3.8> | 明褐 | 7.5YR5/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、雲母 | 波状口縁。頸部に細い隆帯。区画内は縄文。 |
| 274 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部～体部 | − | − | <9.2> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 口縁端部で僅かに内湾する。口縁部は無文。隆帯により区画。体部は縄文。 |
| 275 | III区 | 調査区 | 一括 | 壺 | 口縁部 | − | − | <3.3> | 橙 | 7.5YR7/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒多い | 波状口縁?隆帯に沿って円形刺突文。地文は縄文。 |
| 276 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (23.0) | − | <4.0> | 橙 | 7.5YR6/6 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒 | 体部から立ち上がり肩部を作る。口縁端部は内に入り外反しながら立ち上がる。外面ミガキ。 |
| 277 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 口縁部 | (20.0) | − | <4.7> | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 内湾する。口縁部に沿って太い沈線。外・内面ミガキ。 |
| 278 | III区 | 調査区 | 一括 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.6> | にぶい橙 | 7.5YR6/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 薄手。太い沈線。外面ミガキ。 |
| 320 | | 試掘 | P5 | 深鉢 | 体部 | − | − | <2.4> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、金色の雲母 | ペン先状工具による刺突。 |
| 321 | | 試掘 | P1 | 深鉢 | 体部 | − | − | <5.1> | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 良好 | 黒色粒（砂）,白色粒多い、雲母 | 渦巻文。隆帯上に連続爪形文。 |
| 322 | | 試掘 | P1 | 深鉢 | 体部 | − | − | <5.3> | にぶい橙 | 7.5YR7/4 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 地文は条線。条線上に波状隆帯。 |
| 323 | | 試掘 | SI4スコリア集積付近の同レベル | 深鉢 | 体部 | − | − | <4.3> | 褐 | 7.5YR4/3 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒 | 地文は条線。縦位。横位の隆帯。隆帯上に刻み。 |
| 324 | | 試掘 | P1 | 深鉢 | 口縁部 | − | − | <2.3> | 黒褐 | 7.5YR3/1 | 良好 | 黒色粒（砂）、白色粒、赤色粒、金色の雲母多い | 地文は縄文。隆帯。 |

# 表11　石器・石材観察表（1）

| 報告書番号 | 調査区 | 出土地点 | 取上げNo | 種類 | 法量(cm) A（長） | B（幅） | C（厚） | D（重g） | 石材 | 法量（ ）は復元実測値、＜ ＞は現存値である。 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | Ⅲ区 | SI1炉（SK2） | 1 | 溶岩 | 20.3 | 16.6 | 5.3 | 1900.0 | 溶岩 | 被熱の痕跡、炉石。 |
| 35 | Ⅲ区 | SI1炉（SK2） | 2 | 溶岩 | 15.4 | 19.9 | 9.4 | 3040.0 | 溶岩 | 被熱の痕跡、炉石。 |
| 36 | Ⅲ区 | SK9 | 1 | 打製石斧 | 12.3 | 5.5 | 2.6 | 150.0 | ホルンフェルス | |
| 37 | Ⅲ区 | SK11 | 一括 | 石核 | 3.9 | 3.1 | 1.9 | 30.0 | 緑色凝灰岩 | |
| 38 | Ⅲ区 | SK7 | 1 | 敲石 | 15.7 | 9.2 | 7.6 | 1420.0 | 花崗岩 | |
| 39 | Ⅲ区 | SK7 | 3 | 剥片 | 8.2 | 2.9 | 1.7 | 50.0 | 緑色凝灰質砂岩 | |
| 40 | Ⅲ区 | Pit18 | 一括 | 剥片 | 5.2 | 2.3 | 1.0 | 20.0 | 緑色凝灰岩 | |
| 41 | Ⅲ区 | SK15 | 92 | 磨石 | 6.7 | 9.7 | 4.2 | 300.0 | 花崗岩由来の砂岩 | |
| 42 | Ⅲ区 | SK15 | 100 | 溶岩 | 8.7 | 6.5 | 4.2 | 200.0 | 溶岩 | |
| 43 | Ⅲ区 | Pit15 | 一括 | 石匙 | 6.4 | 7.4 | 0.9 | 40.0 | ホルンフェルス | |
| 44 | Ⅲ区 | Pit28 | 1 | 溶岩 | 10.6 | 11.1 | 8.5 | 920.0 | 溶岩 | |
| 45 | Ⅲ区 | Pit74 | 1 | 磨石 | 10.4 | 8.1 | 5.7 | 760.0 | 凝灰質砂岩 | |
| 57 | Ⅲ区 | SK29 | 5 | 石皿 | 23.6 | 17.7 | 7.0 | 3620.0 | ホルンフェルス | |
| 58 | Ⅲ区 | SK29 | 10 | 石皿 | 19.3 | 18.1 | 7.3 | 3800.0 | 安山岩 | |
| 59 | Ⅲ区 | SK29 | 6 | 多孔石 | 24.2 | 18.0 | 7.1 | 4000.0 | 安山岩 | |
| 60 | Ⅲ区 | SK29 | 11 | 石皿 or 石棒 | 27.3 | 15.1 | 13.3 | 6400.0 | 緑色凝灰質砂岩 | SI2炉 |
| 61 | Ⅲ区 | SI2 | 4 | 打製石斧 | 12.7 | 5.9 | 2.0 | 180.0 | ホルンフェルス | |
| 62 | Ⅲ区 | SK27 | 18 | 石皿 | 23.4 | 25.1 | 10.7 | 8380.0 | 花崗岩 | SI2炉 |
| 63 | Ⅲ区 | SK27 | 3 | 石棒 | 19.1 | 17.4 | 8.6 | 4320.0 | 安山岩 | SI2炉 |
| 64 | Ⅲ区 | SK27 | 4 | 磨石 | 6.2 | 5.8 | 5.6 | 300.0 | 玄武岩 | SI2炉 |
| 65 | Ⅲ区 | SK27 | 2 | 石皿 | 24.3 | 21.0 | 11.4 | 6500.0 | 安山岩 | SI2炉 |
| 66 | Ⅲ区 | SK28 | 1 | | 25.0 | 24.8 | 18.4 | 8460.0 | 花崗岩 | SK28配石 |
| 67 | Ⅲ区 | SK30 | 1 | 溶岩 | 14.6 | 11.6 | 7.9 | 840.0 | 溶岩 | |
| 80 | Ⅲ区 | SX8 | 一括 | 打製石斧 | 5.9 | 4.8 | 1.3 | 60.0 | 凝灰岩 | |
| 90 | Ⅱ区 | SI4 | 102 | 磨製石斧 | 12.7 | 5.2 | 3.8 | 400.0 | 緑色凝灰質砂岩 | 刃部欠 |
| 91 | Ⅱ区 | SI4 | 101 | 磨石 | 6.4 | 6.5 | 5.1 | 300.0 | 花崗岩 | |
| 92 | Ⅱ区 | SI4　炉 | 99 | 敲石 | 6.0 | 5.8 | 3.4 | 200.0 | 玄武岩（新鮮） | |
| 93 | Ⅱ区 | SI4 | 94 | [illegible] | 10.1 | 6.7 | 4.5 | 500.0 | 花崗岩 | |
| 94 | Ⅱ区 | SI4 | 92 | [illegible] | 11.1 | 8.2 | 4.8 | 650.0 | 花崗岩 | |
| 95 | Ⅱ区 | SI4 | 95 | 多孔石 | 18.3 | 14.8 | 12.9 | 3600.0 | 安山岩 | 両面 |
| 96 | Ⅱ区 | SI4 | 72 | 石皿 | 22.9 | 16.9 | 7.2 | 4320.0 | 礫岩 | |
| 97 | Ⅱ区 | SI4 | 68 | 石鏃 | 3.3 | 1.6 | 0.4 | 1.81 | 黒曜石 | |
| 98 | Ⅱ区 | SI4 | 81 | 溶岩 | 11.0 | 12.4 | 6.3 | 740.0 | 溶岩 | |
| 99 | Ⅱ区 | SI4P4 | 一括 | 剥片 | 7.3 | 4.3 | 1.5 | 80.0 | ホルンフェルス | |
| 134 | Ⅱ区 | SI5 | 163 | 磨石 | 14.3 | 11.1 | 6.3 | 1500.0 | 花崗岩 | |
| 135 | Ⅱ区 | SI5 | 99 | 磨石 | 10.5 | 12.0 | 4.5 | 920.0 | 花崗岩 | |
| 136 | Ⅱ区 | SI5 | 122 | 磨石 | 15.7 | 8.9 | 6.7 | 1320.0 | 緑色変質安山岩 | |
| 137 | Ⅱ区 | SI5 | 170 | 磨石 | 10.1 | 5.0 | 3.2 | 220.0 | 花崗岩 | |
| 138 | Ⅱ区 | SI5 | 180 | [illegible] | 10.3 | 7.3 | 4.4 | 580.0 | 花崗岩 | |
| 139 | Ⅱ区 | SI5 | 181 | [illegible] | 11.3 | 10.0 | 6.7 | 760.0 | 安山岩 | |
| 140 | Ⅱ区 | SI5 | 83 | 台石 | 20.5 | 10.5 | 8.1 | 2300.0 | 閃緑斑岩 | 被熱により脆い |
| 141 | Ⅱ区 | SI5 | 80 | 石皿 | 33.0 | 21.5 | 10.8 | 8380.0 | 安山岩 | |
| 142 | Ⅱ区 | SI5 | 81 | 石皿 | 24.7 | 22.4 | 5.9 | 5500.0 | 花崗岩 | |
| 143 | Ⅱ区 | SI5 | 172 | 石皿 | 22.6 | 16.3 | 8.3 | 4100.0 | 花崗岩 | 被熱 |
| 144 | Ⅱ区 | SI5 | 39 | 石皿 | 22.0 | 15.2 | 9.0 | 4370.0 | レキ混じり砂岩 | |
| 145 | Ⅱ区 | SI5 | 155 | 石皿 | 18.7 | 22.4 | 13.7 | 5200.0 | 花崗岩 | |
| 146 | Ⅱ区 | SI5 | 82 | 石皿 | 19.2 | 17.7 | 9.3 | 4380.0 | 緑色変質火山岩（デイサイト質） | 被熱 |
| 147 | Ⅱ区 | SI5 | 144 | 削器 | 5.0 | 4.7 | 2.0 | 40.0 | 緑色凝灰岩 | |
| 148 | Ⅱ区 | SI5 | 95 | 溶岩 | 16.6 | 13.1 | 7.5 | 1500.0 | 溶岩 | |
| 149 | Ⅱ区 | SI5 | 152 | 溶岩 | 14.1 | 15.4 | 10.9 | 2360.0 | 溶岩 | |
| 150 | Ⅲ区 | SI6(SX38) | 8 | 磨石 | 6.8 | 7.0 | 4.5 | 300.0 | 玄武岩 | |
| 151 | Ⅲ区 | SI6(SX38) | 2 | 石皿 | 18.7 | 19.1 | 8.7 | 4800.0 | 花崗岩 | |
| 152 | Ⅲ区 | SI6(SX38) | 6 | 溶岩 | 11.9 | 10.0 | 6.5 | 520.0 | 溶岩 | |
| 175 | Ⅲ区 | Pit84 | 一括 | 打製石斧 | 5.8 | 4.7 | 1.9 | 100.0 | ホルンフェルス | 破片、スス |
| 176 | Ⅱ区 | Pit99 | 1 | 溶岩 | 16.6 | 12.8 | 9.7 | 1500.0 | 溶岩 | |

# 表 12　石器・石材観察表（2）

| 報告番号 | 調査区 | 出土地点 | 取上げNo | 種類 | 法量(cm) | | | | 石材 | 法量（ ）は復元実測値、〈 〉は現存値である。 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | A（長） | B（幅） | C（厚） | Dt.重(g) | | 備考 |
| 177 | 1K | Pit312 | 1 | 石皿 | 11.9 | 8.5 | 7.7 | 820.0 | 安山岩 | |
| 178 | 1K | SK33 | 1 | 磨石 | 13.8 | 9.4 | 5.7 | 1180.0 | 花崗岩 | 久久 |
| 179 | 1K | SK37 | 一括 | 剥片 | 7.0 | 4.4 | 0.8 | 40.0 | 凝灰岩 | |
| 180 | 1K | SK41 | 1 | 磨石 | 14.0 | 8.7 | 4.9 | 980.0 | 玄武岩（雲士山、新屋） | |
| 181 | 1K | SX39 | 1 | 多孔石 | 24.3 | 23.8 | 7.5 | 6000.0 | 安山岩 | |
| 182 | 1K | SX39 | 3 | 石皿 | 24.1 | 27.2 | 6.3 | 5900.0 | 安山岩 | |
| 183 | 1K | SX39 | 8 | 石皿 | 26.9 | 23.3 | 9.6 | 6700.0 | レキ混じり砂岩 | |
| 279 | 1K | 調査区N'層 | 80 | 石皿 | 20.1 | 24.6 | 9.6 | 5400.0 | 玄武岩 | |
| 280 | 1K | 調査区N'層 | 79 | 石皿 | 20.0 | 25.0 | 9.3 | 4480.0 | 安山岩 | |
| 281 | 1K | 調査区N'層 | 84 | 石核 | 8.2 | 8.5 | 3.7 | 280.0 | 緑色凝灰岩 | |
| 282 | 1K | 調査区N'層 | 85 | 石材 | 13.6 | 16.9 | 3.4 | 840.0 | ホルンフェルス | |
| 283 | 1K | 遺構確認面直上 | 67 | 石鏃 | 1.10 | 1.68 | 2.0 | 3.40.0 | ホルンフェルス | |
| 284 | 1K | 遺構確認面直上 | 一括 | 剥片 | 5.5 | 4.6 | 1.9 | 40.0 | 緑色凝灰岩 | |
| 285 | 1K | 遺構確認面直上 | 一括 | 剥片 | 9.7 | 7.3 | 2.2 | 120.0 | 凝灰岩 | |
| 286 | 1K | 遺構確認面直上 | 一括 | 剥片 | 5.7 | 5.0 | 1.4 | 60.0 | 凝灰岩 | |
| 287 | 1K | 調査区V'層 | 90 | 磨石 | 10.4 | 13.3 | 4.0 | 450.0 | 磨石 | |
| 288 | 1K | 調査区V'層 | 94 | 磨石 | 16.9 | 13.8 | 7.1 | 2000.0 | 磨石 | |
| 289 | 1K | 調査区V'層 | 一括 | 打製石斧 | 12.4 | 5.3 | 2.2 | 180.0 | ホルンフェルス | |
| 290 | 1K | 調査区V'層 | 一括 | 石鏃 | 7.5 | 5.2 | 1.3 | 60.0 | ホルンフェルス | |
| 291 | 1K | 調査区V'層 | 一括 | 石皿 | 19.5 | 11.5 | 6.8 | 1420.0 | 花崗岩 | |
| 292 | 1K | 調査区 | 10 | 敲製石斧 | 9.6 | 4.0 | 1.6 | 100.0 | 緑色凝灰質砂岩 | |
| 293 | 1K | 調査区 | 7 | 敲製石斧 | 13.7 | 5.7 | 3.4 | 400.0 | 粘板岩 | 敲製石斧の原料品か。 |
| 294 | 1K | 調査区 | 89 | 磨石 | 18.1 | 10.9 | 10.7 | 2820.0 | 玄武岩 | |
| 295 | 1K | 調査区 | 9 | 磨石 | 10.6 | 10.4 | 6.6 | 1200.0 | 玄武岩（新屋） | 両面使用痕。 |
| 296 | 1K | 調査区 | 1 | 磨石 | 6.4 | 6.5 | 5.0 | 280.0 | 玄武岩（雲士山） | |
| 297 | 1K | 調査区 | 28 | 磨石 | 9.8 | 6.7 | 5.2 | 500.0 | 砂岩 | |
| 298 | 1K | 調査区 | 34 | 磨石 | 7.4 | 6.5 | 3.1 | 200.0 | 玄武岩 | |
| 299 | 1K | 調査区 | 18 | 磨石 | 8.9 | 8.0 | 3.7 | 380.0 | 花崗岩 | |
| 300 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 | 13.1 | 7.8 | 6.5 | 780.0 | 花崗岩 | |
| 301 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 | 6.5 | 8.5 | 5.2 | 440.0 | 凝灰質砂岩 | |
| 302 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 | 11.6 | 9.3 | 6.0 | 1140.0 | 礫岩 | |
| 303 | 1K | 調査区 | 25 | 磨石 | 7.8 | 4.8 | 3.6 | 200.0 | 緑色変質火山岩 | |
| 304 | 1K | 調査区 | 71 | 台石 | 19.9 | 9.2 | 8.3 | 1960.0 | 花崗岩 | |
| 305 | 1K | 調査区 | 11 | 石皿 | 27.8 | 16.2 | 8.2 | 5080.0 | 砂岩 | |
| 306 | 1K | 調査区 | 78 | 石皿 | 30.6 | 10.7 | 9.2 | 5000.0 | 安山岩 | |
| 307 | 1K | 調査区 | 2 | 石皿 | 25.2 | 19.0 | 11.1 | 4880.0 | 安山岩 | |
| 308 | 1K | 調査区 | 36 | 石皿 | 15.7 | 12.4 | 11.7 | 2220.0 | 安山岩 | |
| 309 | 1K | 調査区 | 一括 | 石皿 | 7.5 | 8.8 | 9.3 | 800.0 | 花崗岩 | |
| 310 | 1K | 調査区 | 一括 | 石皿 | 10.7 | 15.8 | 8.7 | 1680.0 | 花崗岩 | |
| 311 | 1K | 調査区 | 一括 | 石皿 | 16.8 | 10.1 | 11.4 | 2.76.0 | 緑色凝灰質砂岩 | |
| 312 | 1K | 調査区 | 一括 | 石皿 | 15.7 | 12.1 | 5.2 | 1160.0 | 花崗岩 | |
| 313 | 1K | 調査区 | 4 | 石皿 | 25.9 | 13.7 | 11.5 | 4740.0 | 花崗岩 | |
| 314 | 1K | 調査区 | 一括 | 石皿 | 13.8 | 15.0 | 6.1 | 1340.0 | 安山岩 | |
| 315 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 | 9.1 | 6.2 | 6.9 | 440.0 | 玄武岩 | |
| 316 | 1K | 調査区 | 92 | 磨石 | 12.7 | 10.6 | 6.8 | 1100.0 | 磨石 | |
| 317 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 | 16.0 | 10.9 | 10.2 | 2000.0 | 磨石 | |
| 318 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 or 石皿？ | 12.3 | 11.7 | 10.8 | 2000.0 | 玄武岩 | 敲痕有り。 |
| 319 | 1K | 調査区 | 一括 | 磨石 or 石皿？ | 10.4 | 8.6 | 6.2 | 520.0 | 玄武岩 | 敲痕有り。 |
| 325 | 試掘 | トレ | P-6 | 敲製石斧 | 17.2 | 6.3 | 3.9 | 640.0 | 緑色凝灰質砂岩 | |

# 第7章　自然科学分析

## 大月市藤崎岡遺跡４号住居址第４層中の粗粒テフラ粒子の層位について

上杉 陽 ( 都留文科大学名誉教授 )

結論

提供された藤崎岡遺跡６層分の試料中の第４層洗浄済み粗粒分試料についてのみ、とりあえず、実体顕微鏡及び偏光顕微鏡で観察し、同じ大月市内花咲に立地する大石遺跡の諸試料と比較した。

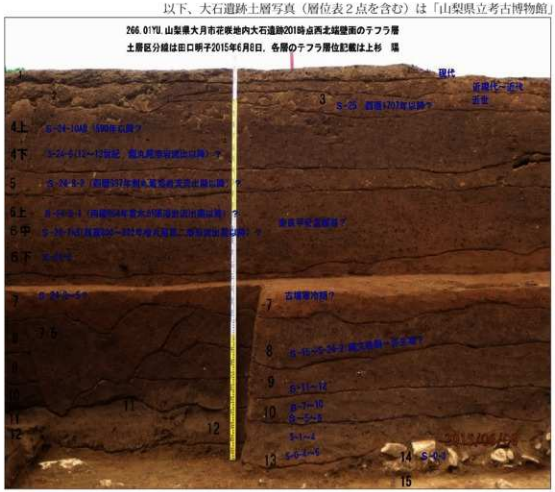
結果は以下の通りである。

① 本試料中の粗粒部分は、本遺跡西南西 5.5 キロに位置する JR 中央線直近南側の大石遺跡の上から 10 番目、第 10 層下半を構成する相対的に大きな気孔が目立つ大半が赤褐色に高温酸化 ( 一部熱水変質 ) したスコリアユニットにやや類似する ( 図版 1abc 順 )。これは富士吉田市小明見の上中丸遺跡の S-5(R1) ～ S-6(R Ⅱ ) スコリア ( 図版　1C) に相当すると思われる。ここでは下位に曽利Ⅲや Ⅳが挟在し、上方に曽利Ⅳや Ⅴが挟在する。

② 本試料中の粗粒部分は、前述の大石遺跡第 9 層下半 (S-11 ～ 12) を構成する微細気孔 (0.1 ㎜± ) ～ 小気孔 (1 ㎜± ) ～中気孔 (2 ～ 3 ㎜± ) が乱雑に、重合的に重なり合い、長柱状～柱球状の鍾乳洞型の複雑な気孔構造を持つスコリア粒 ( 図版 2) とは、明らかに異なる。

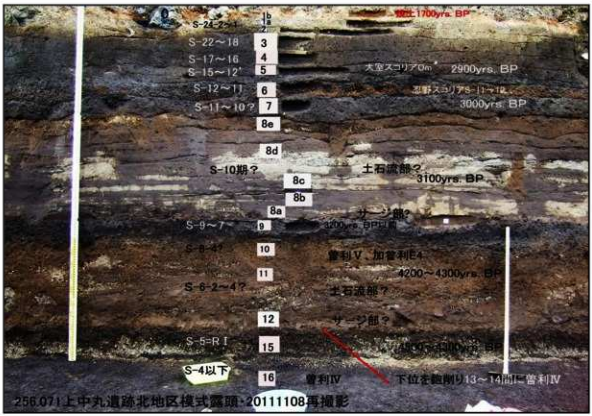
③ 本遺跡第 6 層中に、概略 7300BP 頃に南九州種子島～屋久島北西の硫黄島 ( 鬼界が島 ) 一帯から噴出したアカホヤ火山灰 (K-Ah) があるかどうか、第 3 層中に、大石遺跡の第 9 層下半の S-11 ～ 12 テフラ群があるかどうかを、確認する必要がある。今後の課題である。

以下、大石遺跡土層写真（層位表２点を含む）は「山梨県立考古博物館」提供




図版 1A 大月市花咲 , 大石遺跡 2016 年 1 月時点の西端部壁面

図版 1B 大月市花咲．大石遺跡中央部南壁に露出する第 7～14 層




図版 1C 富士吉田市小明見．上中丸遺跡の縄文中期曽利Ⅳ期の S-5～6 テフラ層

図版 2A 大石遺跡第 10 層下半の S-5 ～ 6 スコリア粒
赤褐色の高温酸化した粒が多いのが特徴である .

図版 2B 大石遺跡第 10 層下半部の高温酸化→熱水変質したスコリア

スコリアの外形は、概略板状～短角状で、平行して走る幅が数 mm に達する長柱状～柱球状気孔の束と、その間をつなぐ暗褐色→暗赤褐色→赤褐色→黄赤褐色→黄褐色の高温酸化～熱水変質溶融皮膜で覆われ る隔壁から構成されている。熱水変質中に黄鉄鉱の海苔状の黄鉄鉱被膜が形成されていることがある . 全粒子中の 45%を占める。

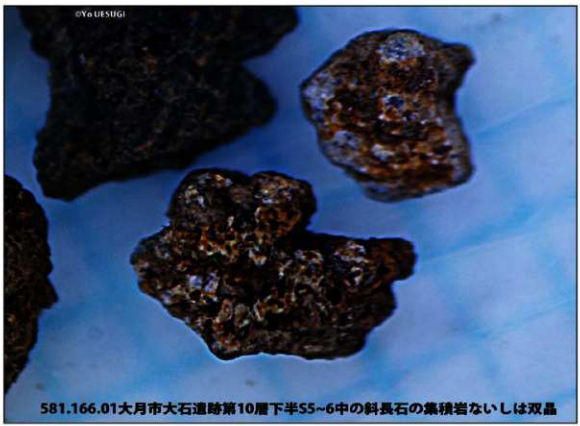
図版 2C 富士吉田市小明見、上中丸遺跡 SD-5 ～ 6 中の長柱状～柱球状気孔束スコリア
気孔壁には火山ガス中の雄黄 (FeS: 黄鉄鉱 ) が蒸着していることがある .

図版 2D 大月市藤崎岡遺跡第 4 層中の柱状～柱球状型スコリア

第 4 層中には、円磨溶岩礫や付近の山地起源と思われる結晶質深成岩礫なども含まれる。本スコリア粒の幅が広い柱状～柱球状型気孔内には砂泥が詰まっている . 第 4 層は河畔の高水敷氾濫原堆積物であったと考えられる。

図版 2E 大月市花咲，大石遺跡第 10 層下半 S-5～6 スコリア粒中の球形気孔型スコリア．全体の 34%を占める．

図版 2F. 大月市藤崎岡遺跡第四号住居址第四層中の球状気孔～柱球状気孔スコリア．長径 4.7 ㎜・中径 4.4 ㎜．気孔径は 0.1 ～ 0.4 ミリ程度である。それぞれ孤立し、相互に重複したり連結して、数珠つなぎとなる例は少ない。大石遺跡の第 10 層下半 (図版 2E) に類似する。




図版 2G.0581.166.01S5.C 型岩片類中の斜長石集積岩と双晶
S-5 ～ 6　スコリア層の特徴は、①柱状～柱球状気孔の平行気孔束スコリアが多い、
②球形気孔型も多く、その場合、気孔壁が、相互に独立しているケースが多い、
③斜長石の集積岩あるいは双晶が目立つ、などが挙げられる。

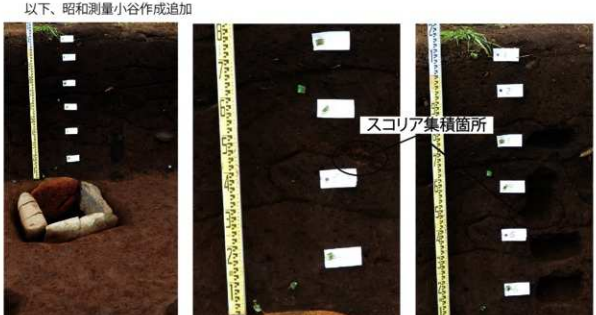
図版 2H.185.01 大月市藤崎岡遺跡の四号住居址第 4 層で目立つ斜長石双晶・集積岩

図版 3A 大月市花咲 . 大石遺跡西端部第 9 層下半 S-11 ～ 12 中のスコリア

微細な 0.1 ㎜前後の気孔から 4 ㎜までの様々な大きさの球形～柱型気孔が、相互に重なり合い、数珠つなぎとなり、気孔壁となる隔壁が崩壊して大規模な鍾乳洞型の気孔構造を作ることがある。

大月市藤崎岡遺跡第 4 層中のスコリアには、このタイプの気孔構造はない。

以下、昭和測量小谷作成追加




藤崎岡遺跡土壌サンプル採取箇所

266.01YU 大月市花咲地内大石遺跡標準テフラ層位
土層区分は 2015 年 6 月 8 日田口明子による。これらの土層のテフラ層位を上杉　陽が推定した。なお、田工によれば、本遺跡東端部で、「第 8 層」から平安期と思える土師器が検出される。　ただしかに、平安時代は一般に温暖期で

| 土層番号 | 層厚 cm | 土層の組成や色調など | 構成の詳細 | 推定富士系テフラ層位 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 15 | 締まった暗褐色土層～黄褐色土層<br>水田鋤床層Ⅱ | 下位より，abc の 3 層構成．<br>c） 青緑色（還元色）を呈する泥層で，直径 2 センチほどの円礫を含むことがある．<br>b） 黄褐色酸化シルト～粘土から構成される不透水層～難透水層．<br>a) 黒集色泥層．マンガンが集積． | 現代 |
| 2 | 10 | 締まった暗褐色泥層～黄褐色泥層<br>水田鋤床層Ⅰ | 一部は下位を切る．　下位より abc の 3 層構成．<br>c） 青緑色（還元色）を呈する泥層．<br>b）黄褐色酸化シルト～粘土から構成される不透水層～難透水<br>層．スコリア粒（10 ～ 5mm：以下，mmを略す）を含む．<br>a) 黒集色泥層．マンガンが集積． | 現代～近代 |
| 3 | 30 ～ 40 | 褐色腐植質火山灰層 | 第 2 層に切られることがある．多量の風化基盤岩起源の黄色～白色凝灰岩礫（10 ～ 5）や富士山起源の橙色微細気孔スコリア礫（5 ～ 1）を含む火山灰質泥層～砂泥層． | 近代～近世．<br>**1707 年：S -25：宝永スコリア層Ho** |
| 4 | 75 ± | 暗褐色火山砕屑物層 | 上下二層に見えることも多い．炭化木片を含むやや腐植質土層．黒色無気孔～微細気孔のスコリアないしはスパターが風化に耐えて残り目立つ．風化したものは粒径が 5 ～ 3mmの橙色スコリアに見える．1590 年（後北条氏の小田原城が陥落，多くの後北条氏系支城に焼却～閉城命令が出された）直後に噴火堆積した富士河村城スコリアＦｊ-Kwの特徴である粒径が数mmに達する斜長石集積岩片や粒径 1 ～ 2mmの輝石結晶を含むことがある． | 中近世<br>**1590 年＋：S -24-10：<br>富士河村城スコリア Fj-Kw**<br>12 ～ 13 世紀：鷹丸尾溶岩流の流出期 |
| 5 | 15 ± | 黄褐色火山砕屑物層 | 本遺跡の南側背後の崖に露出する石英安山岩質凝灰岩の崩落岩塊（1 m以下）を多数含む火山砕屑物質で，黄褐色風化スコリアや黒色～黒集色～黒褐色無気孔～微細気孔スコリアないしはスパターの粒子が含まれている． | 中世～近世<br>937 年以降：S-24-8-2<br>剣丸尾第一溶岩やその後の第二溶岩流出期に噴出したやや堅めのスコリア～スパターが対比候補となる． |
| 6 | 80 ～ 60 | やや腐植質の暗褐色～黒褐色火山砕屑物層 | 本層は全体として腐植が多く，暗褐色～暗黄褐色である．温暖であった古代（飛鳥・奈良・平安時代）の諸層と思われる．厚い部分では下部・中部・上部に三分できる．下部にはごろごろした厚い皮膜で覆われた青黒色スコリア礫（最大 3cm，平均で 1cm の純層が点々と見えることがある．緻密な剥片状岩片（5 ～ 1mm）を含む．本層中のスコリアは直下のスコリアよりも気泡が大きく多い．長柱状気孔束が目立つスコリア多し。貞観の噴出物中には顕微鏡サイズの火山灰～火山礫を含む。 | 古代<br>**864-866 年：貞観の噴火 S-24-8-1**<br>838 年：神津島天上山透明ガラス片等<br>802・800 年：延暦の噴火：檜丸尾第 2 溶岩流<br>S-24-7 Bとﾊ<br>奈良時代の噴火？ S-24-6 期大噴火 |
| 7 | 50 ～ 25 | 明黄褐色火山砕屑物層 | 下半に石英安山岩質基盤岩礫（20 ～ 10），黒色微細気孔スコリア粒子（5 ± 3 ），黒色大気孔スコリア粒子（30 ± ）があり，上部に黒灰色無気孔スコリア粒子（6 ± ）がある．<br>上半には丸くて重い赤褐色スコリア（5 ± ）や黒集色スコリア（10 ～ 5），最上部にスコリア粒子が砕けた赤褐色スコリア質火山砂帯がある．上半部には急激に炭化粒子が増える． | 古墳時代：<br>3 ～ 6 世紀：S-24-3 ～ 5（吉墳寒冷期か？）<br>6 世紀中葉：榛名山二つ岳伊香保 Hr- FP<br>6 世紀初頭：榛名山二つ岳渋川 Hr-FA<br>4 ～ 3 世紀：浅間火山C軽石 |

| 土層番号 | 層厚 cm | 土層の組成や色調など | 構成の詳細 | 推定富士系テフラ層位 |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 30 ～ 40 | 黄褐色火山砕屑物層 | 上部は黒色～チョコ色スコリア (15 ± ) が多い．<br>中部は富士山山頂火口が詰まってしまった大噴火期 ( 湯船第二スコリア ) に相当する赤褐色大気孔の堅い溶結スコリア (7㎜以下) ．<br>下部に橙色大気孔スコリア (2 ±) があり，縄文晩期のＳ -15 以上の富士山中央火口からの連続噴火期のスコリア群に類似する． | 縄文晩期～弥生時代<br>S-24-2：上半は火砕流～溶岩、**北麓側では下半に長柱状気泡が目立つ軽いスコリアあり。**<br>S-15 ～ 21：縄文晩期から弥生時代までの諸層か？<br>※　田口さんは、本層から平安型土師器がでるとする。 |
| 9 上部 | 20 ～ 100 | 褐色火山砕屑物層 | 黒色～チョコ色の大粒スコリア (35 ± ) を含む．本遺跡中央背後の河岸段丘の残片が存在する箇所では，そこからの崩落物質が広がっている．基盤岩の破片 (10 ～ 20) を多量含む．ところにより，直径が数 10 センチに達する巨礫が様々な方向を向いて堆積している．礫同士が接触する箇所は少なく，大半は崩落土の中に礫が，" 浮いている " 状態である． | Ｓ -14 ～ 15 期 (2900 ～ 2500 ｙｒｓＢＰ)<br>Ｓ -14 期の大噴火では，北東麓～北麓にのみ厚く大粒の大気孔スコリア粒子が堆積し，東麓などでは，大気孔大粒スコリアは，一粒～二粒程度しか，認められない．その代わり，東麓では，富士山上方斜面が大崩壊し，**御殿場岩屑流～御殿場泥流**が発生し，御殿場一帯に堰止湖を作った．　本遺跡地域での第９層上部の崩落土は，この時期の本地域山地斜面の強震動による崩落の産物であろう． |
| 9 下部 | 5 ～ 15 | 灰黒色火山砕屑物層 | 下部にごろごろした厚い皮膜で覆われる青黒色スコリア礫 ( 最大4㎝，平均１０ミリ ) の純層が点々と出現する．緻密な剥片状岩片（５～１）をも含む．上方に向けて，火砕流的な様相を呈する部分が現れることがある． | 本層下部は忍野村笹見原遺跡で確認された笹見原スコリアに相当．この層は，模式地のＳ - １１～１２層 ( ３０００～３１００ｙｒｓＢＰ）に相当すると思われる．ほぼ同時期に天城火山カワゴ平軽石ＫＧＰ１・Ⅱが噴出している．本地点でも確認できると思われる． |
| 10 | 20 ～ 40 | 灰黄色火山砕屑物層 | 最下部に新鮮でさらさらした特徴的な赤褐色スコリア，黒紫色スコリアで構成される純層がパッチ状に顕れる．赤黄色熱水変質膜を持つスコリアも含む．粒が揃っている．粒径は最大5㎝，平均１～２㎜である．本層上部は赤色～黒色の緻密な微細気孔スコリア ( 最大径１８ミリ）である．これは模式地の湯船第一スコリアの下半であろう．． | Ｓ -7 ～ 10：天城火山カワゴ平火口噴出のテフラＫＧＰ０を含むかどうか要確認．<br>S-5 ～ 6( 本層の下位に縄文時代中期以前の土器）あり．．広域テフラ伊勢原タフ Is（Ｓ -6-1 ｃ）を含むかどうか要確認． |
| 11 | 35 | 明黄褐色やや粘土質の火山砕屑物層 | 炭化木片が多い．下部は暗褐色～褐色スコリアあり，上部には基盤岩起源の泥岩礫 ( ３０±）を多く含む球形気孔スコリア入り． | Ｓ -1 ～ 4：縄文時代前期～中期前半 |
| 12 | 40 ～ 15 | 暗黄褐色やや粘質火山砕屑物層 | 下部は地層面に対して立った基盤岩起源の破砕円礫 ( １５±）中部には赤褐色細気孔スコリア礫 (7 ± ) を含み，上部にはやや腐植質火山灰層中に赤褐色スコリアが含まれる． | Ｓ -0-5 ～ 6：上部砂泥層には南九州鬼界が島起源の鬼界アカホヤ火山灰Ｋ - Ａｈがあるはず．<br>Ｓ -0-3 ～ 4:箱根火山神山火砕流期の岩片や白色軽石 ( ＣＣＰ -18) があるはず． |
| 13 | 0 ～ 35 | 灰黄色やや粘質河成砂層 | やや風化粘土質で円礫を含む氾濫原性粗砂層 ( 猿橋溶岩（8600 年前）が，本遺跡が立地する笹子川との合流点一帯を堰き止めたために笹子川側に発生した湖（古猿橋湖）に向かう河成堆積物 | Ｓ -0-3 上半<br>桂溶岩流出期 |
| 14 | 40+ | 灰黄色粘質土石流層 | 乱堆積．基盤第三紀層起源の礫（15 ㎝±）から構成される． | Ｓ -0-3 下部<br>猿橋溶岩の大流出期に富士山周辺山地でも，富士山同様に大きな振動があり，斜面崩壊や土石流が発生した可能性がある． |
| 15 | 10+ | 河成砂礫層 | 破砕円磨礫（西から東に向かう古流向を示す古笹子川の堆積物）． | Ｓ -0-2 以下 |

1）　本地点背後の崖の中腹に平坦部（狭い河岸段丘面）があり，直径数 10 センチに達する礫が散在する．この古い河岸段丘を利用して，かっては，用水路があったらしい．そのさらに上方の崖には，山地を構成する新第三紀層（猿橋石英安山岩質凝灰岩層）が露出することがある．
2）　スコリアとは色が濃い（黒色～赤褐色～黄褐色の軽石のことで，当地の場合は，富士火山起源である．スパターとは，火山弾などと呼ばれるもので，軽石やスコリアほどには，空高くは吹き上げられないが，溶岩とは異なり，地表に沿って流れるマグマではない．気泡も軽石やスコリアほどには多くもなく小さいが，熔岩よりは多く大きいことが多い．
3）　火山砕屑物とは，火山から噴出した礫サイズ～砂サイズ～泥サイズの固形粒子の総称．
4）　ｙｒｓＢＰとは，1950 年を基準として，放射性炭素年代を求めたもので，2200 ｙｒｓＢＰとあれば，1950 年を基準として，そこから 2200 年前という意味．時代により幅が異なるが，一定幅の誤差を含む．

藤崎岡遺跡から出土した炭化種実

バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県大月市猿橋町に位置する藤崎岡遺跡は、縄文時代中期の集落遺跡である。ここでは、縄文時代中期の土坑と住居跡から得られた炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物について検討した。なお、同じ遺構から出土した木材の樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

2. 試料と方法

分析試料は、水洗済みの土壌 8 試料である。試料は、縄文時代中期の土坑 SK2（SI1）の炉内（焼土）と SK15 の土器下の土（1･2 層）から採取された各 1 試料、住居跡 SI4 のベルト（炭化物）と炉内（土）、炉内（焼土直上）から採取された各 1 試料、住居跡 SI5 の炉内（焼土）から採取された 2 試料と炉内（炭化物）から採取された 1 試料である。土壌試料の採取および水洗は、昭和測量株式会社によって行われた。水洗量は、表 1 を参照されたい。水洗は、0.5mm の篩を用いて行われた。

炭化種実の同定は、肉眼および実体顕微鏡で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。

3. 結果

同定の結果、木本植物のクリ炭化果実とオニグルミ炭化核の 2 分類群が得られた（表 1）。

表1　藤崎岡遺跡から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

| 試料No. | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構 | | SK2 (SI1) | SK15 | | SI4 | | | SI5 | |
| 層位 | | 炉内（焼土） | 土器下の土（1・2層） | ベルト（炭化物） | 炉内（土） | 炉内（焼土直上） | 炉内（焼土） | 炉内（焼土） | 炉内（炭化物） |
| 時期 | | 縄文時代中期 | | | | | | | |
| 分類群 | 水洗量（g） | 835 | 330 | 210 | 1100 | 280 | 3930 | 1430 | 340 |
| クリ | 炭化果実 | | | | (5) | | | | |
| オニグルミ | 炭化核 | | | | | | | | (2) |
| 備考 | | 種実なし | 種実なし | 種実なし | | 種実なし | 種実なし | 種実なし | |

以下に、出土した炭化種実を遺構別に記載する。

SK2（SI1）：同定可能な炭化種実は得られなかった。

SK15：同定可能な炭化種実は得られなかった。

SI4：炉内（土）からクリがわずかに得られた。

SI5：炉内（炭化物）からオニグルミがわずかに得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版 1 に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠する。

（1）クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　炭化果実　ブナ科

完形ならば側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつくが、残存していない。残存高 4.7mm、残存幅 4.9mm。

（2）オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Komatsu) Kitam.　炭化核　クル

ミ科

完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があるが、残存していない。表面には、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれるが、残存しているのは破片のみである。残存高 11.9mm、残存幅 3.3mm、残存厚 3.7mm。

4．考察

縄文時代中期の住居跡から出土した炭化種実を検討した結果、食用などに利用可能なクリとオニグルミが得られた。

SI4 の炉内からはクリの果実、SI5 の炉内からはオニグルミの核が得られた。クリやオニグルミの子葉は食用となるが、クリの果実やオニグルミの核は食用部位ではないため、殻を剥いた後、不要な果実や核が炉内で燃えて、堆積した可能性が考えられる。

引用文献

米倉浩司・梶田　忠（2003-）BG Plants 和名−学名インデックス（YList），http://ylist.info

スケール 1:1mm, 2:5mm

図版 1　藤崎岡遺跡から出土した炭化種実

1．クリ炭化果実（SI4、炉内（土）、No.4）、2．オニグルミ炭化核（SI5、炉内（炭化物）、No.8）

## 藤崎岡遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

藤崎岡遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、住居跡や土坑から採取された土壌の水洗選別で得られた炭化材である。調査所見から、遺構の時期はいずれも縄文時代中期と推測されている。

樹種同定では、まず試料内から分析可能な大きさの炭化材を抽出した。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

### 3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹のカツラとクリ、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、ハイノキ属ハイノキ節（以下、ハイノキ節）の4分類群が確認された。いずれも形状は破片である。なお、SK2 の No.1 と SK15 の No.2 の 2、SI4 の No.3 の 2 と No.5、SI5 の No.6 と No.7 は、試料が微細で同定不可であった。結果の一覧を表1に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) カツラ　Cercidiphyllum japonicum Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.　カツラ科　図版1　1a-1c（No.8）

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は階段状で、30 段程度となる。放射組織は 1 ～ 3 列幅で、平伏細胞と方形細胞からなる異性である。

カツラは暖帯から温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で靱性があり、加工は容易である。

(2) クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図版1　2a-2c（No.2 の 3）、3a-3c（No.4）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

表2　遺構別の樹種同定結果

| 遺構 | SI4 | | SI5 | | SK15 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 採取位置 | ベルト | 炉内 | 炉内 | 土器下の土 | | | |
| 樹種 / 層位など | 炭化物 | 土 | 炭化物 | 1層上 | 2層 | | 合計 |
| カツラ | | | 1 | | | | 1 |
| クリ | | 1 | | | 1 | | 2 |
| コナラ属コナラ節 | 1 | | | | | | 1 |
| ハイノキ属ハイノキ節 | | | | 1 | | | 1 |
| 合計 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 5 |

(3) コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版1　4a-4c（No.3の1）

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(4) ハイノキ属ハイノキ節　Symplocos sect. Lodhra　ハイノキ科　図版1　5a-5c（No.2の1）

小型で角張った道管が、単独で分布する散孔材である。道管の穿孔は30段程度の階段状で、道管壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は1～5列幅程度で、方形もしくは直立細胞が上下に数個連なる異性である。

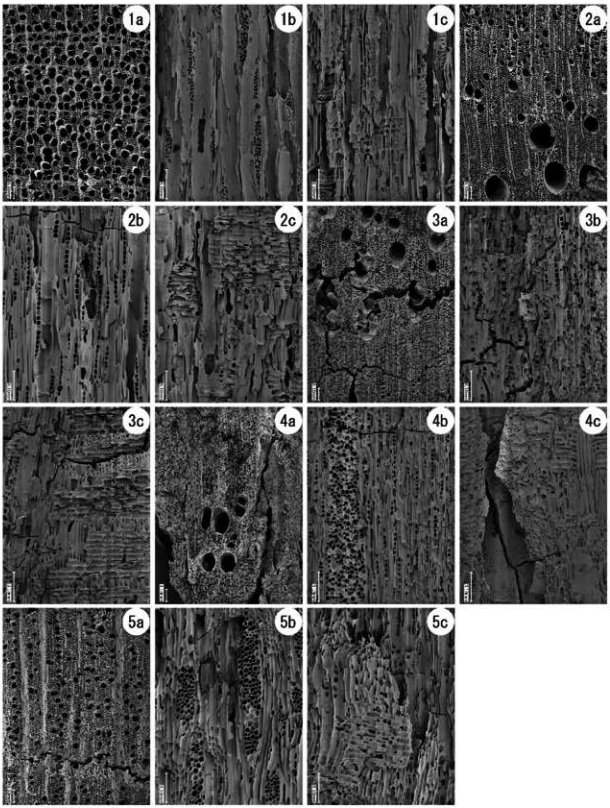
ハイノキ節は主に暖帯から熱帯に分布する常緑の低木または高木で、ハイノキやクロキ、シロバイなど17種がある。材は緻密で、やや堅硬である。

4. 考察

遺構別の樹種同定結果を表2に示す。住居跡では、SI4のベルト出土の炭化材がコナラ節、炉内出土の炭化材がクリ、SI5の炉内出土の炭化材がカツラであった。SK15の土器下の土では、1層上でハイノキ節、2層でクリが確認された。クリとコナラ節、ハイノキ節は重硬な材で、カツラは軽軟な材である。いずれも遺跡周辺に分布する樹種である。用途は不明であるが、炉内出土の炭化材は燃料材と思われる。

参考文献

平井信二（1996）木の大百科．394p，朝倉書店．
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．




図版1　炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c．カツラ（No.8）、2a-2c．クリ（No.2の3）、3a-3c．クリ（No.4）、4a-4c．コナラ属コナラ節（No.3の1）、5a-5c．ハイノキ属ハイノキ節（No.2の1）

a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

# 第8章　まとめ

## 第1節　調査成果

藤崎岡遺跡は桂川右岸の河岸段丘上に位置する。調査地の北東方向には桂川に架かる中央本線の鳥沢鉄橋や、調査地から約1km 弱の桂川左岸には甲州街道、中央高速道が走り交通の要衝であるが、調査地周辺は古の時代からの地形を保っている。

今回の調査によって、遺構は住居址6軒（内2軒は炉址）、土坑 35 基、ピット 131 基、性格が特定できない SX（東西に走る溝状遺構）44 基（条）が検出された。

（1）住居址

住居址は、いずれも縄文時代に属している。検出された軒数は少ないものの調査区全体に分布しており、さらに調査区外に広がっていることは想定できる。

住居址の検出状況は、調査区の2・3区では表土から遺構確認面まで浅いため、削平や切り合いにより残存状況は良くない。

1号、6号住居址は炉址のみの検出である。何れも方形に整形された溶岩が出土しており、被熱痕があることから炉石として使用されたと思われる。炉周辺には土坑・ピットが多く検出されているが住居址に伴うか断定は出来ないが、遺物は何れの炉中からも土器片が出土しており、1号住居址の炉からは中期中葉、6号住居址の炉からは曽利式期の破片が出土している。炉の検出された標高は1号住居址が 333.0m、6号住居址は約 332.5 で約 0.5 mの標高差が認められる。

2号住居址からは配石を伴う土坑が検出された。土坑は土器を伴わず住居址と関連があるか断定はできない。炉は、炉石としては検出されなかったが、炉の上面から土器と石器が出土している。石器は石皿、多孔石、石棒を転用した石皿が出土し割れた（割った）石器も含まれる。石器に被熱の跡は認められない。炉の検出面の標高は約 332.6m。炉内から曽利古段階の土器が出土している。配石を伴う SK27 から土器は出土していない。配石を構成している石器は、炉と同様に石皿、石棒、磨石が出土し割れた（割った）石器も含まれる。SK28 で出土した球体状の石は検出された位置が高く他の配石との関連性は断定できない。SK30 の上面では溶岩が出土している。土坑が2号住居址に伴う施設と考えると、石の出土状況から住居址の廃棄の際の祭祀的な状況が考えられる。

3号住居址は、東は2号住居址、南北は SX に切られている。炉石を伴う炉が検出された。炉の検出面の標高は約 332.9m。1号住居址とほぼ同じ標高である。周溝は2重に巡らせてあり建て替えの可能性がある。石器は出土していない。炉内から曽利新段階に属する土器片が出土している。

1区の4号、5号住居址は遺構検出面まで深いため残存状況が良好であった。

4号住居址は規模の大きな石囲炉が検出された。北と東に位置する炉石の間には磨製石斧が、炉内からは敲石が出土しており祭祀的な状況が考えられる。遺物は覆土や床面から曽利古段階の土器や石皿、磨石、多孔石（穴の周囲にススが付着している）といった生活具が出土している。検出された石囲炉の形状、柱穴の数（調査区内では6基だが調査区外に延びており増える可能性有り）や出土した土器から曽利古段階（曽利Ⅰ～Ⅱ式期）に属すると思われる。さらに、4号住居址西側の調査区壁面から採取したテフラ分析（第7章）は、住居址内から出土した土器の時期を裏付ける結果となった。

5号住居址からは入口と想定される位置で花崗岩製の柱状の立石が検出された。明確な掘方は無いが底は明らかに床面に埋められており、5号住居址に伴うものとして考えて良いと思われる。炉は炉石は残存していなかった。焼土は厚く堆積しており長い間使用されていたことが伺われる。床面からは炉の北東

側で石器類と一括土器の破片が多く出土している。柱穴の数（5基）、出土した土器から曽利の新段階（曽利Ⅳ式期）に属すると思われる。4、5号住居址の炉の検出面の標高は共に約 332.1m である。

住居址の時期は、中期中葉の1号住居址、曽利古段階（曽利Ⅰ～Ⅱ式期）の2号・4号住居址、曽利新段階（曽利Ⅳ式期）の3号・5号住居址、明確には出来ないが曽利式期の6号住居址に分類出来る。調査範囲が限定されておりどのような集落形態であったかまでは断定出来ないが、時期は異なるものの集落として長い期間存在していたと思われる。

（2）土坑・ピット

SK15 は調査区南壁に掛かっていたため土坑全体が検出される位置まで拡張した。土坑の上面からは口縁部を下に向けて、伏せた状況で一括の土器が出土している。土器は胴部下から底部は全く出土していない。土坑の覆土の中～下部の覆土内からは実測出来ない大きさの細片と安山岩製の石が出土している。遺構検出面まで浅いため削平された可能性がある。土器は複数の個体に分かれる。伏せた状態の出土状況が元位置を保っているのかは断定できない。住居の施設だった可能性や土壙墓の可能性も考えられる。

その他、規模の大きい土坑もあり、住居址に伴う遺構の可能性が考えられる。

ピットは3区に集中して検出されており、上面を削平された住居址の柱穴の可能性も有る。掘立柱建物を構成する並びは確認されない。

（3）SX

SXはいずれもほぼ東西に延びている。分布は2・3区に集中している。いずれも地山まで掘りこんであり、地山まで深い1区では検出されない。断面形状は U 字型を呈している。覆土は径 2 ～ 5mm 程度のスコリアを含むか含まない遺構に分類される。形状は溝東端の立ち上がりが底から斜め方向に引きあげる形となっている遺構もあり、当初は重機の掘削痕とも考えていた。遺物は土器片（縄文土器、平安時代の甲斐型土器）が出土しているが混入の可能性があり、時期や性格については不明である。比較的新しい耕作の跡とも考え地元の方々に聞き取りをしたが記憶に無いとのことであった。都留市の山梨原遺跡では同様の溝状遺構が検出されカワラケが出土しているが性格は特定できないとの報告がされている。今後、類例の調査や周辺の調査によって明らかになってくると思われる。

（4）遺物

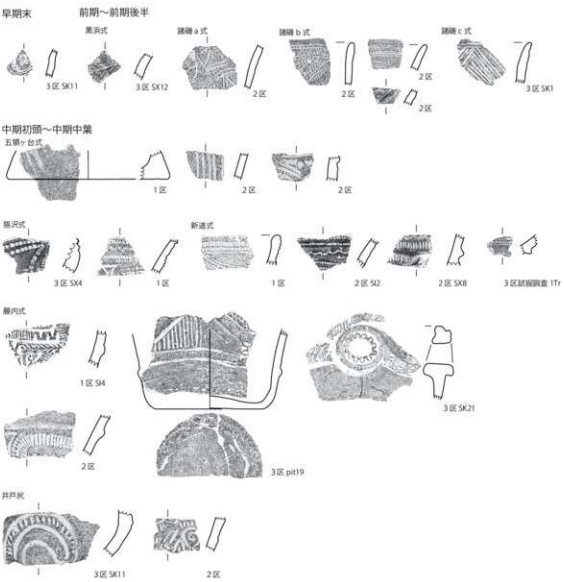
出土した縄文土器の時期は早期末、前期、中期中葉、曽利式、加曽利 E 式、後期の土器が出土している。器種は深鉢、浅鉢、有孔鍔付土器の他、器台形土器が出土し、土製品は土製円盤が出土している。その他、甲斐型土器、平安時代の須恵器の破片が出土している。出土した遺物の集成図を示した。

石器・石材の特徴としては溶岩を利用した石器・石材が比較的多く出土している。近くまで猿橋溶岩が迫って来ており、河原にも溶岩の転石や溶岩塊を見ることが出来る。住居址でも3号住居址以外の住居址から、1・6号住居址では炉石に用いられ、3～5号住居址から溶岩が出土している。調査区内で出土した石器・石材も桂川で採取することが可能であることから磨石や石皿等の材料は豊富であった。

種実分析では、SI4 の炉内からクリ、SI5 の炉内からはオニグルミがわずかに検出されたが、「食用部位ではないことから殻を剥いた後不要な果実や核が炉内で燃えた可能性がある」との結果が出た。樹種分析では SI5 の炉内から炭化したカツラや、その他、コナラ節・ハイノキ節に属する樹木も検出された。

集落は、以上のような植生の中、石材の採取が容易な桂川を見下ろし、想像だが桂川では魚類、森の中には食料として獣や木の実、南西方向にある谷で水を、と生活に必要な物資を容易に得ることの出来る環境の中で何世代にも亘って集落は営まれていたと思われる。

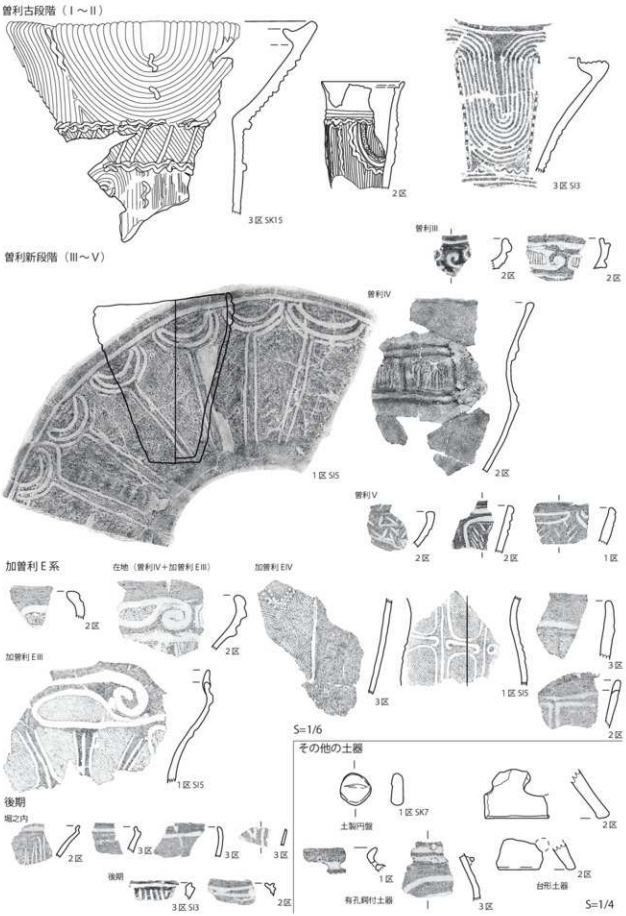
今後の課題としては、出土した土器の属する縄文時代早期、前期、中期中葉、後期の遺構（集落）が




第 77 図　土器集成図（早期～中期中葉）

周辺にある可能性、集落の形態、SX の性格などまだまだ検討課題は多い。

大月市内としては調査の空白区域にあたる藤崎岡遺跡の調査は、周辺の遺跡の調査結果を点から線に結ぶことを可能にした点で大きな成果を得たと言える。




第 78 図　土器集成図（曽利式・加曽利Ｅ系、後期、その他の土器）

## 第2節　藤崎岡遺跡の立地と課題

### 1　立地上の特徴

#### （1）　周辺景観

藤崎岡遺跡は大月市猿橋町藤崎字岡に位置する。遺跡は西方から桂川に向かって緩やかに傾斜する尾根の標高331㍍の箇所に位置する。桂川との比高差は約60mである。谷を隔てて南西方向には標高549㍍の太田山がそびえる。ちょうど遺跡から望むとピラミッドのような三角形をなしている（写真1）が、少しはずれるとその趣はなくなる。このような位置関係が集落形成にも関わったのであろうか。

写真1　SI4と太田山

遺跡から北東方向を望むと、桂川の谷を隔てて扇山の整った形状が眺望できる。その左に位置する百蔵山は手前の丘に隠れてしまい、遺跡からは直接望めない。桂川の河原に下りると北方にその勇姿がそびえる。

このような立地上、本遺跡では東方への展望が優れており、特に桂川から現在の鳥沢方面の段丘や山々を眺望することができる。入り口部が推定できる本遺跡の住居が東方を向いていることの意味の一つに、このような眺望環境をあげることができるのではないだろうか。

今回の調査区は尾根の東斜面にあたり、この尾根を東に約20㍍下ると段差が付き、再び平坦な尾根になる。この平坦な箇所は幅100㍍、長さ150㍍程広さがあり、東端は桂川の氾濫原に落ち込む崖となり、河岸段丘の状況をなしている。地元の方の話ではこの平坦地からも土器が出土するという。今回の調査区との時期関係について今後の調査に期待される。

なお住居覆土や炉内堆積土の水洗選別により炭化物を抽出し、パレオ・ラボに同定をお願いした。その成果は第7章に記してあるが、4号住居炉からクリ炭化種実、5号住居炉からオニグルミ炭化核が出土した。またコナラ、クリ、カツラ、ハイノキなどの炭化材も確認されている。集落周辺には、クリ・オニグルミ・コナラなどの堅果類の実る落葉広葉樹や材を利用するカツラに加え、常緑樹のハイノキ節の樹木などが茂っていたことがわかる。

#### （2）桂川との関わり

遺跡の東400㍍を桂川が流れる。山中湖を源流として富士北麓を北から東へと下り、県境を越え相模川となって相模湾に注ぐ。富士吉田市から都留市を経て大月市に至るまでは概ね北東方向に流下するが名勝猿橋を過ぎて蛇行後は東流し、藤崎地区に入り南方向となりやがて本遺跡を過ぎると再び東流から蛇行を繰り返す。このような蛇行によって両岸の台地をえぐり、何面かの河岸段丘を形成している。本遺跡前面の左岸崖面には緑色角礫凝灰岩（グリーンタフ）や四万十層群とみられる堆積層が露出しており、第1章にて輿水達司氏が詳しくふれた地質環境に接することができる。また約8,000年前に富士山から流下した猿橋溶岩は、本遺跡の北約1㌔㍍の右岸にまで達していることが『山梨県の地質図』に記載されている（山梨県地質図編纂委員会1970）。大月市教育委員会の試掘調査ではさらに近い500m上流の地点からも溶岩が確認されている（大月市教育委員会稲垣自由氏教示）。

写真2　遺跡直下の桂川河原

河原は緑色角礫凝灰岩、粘板岩、花崗岩、安山岩など多種の転石に満ちている。特に猿橋溶岩とみられる円礫は多く、一抱え以上もある大きな転石もみられる。遺跡から出土した石器・石製品の多くもここから採取が可能であり、小形の溶岩転石も遺跡に持ち込まれている。但し、炉石などに用いられた溶岩は角張っていることから、500 m～1 km上流の右岸に露出していた猿橋溶岩流先端部の溶岩を用いたものと考えられる。以上のように、本遺跡と桂川とは大変密接な関係にあったことが窺われる。

2　桂川流域の遺跡分布と富士山噴火

藤崎岡遺跡は桂川中流域に所在するが、富士北麓から県境の上野原市にいたる上・中流域には多くの遺跡が知られている。この地域における遺跡群を富士山の火山活動との関係でとらえた奈良泰史氏の研究（奈良 1984）では、中期 238 遺跡中初頭 41、中葉 90、後葉 107、そして後期 72（初頭 39、中葉 26、末葉 7）という数値が示されている。30 年以上前のデータであるものの、その後の増加を加えても傾向に大きな変化はないものと思われる。この成果では中期中葉に遺跡が増加して、後葉には最大に達しており、甲府盆地方面と同じ傾向にあることがわかる。この増加数は富士山麓というよりも中流域（都留市・大月市）、下流域（上野原市）での増加であり、後葉に関しては中流域での増加が顕著で特に曽利Ⅲ式期までの増加が著しいという。

この中期後葉期における遺跡の増加については、静岡・山梨を含めた富士山麓の遺跡数を整理した篠原武氏の成果がある（篠原 2016）。全体の傾向は奈良氏の成果と変わらないが、曽利式期の増減をみるとやや減少したⅢ式期から、Ⅳ期・Ⅴ期と一気に増加することがとらえられており、甲府盆地よりも八ヶ岳山麓に類似するようだ（櫛原 1999）。篠原氏の対象とした地域に猿橋地区は含まれていないが、藤崎岡遺跡にてもⅣ・Ⅴ期の遺構や土器が目立っている。

奈良氏は富士山の火山活動が遺跡の増減に関わるとして、中期後葉から末葉の間の大規模な爆発的噴火をあげている。曽利のどの段階での出来事かが問題となるが、篠原氏のいう「曽利のスコリア」がこの解明に大きくかかわっている。曽利のスコリアとは曽利Ⅲ式からⅣ式段階に降下したとされる火山灰である。篠原氏は富士吉田市上中丸遺跡、西桂町宮ノ前遺跡 3 号住居、都留市久保地遺跡 1 号、12 号住居の土器から曽利Ⅳ式期に降下したスコリアと判断した（篠原 2016）。加えて大月遺跡の事例からはⅢ式にまでさかのぼるのかあるいは別の火山灰かという課題を提起している。

今回の藤崎岡遺跡の調査では、第 7 章で報告されたとおり曽利Ⅱ式期の 4 号住居上面の土層にてスコリアが確認されているものの、Ⅳ式の 5 号住居には認められていない。このことから本遺跡にもスコリアが降ったもののその時期は 4 号が完全に埋没した時期であるとともに、5 号が営まれる以前ということになる。降下時期としてはⅢ式期からⅣ式期の古い段階としておく。

本遺跡から富士山を遠望することはできないが、このように噴火の影響は受けていることになる。本遺跡のスコリアについては上杉陽氏に分析を依頼し、従来の曽利Ⅳ式からⅣ式期に認められるスコリア（S5・S6）と同質であるという報告を戴いた。詳細は第 7 章のとおりである。

3　周辺の遺跡とのかかわり

今回の調査区では 6 軒の住居が確認されている。本章第 1 節のとおり中期中葉 1 軒を除き、他は曽利式期であり、特にⅡ～Ⅳ式が顕著である。しかし出土した土器からみると、五領ヶ台式から井戸尻式期という中期前半期も目立つことから、継続性のある集落であったとみられる。なお曽利式期の住居について全形をとどめるものは少ないが、それでも炉の位置や柱穴を含めた住居構造について新旧段階での差異を認めることができる。

ここで周辺の遺跡にもふれておこう。この一帯の大きな遺跡としては大月遺跡がある。曽利期を通して住居が確認されているが特に後半期に特徴があり、V式段階の敷石住居は特記すべきである。曽利のスコリア降下後も集落は発展しており、後期前葉にまで継続する。また本遺跡の桂川を隔てた北方1.5㎞の対岸には曽利新段階の住居が調査されている宮谷遺跡があり、後期前葉の土器も出土する。奈良氏・篠原氏ともに曽利後半期にくらべ後期の遺跡は減少するものの堀之内式期までは高い比率にあり、加曽利B式期以降になって急減の一途をたどるとしている。

このような傾向がある中で、本遺跡の下流約3㌔には中期前半以降曽利式期をへて加曽利B式期までの遺構が発掘された塩瀬下原遺跡がある。桂川に面した中位段丘面に位置しており、晩期終末浮線文期の土器も出土している。

藤崎岡遺跡の今回の調査でも後期堀之内式期の土器はわずかではあるが出土している。大月遺跡・宮谷遺跡・塩瀬下原遺跡ともに後期に継続する遺跡であり、桂川中・下流域の河岸段丘上には曽利式期後半から後期につづく遺跡が点在することになる。しかし塩瀬下原遺跡にて、さらに減少傾向にある後期中頃や晩期の遺物も発見されていることは、後期中葉以降の立地を考える上で重要である。国中地域を始め全国的にも後期中頃以降は低地を取り込むような立地に遺跡が形成される傾向が認められている。桂川流域でも水面に近い段丘上に後期から晩期の遺跡が立地する可能性はある。本遺跡でも下位の段丘が桂川の崖まで延びており、この平坦地に後期の遺構が存在することも考えられ、今後の調査に期待したい。

なお、本遺跡から12㎞上流には大環状配石が築かれた都留市牛石遺跡がある。曽利V式を中心とした時期の配石であるが、本遺跡も含めたこの流域の遺跡との関係も課題といえよう。


報告書参考文献
寺内隆夫 1984「角押文を多用する土器群について」『下総考古学 7』
大村　裕 1984「所謂「角押文」と「キャタピラー文」の違いについて」『下総考古学 7』
「特集　勝坂式土器の研究」1985『下総考古学 8』
奈良泰史 1984「山梨県東部（桂川流域）における縄文時代遺跡群の研究」－富士山の火山活動と
櫛原功一 1999『縄文時代の住居と集落』『山梨県史』資料編 2
篠原　武 2016『縄文人が目撃した富士山噴火』ふじさんミュージアム
『シンポジウム縄文集落研究の新地平－勝坂から曽利へ－　発表要旨』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004
「第 2 章　縄文時代『山梨県史』資料編 1　原始・古代 1 1998
「第 2 部第 1 章　道具としての遺物」『山梨県史』資料編 2 1999
「第 2 部第 2 章　山梨県の考古学編年 2．縄文時代の編年」『山梨県史』資料編 2 1999
遺跡―『山梨考古』14 号　山梨県考古学協会
山梨県地質図編纂委員会 1970『山梨県の地質図』
神奈川考古同人会 1980『神奈川考古第 10 号　シンポジウム'80　縄文時代中期後半の諸問題－とくに加曽利 E 式と曽利式土器との関係について－』
『山梨県大月市宮谷遺跡発掘調査報告』大月市教育委員会 1973.2
『岩殿中倉遺跡発掘調査報告』大月市教育委員会 1974.3
『大月市御所遺跡』山梨県教育委員会　建設省関東地方建設局甲府工事事務所 1998.3
『大月市大月遺跡（1）』山梨県教育委員会 1977.
『大月遺跡（Ⅱ）』山梨県埋蔵文化財センター 1992.3
『大月遺跡』山梨県埋蔵文化財センター 1997.3
『大月遺跡第 7・8 次調査』山梨県埋蔵文化財センター 2000.3
『大月遺跡（第 10 次調査）』山梨県埋蔵文化財センター 2000.3
『大月遺跡（第 11 次調査）』大月市教育委員会　昭和測量株式会社 2015.3
『塩瀬下原遺跡発掘調査概報』山梨県埋蔵文化財センター 1999.3
『塩瀬下原遺跡（第 4 次調査）』山梨県埋蔵文化財センター 2001.3
『太田ヶ原遺跡発掘調査報告書』大月市教育委員会　大月市遺跡調査会 2001.6
『総覧縄文土器』2008